

自動車運送事業に係る交通事故対策検討会報告書(令和元年度)

[第1分冊]

事業用自動車の交通事故統計(平成30年版)

令和2年1月

国土交通省自動車局

自動車運送事業に係る交通事故対策検討会

< 目 次 >

1. 事故全体の傾向	1
1-1. 交通事故全体の推移	1
1-2. 自動車事故件数の推移	4
1-3. 自動車事故死者数の推移	8
1-4. 自動車死亡事故件数の推移	12
1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移	16
1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故	18
1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故	20
1-8. 業態別時間帯別の交通事故	22
1-9. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故	24
2. バスの事故	26
2-1. 乗合バスの事故	28
2-2. 貸切バスの事故	44
3. タクシーの事故	56
4. トラックの事故	68
5. まとめ	88
附録. 事業用自動車の交通事故統計（平成30年版）	

【凡 例】

1. 「交通事故」とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両等及び列車の事故によって起こされた事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの（人身事故）をいう。物損事故については計上していない。
2. 「自動車事故」とは、交通事故のうち、自動車及び軽自動車の交通によって起された事故をいう。
3. 「自動車事故」は、「事業用自動車」の事故と、「自家用自動車」の事故に分けられる。うち、「自家用自動車」とは、乗用車（バス、マイクロ、普通乗用車、軽乗用車）及び、貨物車（大型貨物、中型貨物、準中型貨物、普通貨物、軽貨物、トレーラー）を合わせたものをいう。
4. 「死亡」（「死者」）とは、交通事故によって、発生から24時間以内に亡くなった場合（人）をいう。
5. 「重傷」（「重傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）以上の治療を要する場合（人）をいう。
6. 「軽傷」（「軽傷者」）とは、交通事故によって負傷し、1ヶ月（30日）未満の治療を要する場合（人）をいう。
7. 「負傷」（「負傷者」）とは、「重傷」（「重傷者」）と「軽傷」（「軽傷者」）の合計をいう。
8. 「貨物自動車」の分類は道路交通法に基づくものとする。
 - 大型　：車両総重量11トン以上、または最大積載量6.5トン以上
 - 中型　：車両総重量7.5トン以上11トン未満、または最大積載量4.5トン以上6.5トン未満
 - 準中型：車両総重量3.5トン以上7.5トン未満、または最大積載量2トン以上4.5トン未満
 - 普通　：車両総重量3.5トン未満、または最大積載量2トン未満
 - 軽　　：貨物自動車のうち、軽自動車であるもの

1. 事故全体の傾向

1-1. 交通事故全体の推移

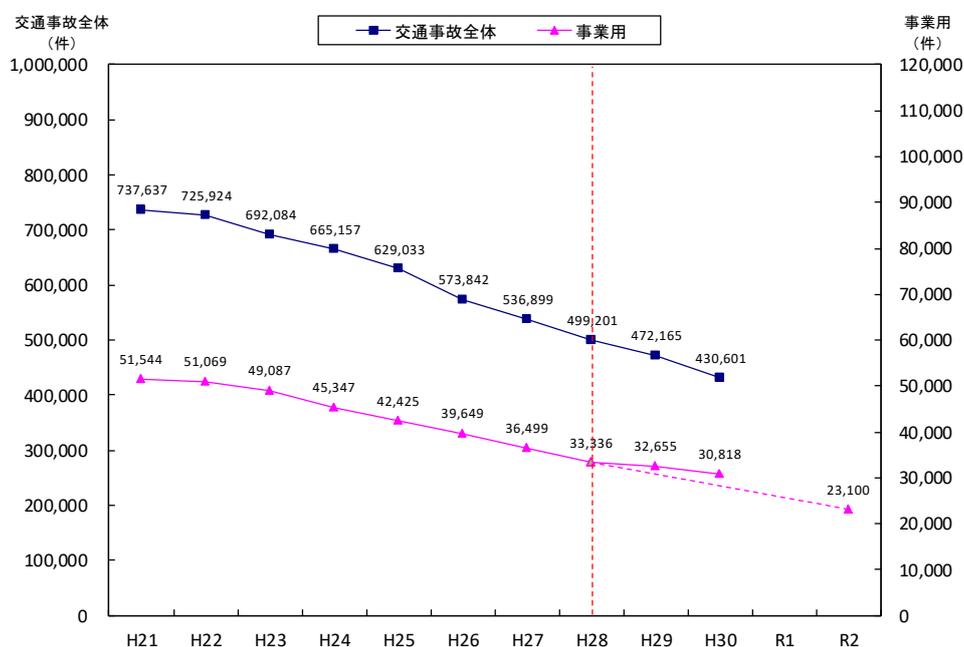
自動車に加え、二輪車や自転車等を含む「交通事故全体」と、「事業用自動車」の交通事故の推移を、「交通事故件数」、「交通事故死者数」、「交通死亡事故件数」の3つで比較した。

(1) 交通事故件数の推移

平成30年中に全国で発生した交通事故全体の件数は430,601件であり、そのうち、事業用自動車は30,818件となった。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020（平成29年6月）」において、平成32年(令和2年)までに人身事故件数を23,100件以下とする削減目標が示されている。

〔図1〕 交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表1〕 交通事故件数の推移 (件)

年	交通事故件数	
	交通事故全体	事業用
H21	737,637	51,544
H22	725,924	51,069
H23	692,084	49,087
H24	665,157	45,347
H25	629,033	42,425
H26	573,842	39,649
H27	536,899	36,499
H28	499,201	33,336
H29	472,165	32,655
H30	430,601	30,818

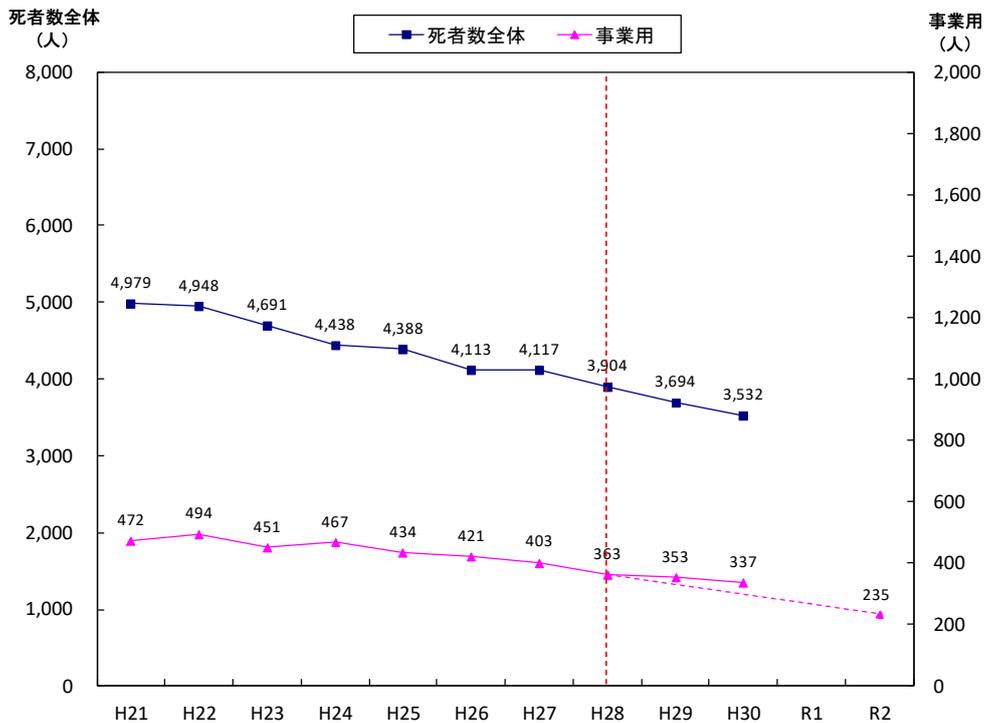
出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 交通事故死者数の推移

平成30年中に全国で発生した交通事故全体における死者数は3,532人であり、そのうち、事業用自動車での交通事故死者数は337人となっている。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020」において、平成32年(令和2年)までに事業用自動車での死者数を235人以下とする削減目標が示されている。

〔図2〕 交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表2〕 交通事故死者数の推移 (人)

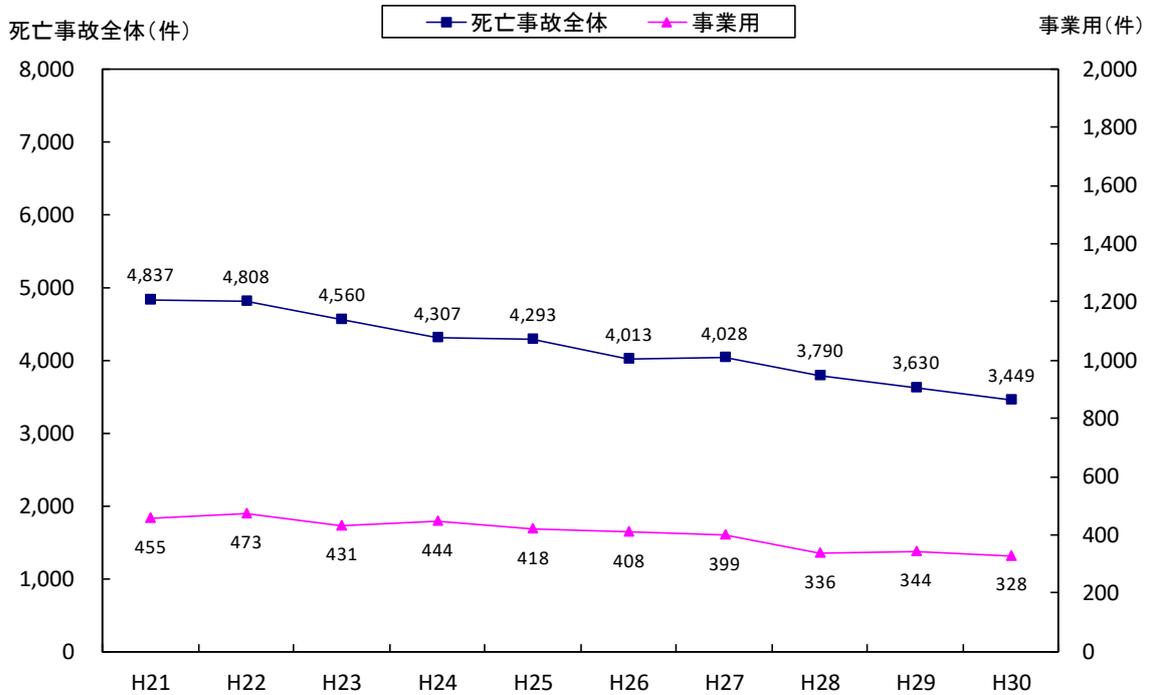
年	区分	死者数	
		死者数全体	事業用
H21		4,979	472
H22		4,948	494
H23		4,691	451
H24		4,438	467
H25		4,388	434
H26		4,113	421
H27		4,117	403
H28		3,904	363
H29		3,694	353
H30		3,532	337

出典：警察庁「交通統計」
(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 交通死亡事故件数の推移

平成30年中に全国で発生した交通死亡事故全体の件数は3,449件であり、前年と比べて181件減少している。そのうち、事業用自動車は328件となっており16件減少している。

〔図3〕 交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表3〕 交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	死亡事故件数	
		死亡事故全体	事業用
H21		4,837	455
H22		4,808	473
H23		4,560	431
H24		4,307	444
H25		4,293	418
H26		4,013	408
H27		4,028	399
H28		3,790	336
H29		3,630	344
H30		3,449	328

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

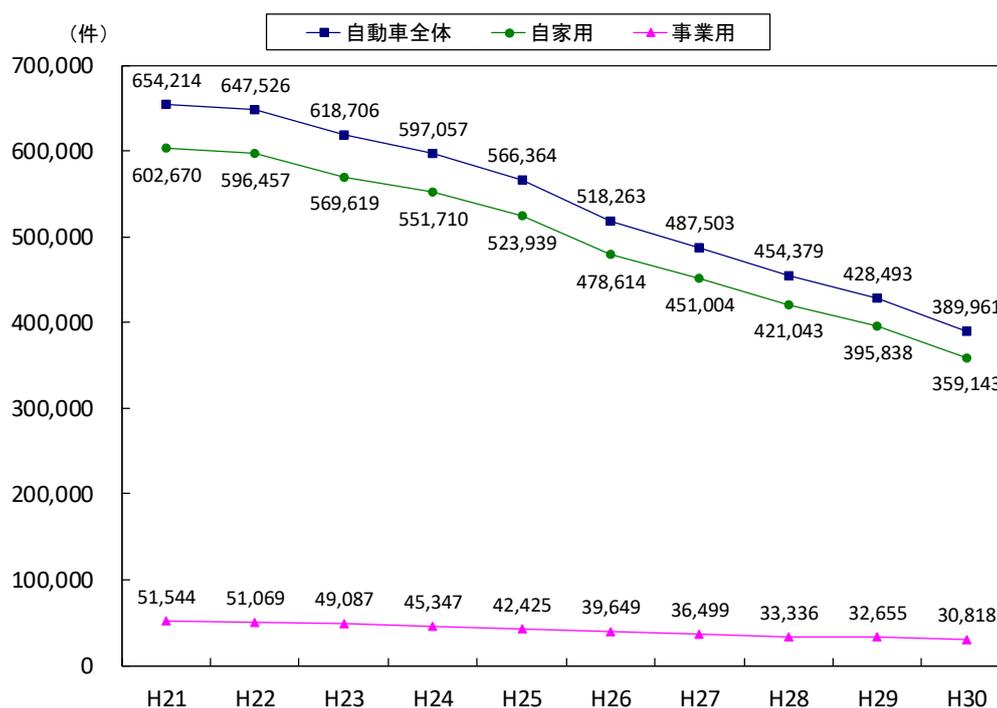
1-2. 自動車事故件数の推移

「事業用自動車」「自家用自動車（自家用のバス、乗用車及びトラックをいう。以下同じ）」及び「自動車全体（事業用自動車と自家用自動車を合わせたものをいう。以下同じ）」について、「交通事故件数」「交通事故死亡者数」「交通死亡事故件数」の3つを比較した。

(1) 自動車事故件数の推移

平成30年中に全国で発生した自動車全体の交通事故件数は389,961件であり、そのうち、自家用自動車は359,143件、事業用自動車は30,818件となっている。

〔図4〕 自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表4〕 自動車事故件数の推移 (件)

年	自動車全体	自家用	事業用
H21	654,214	602,670	51,544
H22	647,526	596,457	51,069
H23	618,706	569,619	49,087
H24	597,057	551,710	45,347
H25	566,364	523,939	42,425
H26	518,263	478,614	39,649
H27	487,503	451,004	36,499
H28	454,379	421,043	33,336
H29	428,493	395,838	32,655
H30	389,961	359,143	30,818

出典：警察庁「交通統計」

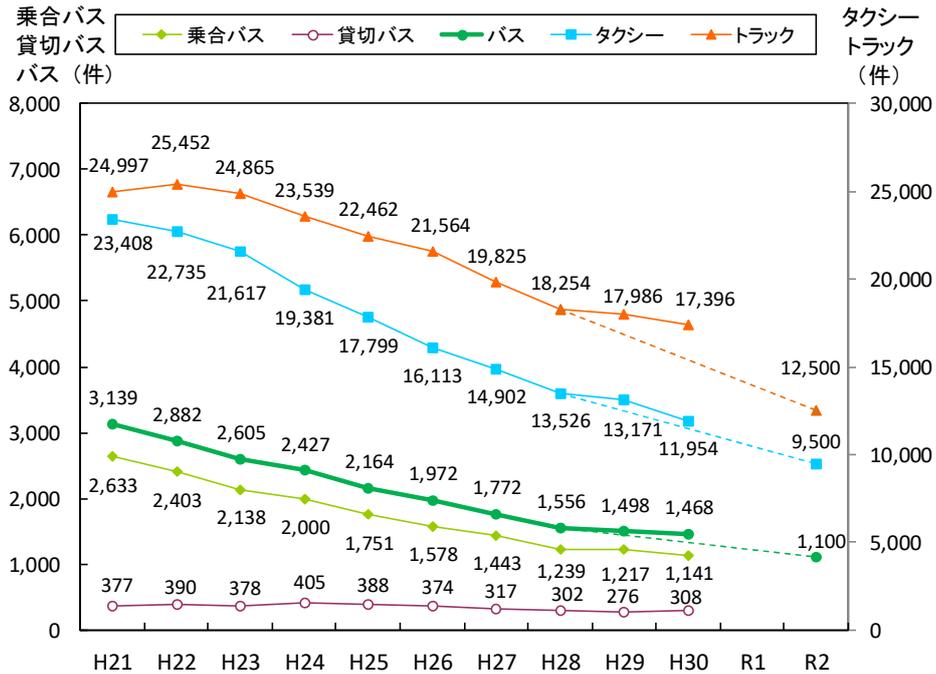
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

事業用自動車の交通事故件数を業態別にみると、平成30年は貸切バスとその他バスを除き減少し、タクシーが約9%減少している。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020」において、平成32年(令和2年)までに、バスの事故件数を1,100件以下、タクシーの事故件数を9,500件以下、トラックの事故件数を12,500件以下とする削減目標が示されている。

〔図5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表5〕 事業用自動車の業態別交通事故件数の推移（件）

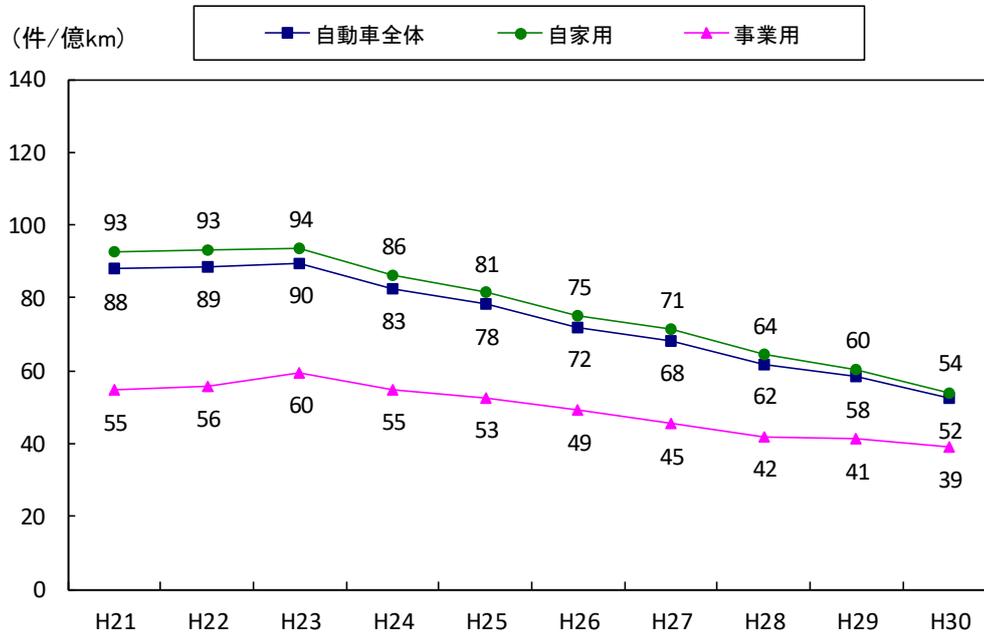
年	区分	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H21		2,633	377	129	23,408	24,997
H22		2,403	390	89	22,735	25,452
H23		2,138	378	89	21,617	24,865
H24		2,000	405	22	19,381	23,539
H25		1,751	388	25	17,799	22,462
H26		1,578	374	20	16,113	21,564
H27		1,443	317	12	14,902	19,825
H28		1,239	302	15	13,526	18,254
H29		1,217	276	5	13,171	17,986
H30		1,141	308	19	11,954	17,396

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移

自動車全体、自家用、事業用いずれも全体的に減少傾向にある。事業用自動車は平成26年に50件/億kmを割り込み、減少傾向となっている。

〔図6〕 走行距離1億キロあたり自動車事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表6〕 走行距離と自動車事故件数の推移

年	区分	事故件数(件)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H21		654,214	602,670	51,544	7452.1	6508.9	943.2
H22		647,526	596,457	51,069	7312.0	6394.3	917.7
H23		618,706	569,619	49,087	6909.5	6085.6	823.9
H24		597,057	551,710	45,347	7234.0	6405.5	828.5
H25		566,364	523,939	42,425	7249.1	6441.5	807.6
H26		518,263	478,614	39,649	7200.8	6392.3	808.5
H27		487,503	451,004	36,499	7137.1	6332.5	804.7
H28		454,379	421,043	33,336	7345.8	6548.7	797.1
H29		428,493	395,838	32,655	7354.2	6560.7	793.5
H30		389,961	359,143	30,818	7451.7	6660.2	791.5

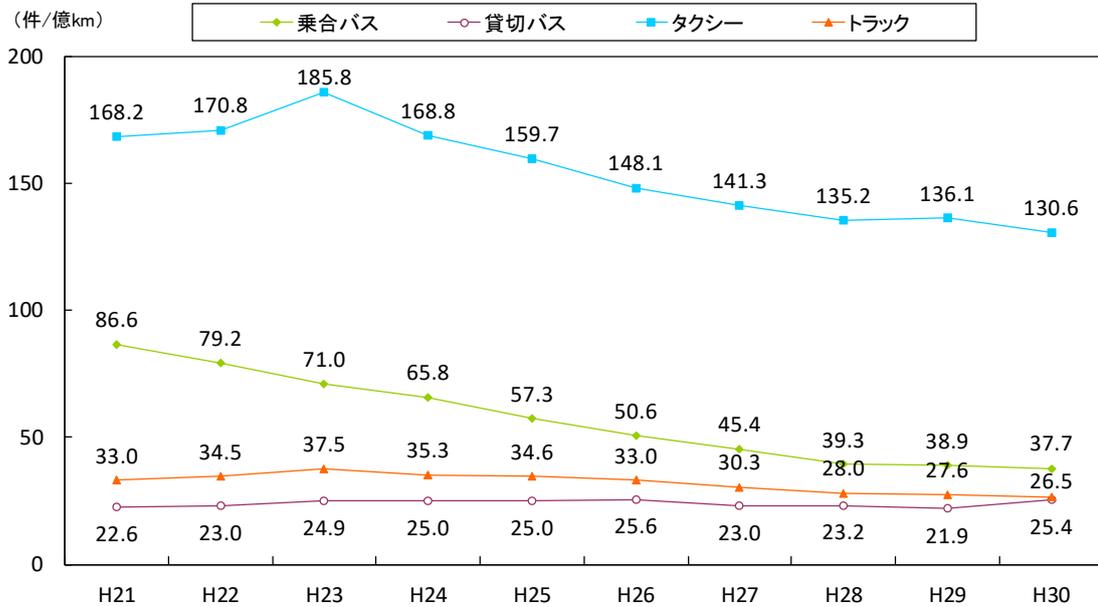
注：走行距離（営業用バスを除く。）の調査については、平成22年より、「自動車輸送統計調査」から、「自動車燃料消費量調査」に移管し、調査方法及び集計方法が変更となっている。このため、平成21年以前の数値とは、時系列上の連続性が担保されない。
 (走行距離に関する統計については、以下同様)

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移

走行距離あたりの事故件数はタクシーが突出して多いが、減少傾向となっている。他の業態については、近年横ばい傾向となっている。

〔図7〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表7〕 事業用自動車の業態別走行距離と交通事故件数の推移

区分 年	事故件数(件)							走行距離(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス			タクシー	トラック	自動車全体
	乗合	貸切	その他					乗合	貸切				
H21	3,139	2,633	377	129	23,408	24,997	654,214	47.1	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	2,882	2,403	390	89	22,735	25,452	647,526	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	2,605	2,138	378	89	21,617	24,865	618,706	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	2,427	2,000	405	22	19,381	23,539	597,057	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	2,164	1,751	388	25	17,799	22,462	566,364	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	1,972	1,578	374	20	16,113	21,564	518,263	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	1,772	1,443	317	12	14,902	19,825	487,503	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	1,556	1,239	302	15	13,526	18,254	454,379	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8
H29	1,498	1,217	276	5	13,171	17,986	428,493	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7354.2
H30	1,468	1,141	308	19	11,954	17,396	389,961	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6	7451.7

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

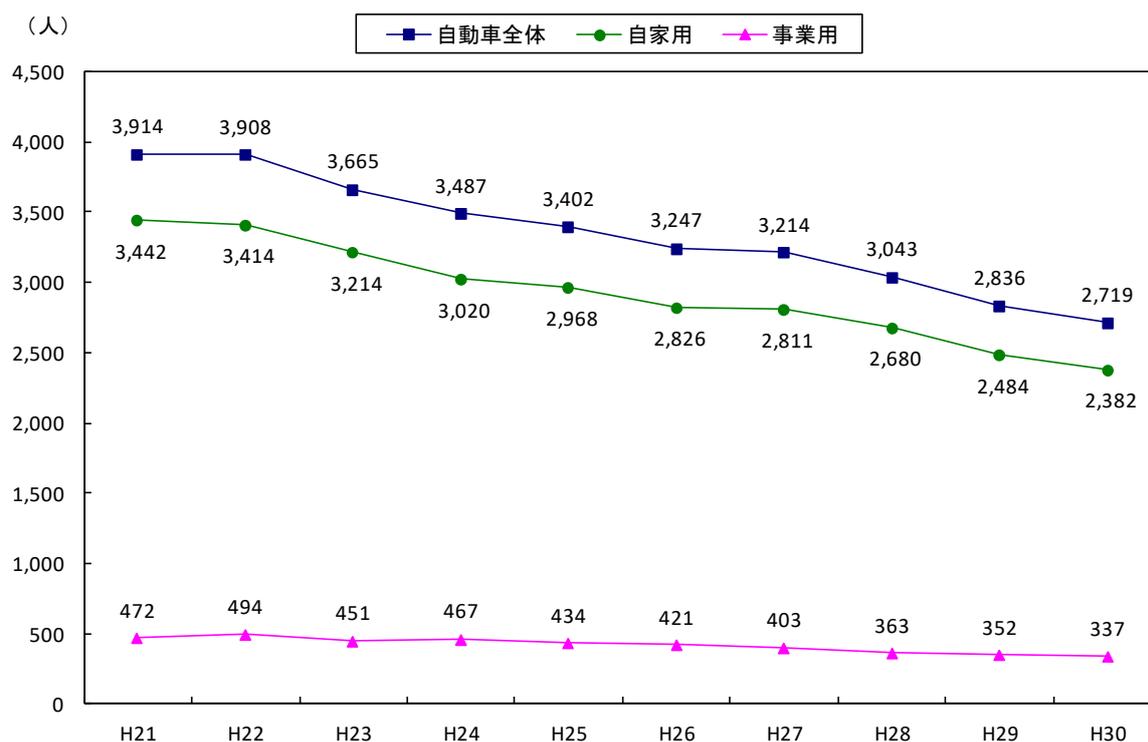
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

1-3. 自動車事故死者数の推移

(1) 自動車事故死者数の推移

平成30年中に全国で発生した自動車全体の交通事故死者数は2,719人である。そのうち、事業用自動車は337人であり、平成30年は前年より15人減少している。

〔図8〕 自動車事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表8〕 自動車事故死者数の推移 (人)

年	自動車全体	自家用	事業用
H21	3,914	3,442	472
H22	3,908	3,414	494
H23	3,665	3,214	451
H24	3,487	3,020	467
H25	3,402	2,968	434
H26	3,247	2,826	421
H27	3,214	2,811	403
H28	3,043	2,680	363
H29	2,836	2,484	352
H30	2,719	2,382	337

出典：警察庁「交通統計」

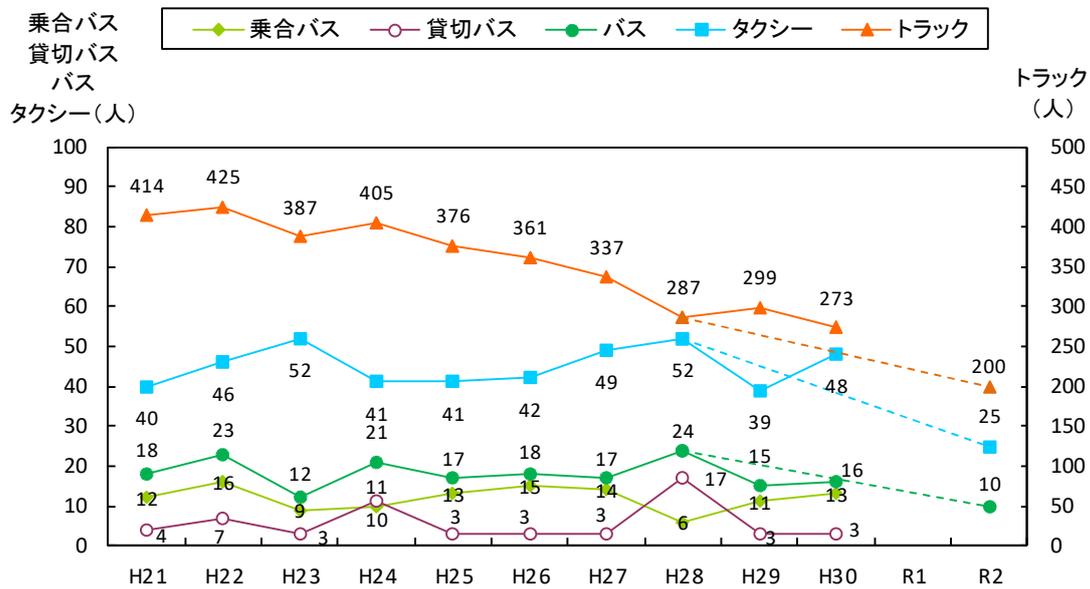
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

事業用自動車の交通事故死者数を業態別にみると、トラックによる交通事故死者数が大半を占めている。平成30年の交通事故死者数は、トラックが減少、タクシーが増加した。乗合バスは平成28年に減少したものの、横ばい傾向、貸切バスは関越道における高速ツアーバス事故があった平成24年、軽井沢スキーバス事故があった平成28年に増加したものの、横ばい傾向となっている。

なお、事業用自動車については、「事業用自動車総合安全プラン2020」において、平成32年(令和2年)までに、バスの交通事故死者数を10人以下、タクシーの交通事故死者数を25人以下、トラックの交通事故死者数を200人以下とする削減目標が示されている。

〔図9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表9〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移 (人)

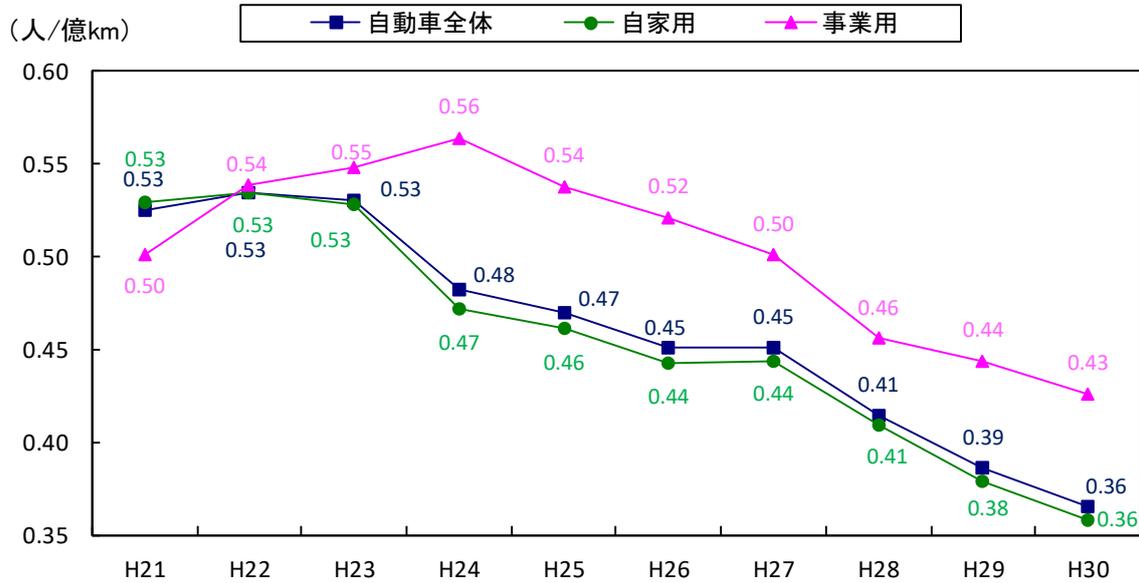
年	バス	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H21	18	12	4	2	40	414
H22	23	16	7	0	46	425
H23	12	9	3	0	52	387
H24	21	10	11	0	41	405
H25	17	13	3	1	41	376
H26	18	15	3	0	42	361
H27	17	14	3	0	49	337
H28	24	6	17	1	52	287
H29	15	11	3	1	39	299
H30	16	13	3	0	48	273

出典：警察庁「交通統計」
 (公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移

走行距離あたりの自動車事故死者数は、自動車全体では減少傾向にある。事業用は平成24年から減少傾向となっている。

〔図10〕 走行距離1億キロあたり自動車事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表10〕 自動車事故死者数と走行距離の推移

年	区分	死者数(人)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H21		3,914	3,442	472	7452.1	6508.9	943.2
H22		3,908	3,414	494	7312.0	6394.3	917.7
H23		3,665	3,214	451	6909.5	6085.6	823.9
H24		3,487	3,020	467	7234.0	6405.5	828.5
H25		3,402	2,968	434	7249.1	6441.5	807.6
H26		3,247	2,826	421	7200.8	6392.3	808.5
H27		3,214	2,811	403	7137.1	6332.5	804.7
H28		3,043	2,680	363	7345.8	6548.7	797.1
H29		2,836	2,484	352	7354.2	6560.7	793.5
H30		2,719	2,382	337	7451.7	6660.2	791.5

出典：警察庁「交通統計」
 (公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
 国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

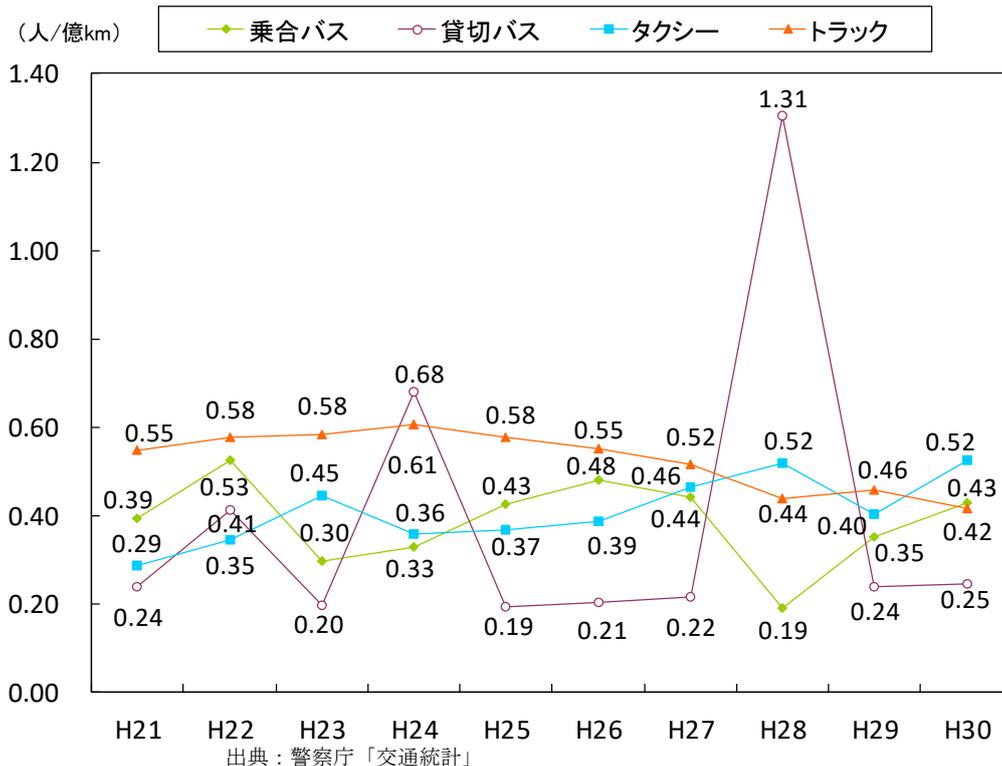
(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移

走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数は、前年より乗合バス、貸切バス、タクシーは増加、トラックは減少している。

※貸切バスの平成24年は関越道における高速ツアーバス事故の影響により増加

※貸切バスの平成28年は軽井沢スキーバス事故の影響により増加

〔図11〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通事故死者数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表11〕 事業用自動車の業態別交通事故死者数と走行距離の推移

区分 年	死者数(人)						走行距離(億km)						
	バス 乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	自動車 全体	バス 乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車 全体		
H21	18	12	4	2	40	414	3,914	47.1	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	23	16	7	0	46	425	3,908	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	12	9	3	0	52	387	3,665	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	21	10	11	0	41	405	3,487	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	17	13	3	1	41	376	3,402	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	18	15	3	0	42	361	3,247	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	17	14	3	0	49	337	3,214	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	24	6	17	1	52	287	3,043	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8
H29	15	11	3	1	39	299	2,836	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7354.2
H30	16	13	3	0	48	273	2,719	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6	7451.7

出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

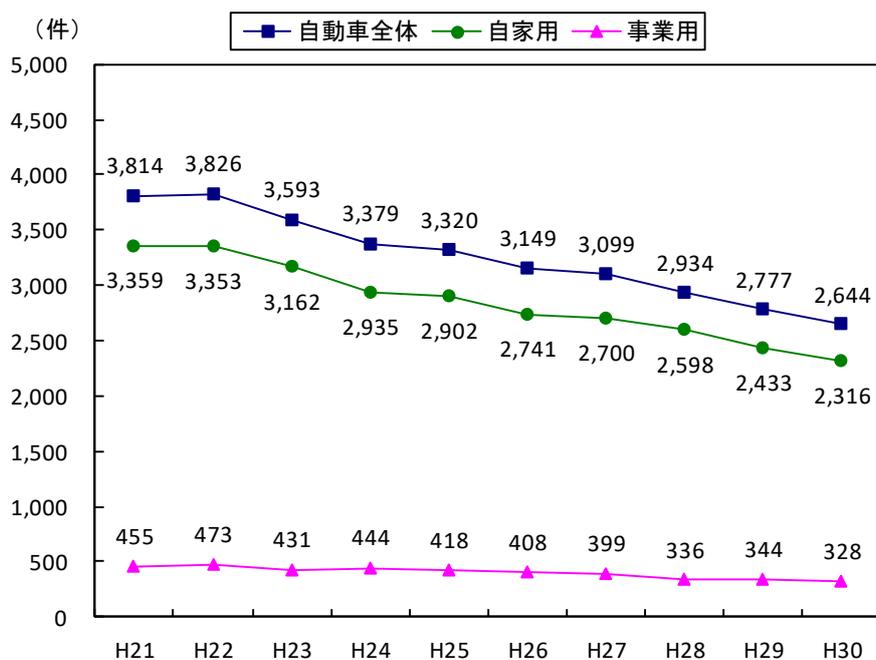
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

1-4. 自動車死亡事故件数の推移

(1) 自動車死亡事故件数の推移

平成30年中に全国で発生した自動車全体の交通死亡事故件数は2,644件であり、そのうち、自家用自動車は2,316件、事業用自動車は328件となっている。

〔図12〕 自動車死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表12〕 自動車死亡事故件数の推移 (件)

年	自動車全体	自家用	事業用
H21	3,814	3,359	455
H22	3,826	3,353	473
H23	3,593	3,162	431
H24	3,379	2,935	444
H25	3,320	2,902	418
H26	3,149	2,741	408
H27	3,099	2,700	399
H28	2,934	2,598	336
H29	2,777	2,433	344
H30	2,644	2,316	328

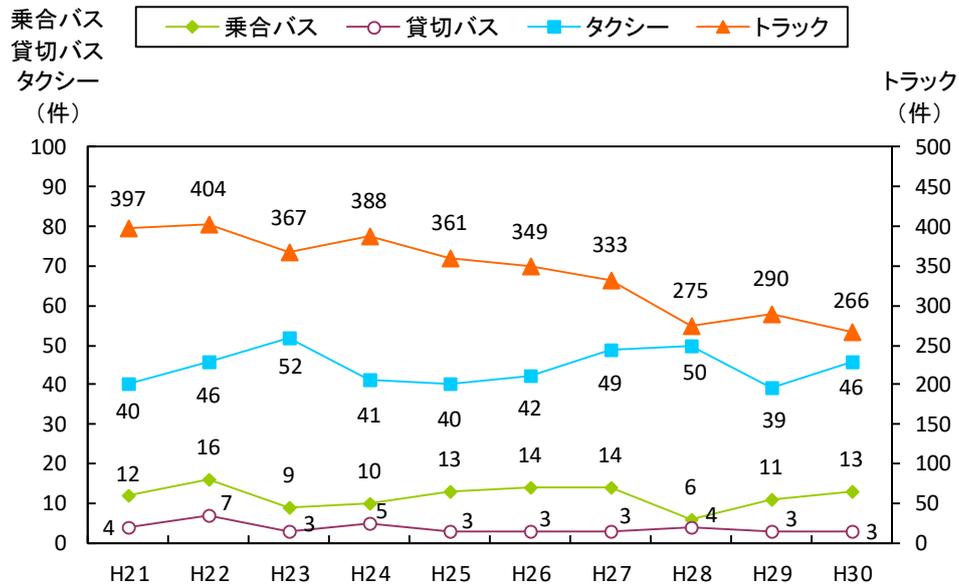
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

事業用自動車の交通死亡事故件数を業態別にみると、トラックによる死亡事故件数が大半を占め、前年増加したが減少している。タクシー、乗合バスは増加、貸切バスは横ばい傾向となっている。

〔図 13〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 13〕 事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移 (件)

年	区分	バス			タクシー	トラック
		乗合バス	貸切バス	その他		
H21		12	4	2	40	397
H22		16	7	0	46	404
H23		9	3	0	52	367
H24		10	5	0	41	388
H25		13	3	1	40	361
H26		14	3	0	42	349
H27		14	3	0	49	333
H28		6	4	1	50	275
H29		11	3	1	39	290
H30		13	3	0	46	266

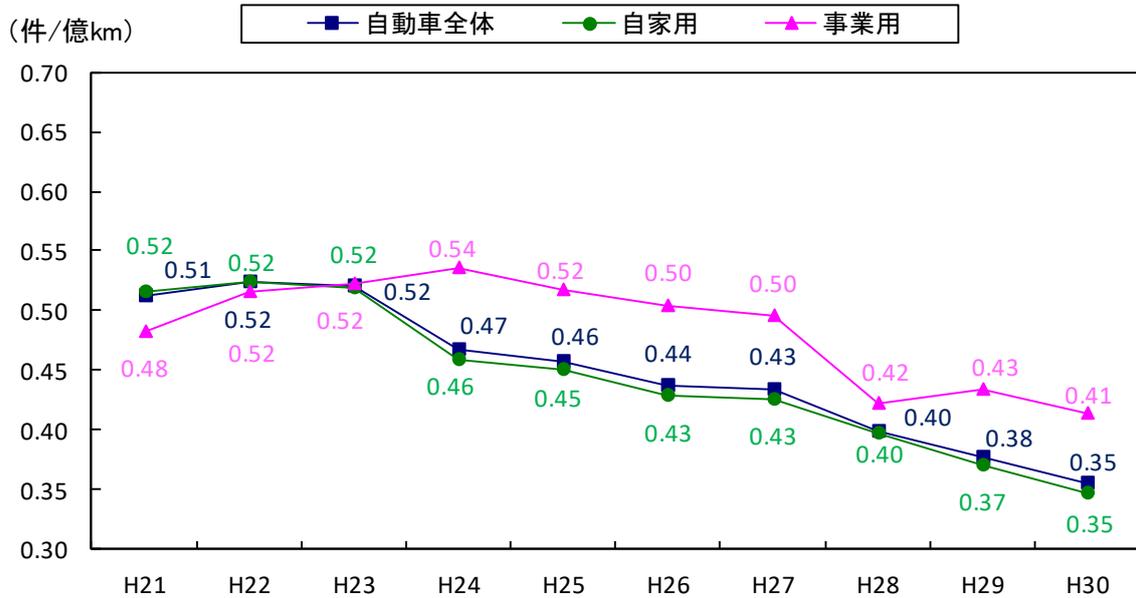
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移

走行距離あたりの自動車死亡事故件数をみると、自動車全体、自家用自動車、事業用自動車全てで減少傾向となっている。

〔図14〕 走行距離1億キロあたり自動車死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表14〕 自動車死亡事故件数と走行距離の推移

年	区分	死亡事故件数(件)			走行距離(億km)		
		自動車全体	自家用	事業用	自動車全体	自家用	事業用
H21		3,814	3,359	455	7452.1	6508.9	943.2
H22		3,826	3,353	473	7312.0	6394.3	917.7
H23		3,593	3,162	431	6909.5	6085.6	823.9
H24		3,379	2,935	444	7234.0	6405.5	828.5
H25		3,320	2,902	418	7249.1	6441.5	807.6
H26		3,149	2,741	408	7200.8	6392.3	808.5
H27		3,099	2,700	399	7137.1	6332.5	804.7
H28		2,934	2,598	336	7345.8	6548.7	797.1
H29		2,777	2,433	344	7354.2	6560.7	793.5
H30		2,644	2,316	328	7451.7	6660.2	791.5

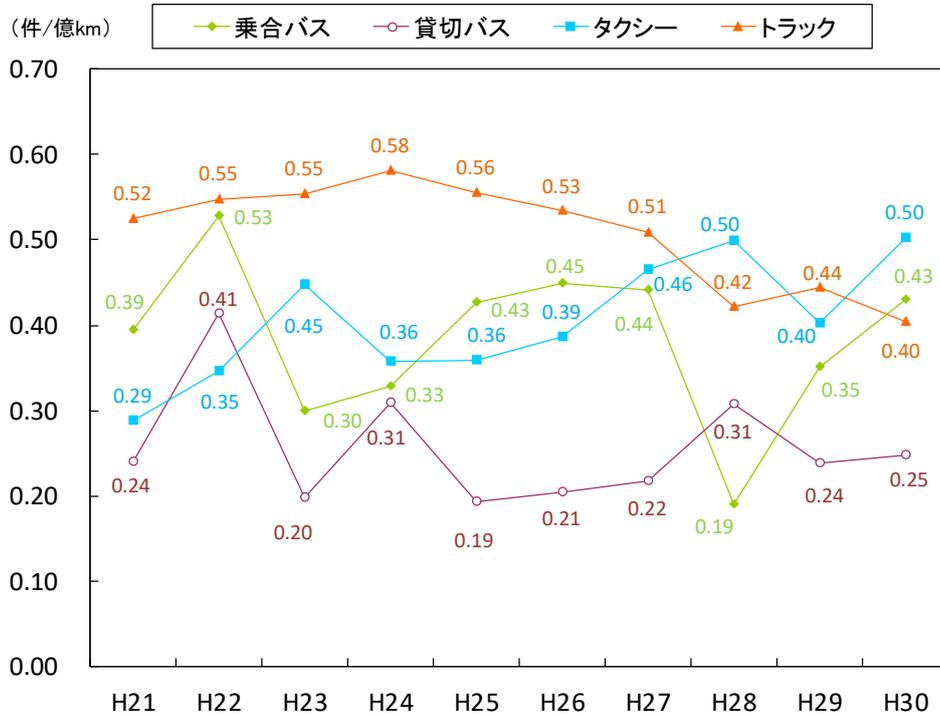
出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(4) 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移

走行距離当たりの死亡事故件数は、乗合バスと貸切バスとタクシーは前年に比べ増加し、トラックは、減少している。

〔図15〕 走行距離1億キロあたり事業用自動車の業態別交通死亡事故件数の推移



出典：警察庁「交通統計」

(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表15〕 事業用自動車の業態別走行距離と交通死亡事故件数の推移

区分 年	死亡事故件数(件)							走行キロ(億km)					
	バス				タクシー	トラック	自動車全体	バス	乗合	貸切	タクシー	トラック	自動車全体
H21	18	12	4	2	40	397	3,814	47.1	30.4	16.7	139.2	756.9	7452.1
H22	23	16	7	0	46	404	3,826	47.3	30.3	16.9	133.1	737.3	7312.0
H23	12	9	3	0	52	367	3,593	45.3	30.1	15.2	116.4	662.3	6909.5
H24	15	10	5	0	41	388	3,379	46.6	30.4	16.2	114.8	667.0	7234.0
H25	17	13	3	1	40	361	3,320	46.0	30.5	15.5	111.4	650.1	7249.1
H26	17	14	3	0	42	349	3,149	45.8	31.2	14.6	108.8	653.9	7200.8
H27	17	14	3	0	49	333	3,099	45.5	31.8	13.8	105.4	653.7	7137.1
H28	11	6	4	1	50	275	2,934	44.5	31.5	13.0	100.1	652.5	7345.8
H29	15	11	3	1	39	290	2,777	43.9	31.3	12.6	96.7	652.8	7354.2
H30	16	13	3	0	46	266	2,644	42.4	30.2	12.1	91.5	657.6	7451.7

出典：警察庁「交通統計」

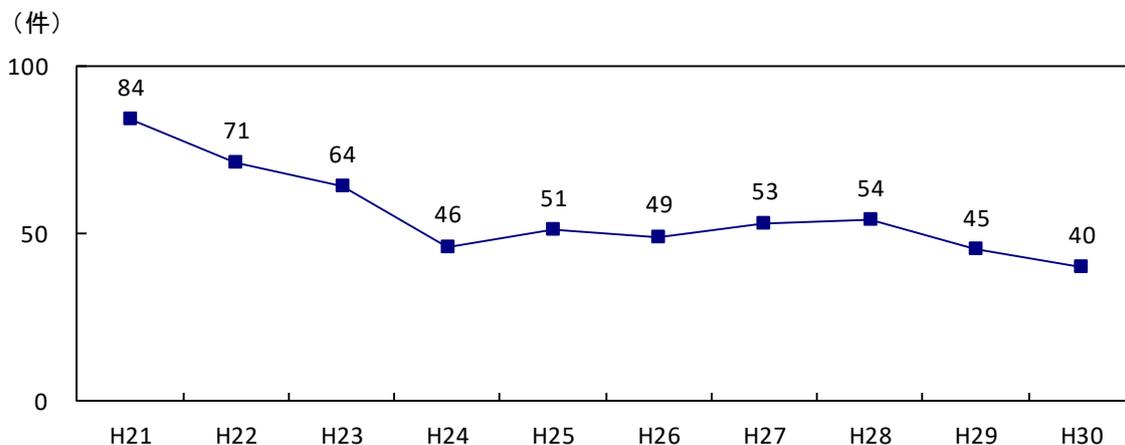
(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

1-5. 飲酒運転による事業用自動車の交通事故の推移

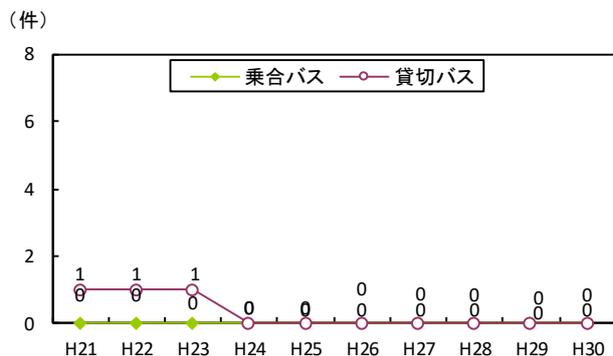
飲酒運転による事業用自動車の交通事故は、平成24年から横ばい傾向であったが前々年より減少している。業態別の内訳は、トラック34件、タクシー6件となっている。

〔図16〕 飲酒運転による事業用自動車の交通事故件数の推移

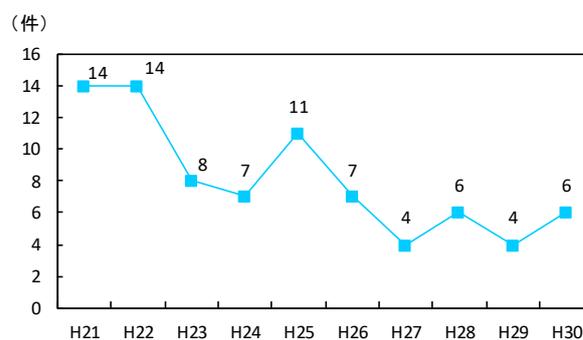


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

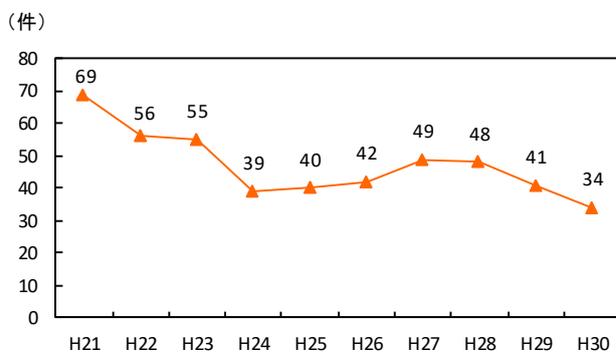
〔図17〕 業態別飲酒運転による交通事故件数



飲酒運転による交通事故件数（バス）



飲酒運転による交通事故件数（タクシー）



飲酒運転による交通事故件数（トラック）

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 16〕 業態別飲酒運転による交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
H21	1	0	1	0	14	69	84
H22	1	0	1	0	14	56	71
H23	1	0	1	0	8	55	64
H24	0	0	0	0	7	39	46
H25	0	0	0	0	11	40	51
H26	0	0	0	0	7	42	49
H27	0	0	0	0	4	49	53
H28	0	0	0	0	6	48	54
H29	0	0	0	0	4	41	45
H30	0	0	0	0	6	34	40

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 17〕 業態別飲酒運転による交通死亡事故件数の推移（件）

区分 年	交通死亡事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
H21	0	0	0	0	0	2	2
H22	0	0	0	0	0	3	3
H23	0	0	0	0	0	4	4
H24	0	0	0	0	0	6	6
H25	0	0	0	0	0	6	6
H26	0	0	0	0	1	5	6
H27	0	0	0	0	0	5	5
H28	0	0	0	0	0	1	1
H29	0	0	0	0	0	4	4
H30	0	0	0	0	0	2	2

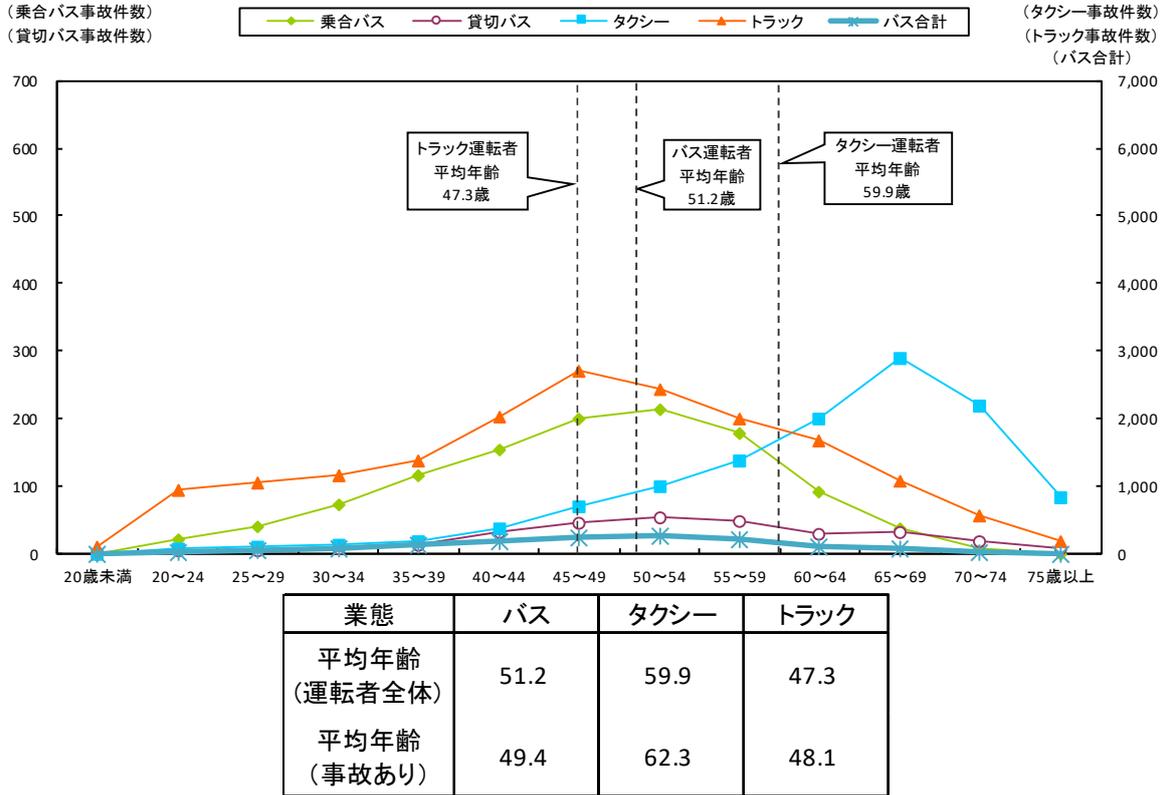
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-6. 業態別運転者年齢層別の交通事故

(1) 業態別運転者年齢層別交通事故件数

業態別の交通事故第1当事者の平均年齢と運転者の平均年齢を比較すると、タクシーは若干高くバスは若干低い。トラックは同程度となっている。

〔図18〕 業態別運転者年齢層別交通事故件数（平成30年）



※ 交通事故第1当事者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
厚生労働省「平成30年賃金構造基本統計調査（全国）」

〔表18〕 業態別運転者年齢層別交通事故件数（件）（平成30年）

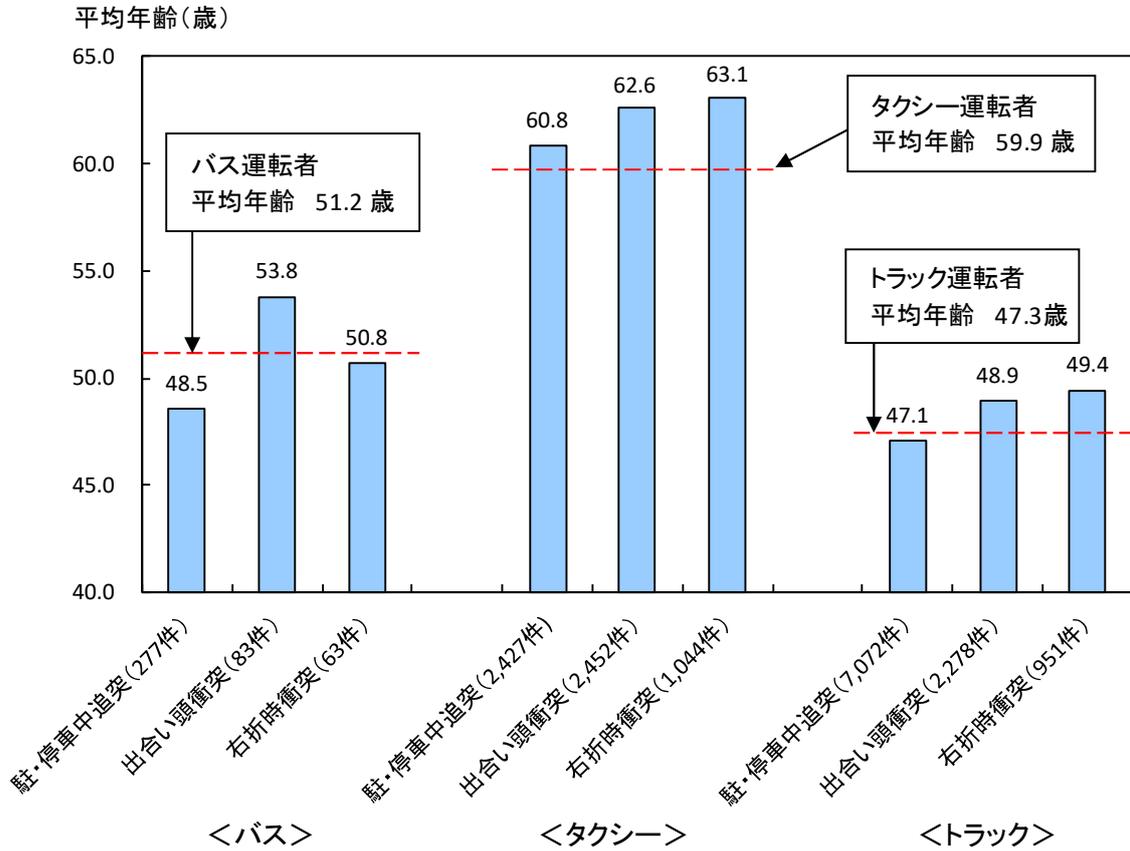
		20歳未満	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75歳以上	合計
バス	乗合	0	22	42	73	116	155	202	215	178	91	37	9	1	1,141
	貸切	0	7	7	8	14	32	45	55	49	30	33	20	8	308
	その他	0	0	1	1	4	1	3	1	1	1	1	4	1	19
	小計	0	29	50	82	134	188	250	271	228	122	71	33	10	1,468
タクシー	法人	0	82	100	120	181	357	669	931	1,276	1,879	2,637	1,932	686	10,850
	個人	0	1	0	1	8	19	25	63	86	126	255	250	154	988
	その他乗用	3	5	6	11	8	12	8	12	15	9	15	8	4	116
	小計	3	88	106	132	197	388	702	1,006	1,377	2,014	2,907	2,190	844	11,954
貨物自動車	大型	0	94	243	326	419	768	1,041	947	683	507	252	109	17	5,406
	中型	0	155	226	283	346	521	693	583	464	417	223	97	23	4,031
	準中型	54	305	238	261	288	337	453	379	314	251	192	80	19	3,171
	普通	16	83	63	62	63	86	104	102	89	67	49	29	7	820
	軽	43	313	281	245	273	322	418	416	445	453	381	264	114	3,968
	小計	113	950	1,051	1,177	1,389	2,034	2,709	2,427	1,995	1,695	1,097	579	180	17,396
合計	116	1,067	1,207	1,391	1,720	2,610	3,661	3,704	3,600	3,831	4,075	2,802	1,034	30,818	
トレーラ (トラックの内数)	0	18	49	65	96	130	220	185	135	94	49	22	3	1,066	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別事故類型別事故第1当事者平均年齢

事故第1当事者の平均年齢を、運転者全体の平均年齢と比べると、出会い頭衝突は業態を問わず平均より高い年齢となっている。

〔図19〕 業態別事故類型別事故第1当事者の運転者平均年齢（車両との事故）（平成30年）



注：() 内は事故件数

※ 事故第1当事者の運転者の平均年齢は、年齢層毎の年齢の加重平均により算出

※ 上記事故類型は「車両との事故」の事故類型から事故件数の多い3つを抽出

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
厚生労働省「平成30年賃金構造基本統計調査(全国)」

1-7. 業態別危険認知速度別の交通事故

(1) 業態別危険認知速度別交通事故件数

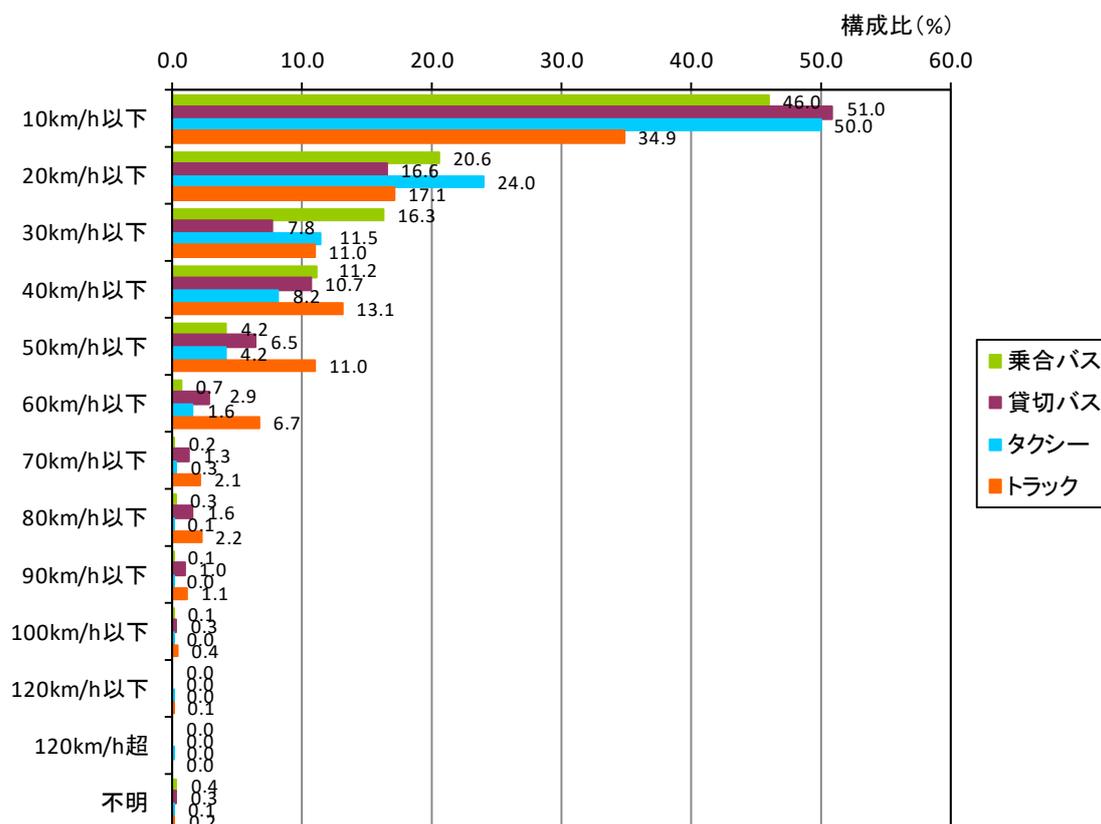
業態別の危険認知速度別事故件数をみると、いずれの業態も10km/h以下が最も多く、バスとタクシーは半数を占めている。表19に認知速度別交通事故件数を、図20に業態別の構成比を示す。

〔表 19〕 業態別危険認知速度別交通事故件数（件）（平成30年）

速度	交通事件数				タクシー	トラック	合計
	バス	乗合	貸切	その他			
10km/h以下	696	525	157	14	5,975	6,065	12,736
20km/h以下	288	235	51	2	2,869	2,979	6,136
30km/h以下	211	186	24	1	1,371	1,911	3,493
40km/h以下	161	128	33	0	980	2,285	3,426
50km/h以下	70	48	20	2	498	1,921	2,489
60km/h以下	17	8	9	0	195	1,165	1,377
70km/h以下	6	2	4	0	38	368	412
80km/h以下	8	3	5	0	9	389	406
90km/h以下	4	1	3	0	2	198	204
100km/h以下	2	1	1	0	1	69	72
120km/h以下	0	0	0	0	1	13	14
120km/h超	0	0	0	0	1	0	1
不明	5	4	1	0	14	33	52
合計	1,468	1,141	308	19	11,954	17,396	30,818

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 20〕 業態別危険認知速度別交通事故件数の構成比（%）（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数

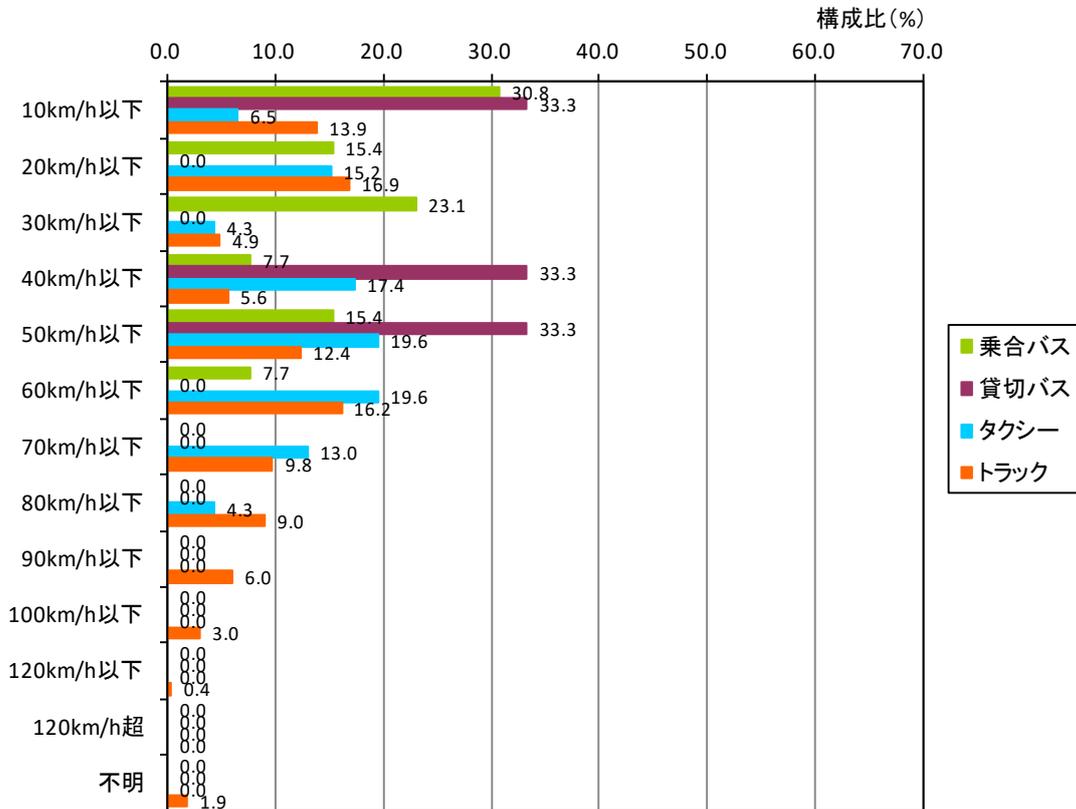
表20に業態別危険認知速度別交通死亡事故件数を、図21に危険認知速度別交通死亡事故件数の業態別の構成比を示す。業態別で見ると、バスは10km/h以下、タクシーは40km/h～60km/h以下、トラックは10km/h～20km/h以下が最も多くなっている。

〔表 20〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数 (件) (平成30年)

区分 速度	交通死亡事故件数						
	バス	乗合	貸切	その他	タクシー	トラック	合計
10km/h以下	5	4	1	0	3	37	50
20km/h以下	2	2	0	0	7	45	56
30km/h以下	3	3	0	0	2	13	21
40km/h以下	2	1	1	0	8	15	27
50km/h以下	3	2	1	0	9	33	48
60km/h以下	1	1	0	0	9	43	54
70km/h以下	0	0	0	0	6	26	32
80km/h以下	0	0	0	0	2	24	26
90km/h以下	0	0	0	0	0	16	16
100km/h以下	0	0	0	0	0	8	8
120km/h以下	0	0	0	0	0	1	1
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	5	5
合計	16	13	3	0	46	266	328

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 21〕 業態別危険認知速度別交通死亡事故件数の構成比 (%) (平成30年)



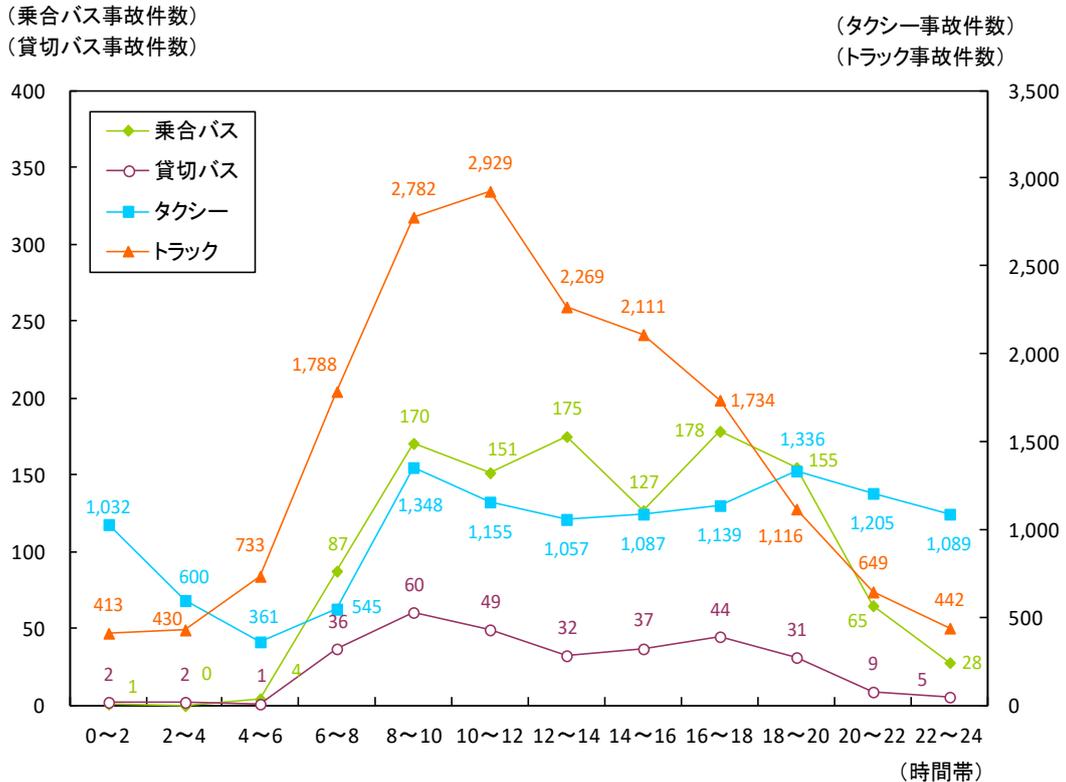
出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-8. 業態別時間帯別の交通事故

(1) 業態別時間帯別交通事故件数

業態別の時間帯別事故件数をみると、乗合バスは16時～17時台、貸切バスとタクシーは8時～9時台、トラックは10時～11時台が最も多い。

〔図 22〕 業態別時間帯別交通事故件数（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 21〕 業態別時間帯別交通事故件数（件）（平成30年）

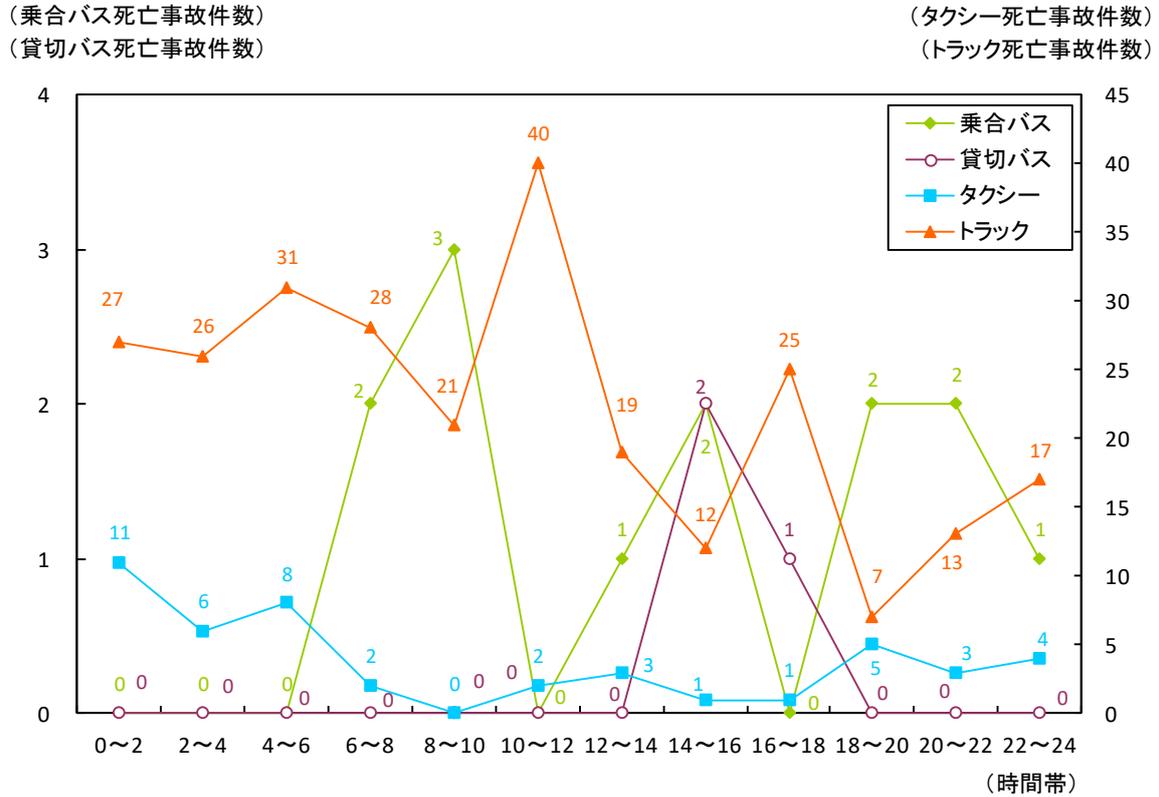
区分	時間帯	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	合計
		バス	乗合	1	0	4	87	170	151	175	127	178	155	
	貸切	2	2	1	36	60	49	32	37	44	31	9	5	308
	その他	0	0	0	3	3	1	2	3	2	2	1	2	19
	小計	3	2	5	126	233	201	209	167	224	188	75	35	1,468
タクシー	法人	929	544	332	505	1,253	1,059	955	992	1,039	1,198	1,073	971	10,850
	個人	102	55	29	32	77	82	83	79	81	128	124	116	988
	その他乗用	1	1	0	8	18	14	19	16	19	10	8	2	116
	小計	1,032	600	361	545	1,348	1,155	1,057	1,087	1,139	1,336	1,205	1,089	11,954
トラック	大型	155	182	289	602	823	873	665	640	468	291	214	204	5,406
	中型	130	130	226	509	650	653	531	441	344	175	142	100	4,031
	準中型	82	82	133	349	615	561	442	388	284	139	47	49	3,171
	普通	12	20	22	70	123	155	125	116	99	50	18	10	820
	軽	34	16	63	258	571	687	506	526	539	461	228	79	3,968
	小計	413	430	733	1,788	2,782	2,929	2,269	2,111	1,734	1,116	649	442	17,396
合計		1,448	1,032	1,099	2,459	4,363	4,285	3,535	3,365	3,097	2,640	1,929	1,566	30,818

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 業態別時間帯別交通死亡事故件数

業態別の時間帯別死亡事故件数をみると、乗合バスは8時～9時台、貸切バスは14時～15時台、タクシーは0時～1時台、トラックは10時～11時台が最も多い。

〔図 23〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 22〕 業態別時間帯別交通死亡事故件数（件）（平成30年）

区分		時間帯												合計
		0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	
バス	乗合	0	0	0	2	3	0	1	2	0	2	2	1	13
	貸切	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	3
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	2	3	0	1	4	1	2	2	1	16
タクシー	法人	9	5	7	2	0	2	3	1	1	4	3	4	41
	個人	2	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5
	その他乗用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	11	6	8	2	0	2	3	1	1	5	3	4	46
トラック	大型	14	14	15	16	13	20	7	7	16	3	8	10	143
	中型	8	9	8	3	5	12	6	1	6	2	0	6	66
	準中型	4	3	6	8	3	3	5	2	2	2	1	0	39
	普通	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	5
	軽	1	0	1	0	0	4	1	2	1	0	2	1	13
	小計	27	26	31	28	21	40	19	12	25	7	13	17	266
合計		38	32	39	32	24	42	23	17	27	14	18	22	328

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

1-9. 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故

(1) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数

〔表 23〕 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通事故件数（件）（平成30年）

都道府県	事業の種類				タクシー	トラック	計
	バス	乗合	貸切	その他			
北海道	60 (9)	38 (10)	22 (4)	0 (9)	525 (7)	412 (10)	997 (10)
青森県	14 (19)	11 (17)	2 (26)	1 (5)	61 (23)	99 (33)	174 (31)
岩手県	3 (43)	3 (39)	0 (41)	0 (9)	29 (34)	72 (40)	104 (41)
宮城県	15 (16)	10 (20)	5 (13)	0 (9)	152 (14)	216 (18)	383 (15)
秋田県	10 (25)	10 (20)	0 (41)	0 (9)	16 (43)	39 (44)	65 (45)
山形県	5 (36)	3 (39)	2 (26)	0 (9)	26 (37)	89 (38)	120 (39)
福島県	9 (27)	4 (33)	5 (13)	0 (9)	43 (31)	153 (23)	205 (28)
茨城県	13 (20)	7 (22)	3 (19)	3 (2)	48 (26)	406 (11)	467 (13)
栃木県	8 (30)	5 (29)	3 (19)	0 (9)	25 (39)	205 (19)	238 (26)
群馬県	7 (32)	5 (29)	2 (26)	0 (9)	56 (24)	329 (13)	392 (14)
埼玉県	42 (11)	26 (13)	13 (8)	3 (2)	340 (8)	1,493 (3)	1,875 (6)
千葉県	83 (7)	60 (7)	23 (3)	0 (9)	328 (10)	869 (7)	1,280 (8)
東京都	214 (1)	156 (1)	53 (1)	5 (1)	3,306 (1)	1,772 (2)	5,292 (1)
神奈川県	139 (2)	121 (2)	17 (6)	1 (5)	894 (4)	1,193 (5)	2,226 (3)
新潟県	6 (33)	3 (39)	3 (19)	0 (9)	45 (29)	119 (29)	170 (32)
富山県	13 (20)	6 (28)	7 (12)	0 (9)	12 (45)	105 (31)	130 (38)
石川県	15 (16)	12 (16)	3 (19)	0 (9)	45 (29)	89 (38)	149 (35)
福井県	1 (46)	1 (45)	0 (41)	0 (9)	10 (46)	66 (41)	77 (43)
山梨県	1 (46)	0 (47)	1 (35)	0 (9)	17 (41)	94 (36)	112 (40)
長野県	11 (24)	7 (22)	4 (16)	0 (9)	67 (22)	197 (20)	275 (20)
岐阜県	12 (23)	7 (22)	5 (13)	0 (9)	19 (40)	236 (17)	267 (22)
静岡県	54 (10)	42 (9)	9 (9)	3 (2)	299 (11)	784 (9)	1,137 (9)
愛知県	69 (8)	49 (8)	20 (5)	0 (9)	552 (5)	1,299 (4)	1,920 (5)
三重県	6 (33)	5 (29)	1 (35)	0 (9)	17 (41)	245 (15)	268 (21)
滋賀県	4 (38)	4 (33)	0 (41)	0 (9)	29 (34)	133 (27)	166 (34)
京都府	87 (6)	78 (6)	8 (11)	1 (5)	335 (9)	403 (12)	825 (11)
大阪府	121 (4)	87 (5)	34 (2)	0 (9)	1,533 (2)	2,039 (1)	3,693 (2)
兵庫県	99 (5)	90 (4)	9 (9)	0 (9)	539 (6)	850 (8)	1,488 (7)
奈良県	8 (30)	7 (22)	1 (35)	0 (9)	36 (32)	164 (22)	208 (27)
和歌山県	4 (38)	3 (39)	1 (35)	0 (9)	27 (36)	112 (30)	143 (37)
鳥取県	4 (38)	4 (33)	0 (41)	0 (9)	10 (46)	34 (46)	48 (46)
島根県	2 (45)	2 (44)	0 (41)	0 (9)	14 (44)	28 (47)	44 (47)
岡山県	15 (16)	11 (17)	4 (16)	0 (9)	54 (25)	244 (16)	313 (16)
広島県	23 (14)	21 (14)	2 (26)	0 (9)	211 (13)	325 (14)	559 (12)
山口県	17 (15)	14 (15)	3 (19)	0 (9)	75 (19)	93 (37)	185 (30)
徳島県	3 (43)	1 (45)	2 (26)	0 (9)	35 (33)	53 (42)	91 (42)
香川県	10 (25)	7 (22)	3 (19)	0 (9)	68 (21)	173 (21)	251 (23)
愛媛県	4 (38)	4 (33)	0 (41)	0 (9)	46 (27)	99 (33)	149 (35)
高知県	5 (36)	4 (33)	1 (35)	0 (9)	26 (37)	44 (43)	75 (44)
福岡県	126 (3)	111 (3)	15 (7)	0 (9)	1,101 (3)	949 (6)	2,176 (4)
佐賀県	6 (33)	4 (33)	2 (26)	0 (9)	46 (27)	150 (24)	202 (29)
長崎県	37 (12)	35 (11)	2 (26)	0 (9)	148 (15)	104 (32)	289 (17)
熊本県	9 (27)	5 (29)	3 (19)	1 (5)	83 (18)	150 (24)	242 (25)
大分県	4 (38)	3 (39)	1 (35)	0 (9)	69 (20)	95 (35)	168 (33)
宮崎県	13 (20)	11 (17)	2 (26)	0 (9)	103 (17)	130 (28)	246 (24)
鹿児島県	34 (13)	30 (12)	4 (16)	0 (9)	105 (16)	142 (26)	281 (19)
沖縄県	9 (27)	7 (22)	2 (26)	0 (9)	235 (12)	39 (44)	283 (18)
計	1,468	1,141	308	19	11,954	17,396	30,818

注1：数値横のカッコ内は順位

注2：都道府県合計には、不明を含む

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数

[表 24] 事故に関わる営業所の位置（都道府県）別の交通死亡事故件数（件）（平成30年）

事業の種類 都道府県	バス				タクシー	トラック	計
	乗合	貸切	その他				
北海道	3 (1)	2 (1)	1 (1)	0 (1)	2 (8)	13 (7)	18 (5)
青森県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	1 (13)	4 (19)	5 (20)
岩手県	1 (5)	1 (4)	0 (4)	0 (1)	1 (13)	4 (19)	6 (17)
宮城県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	1 (13)	5 (16)	6 (17)
秋田県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	1 (13)	0 (43)	1 (40)
山形県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	1 (36)	1 (40)
福島県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	5 (16)	5 (20)
茨城県	2 (2)	1 (4)	1 (1)	0 (1)	1 (13)	12 (8)	15 (9)
栃木県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	1 (13)	9 (9)	10 (12)
群馬県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	6 (14)	6 (17)
埼玉県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	17 (3)	17 (8)
千葉県	1 (5)	1 (4)	0 (4)	0 (1)	3 (3)	17 (3)	21 (3)
東京都	2 (2)	2 (1)	0 (4)	0 (1)	7 (1)	9 (9)	18 (5)
神奈川県	2 (2)	2 (1)	0 (4)	0 (1)	3 (3)	6 (14)	11 (11)
新潟県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	4 (19)	4 (23)
富山県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	2 (27)	2 (29)
石川県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	0 (43)	0 (46)
福井県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	2 (27)	2 (29)
山梨県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	1 (36)	1 (40)
長野県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	1 (13)	2 (27)	3 (27)
岐阜県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	2 (27)	2 (29)
静岡県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	3 (3)	9 (9)	12 (10)
愛知県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	1 (13)	25 (1)	26 (1)
三重県	1 (5)	1 (4)	0 (4)	0 (1)	1 (13)	5 (16)	7 (15)
滋賀県	1 (5)	1 (4)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	1 (36)	2 (29)
京都府	1 (5)	0 (11)	1 (1)	0 (1)	0 (23)	7 (13)	8 (13)
大阪府	1 (5)	1 (4)	0 (4)	0 (1)	2 (8)	22 (2)	25 (2)
兵庫県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	4 (2)	15 (5)	19 (4)
奈良県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	8 (12)	8 (13)
和歌山県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	1 (36)	1 (40)
鳥取県	1 (5)	1 (4)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	1 (36)	2 (29)
島根県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	2 (8)	0 (43)	2 (29)
岡山県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	2 (27)	2 (29)
広島県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	3 (3)	4 (19)	7 (15)
山口県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	1 (13)	2 (27)	3 (27)
徳島県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	1 (36)	1 (40)
香川県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	2 (27)	2 (29)
愛媛県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	4 (19)	4 (23)
高知県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	4 (19)	4 (23)
福岡県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	3 (3)	15 (5)	18 (5)
佐賀県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	2 (27)	2 (29)
長崎県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	2 (8)	3 (26)	5 (20)
熊本県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	4 (19)	4 (23)
大分県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	1 (36)	1 (40)
宮崎県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	0 (43)	0 (46)
鹿児島県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	0 (23)	2 (27)	2 (29)
沖縄県	0 (12)	0 (11)	0 (4)	0 (1)	2 (8)	0 (43)	2 (29)
計	16	13	3	0	46	266	328

注1：数値横のカッコ内は順位

注2：都道府県合計には、不明を含む

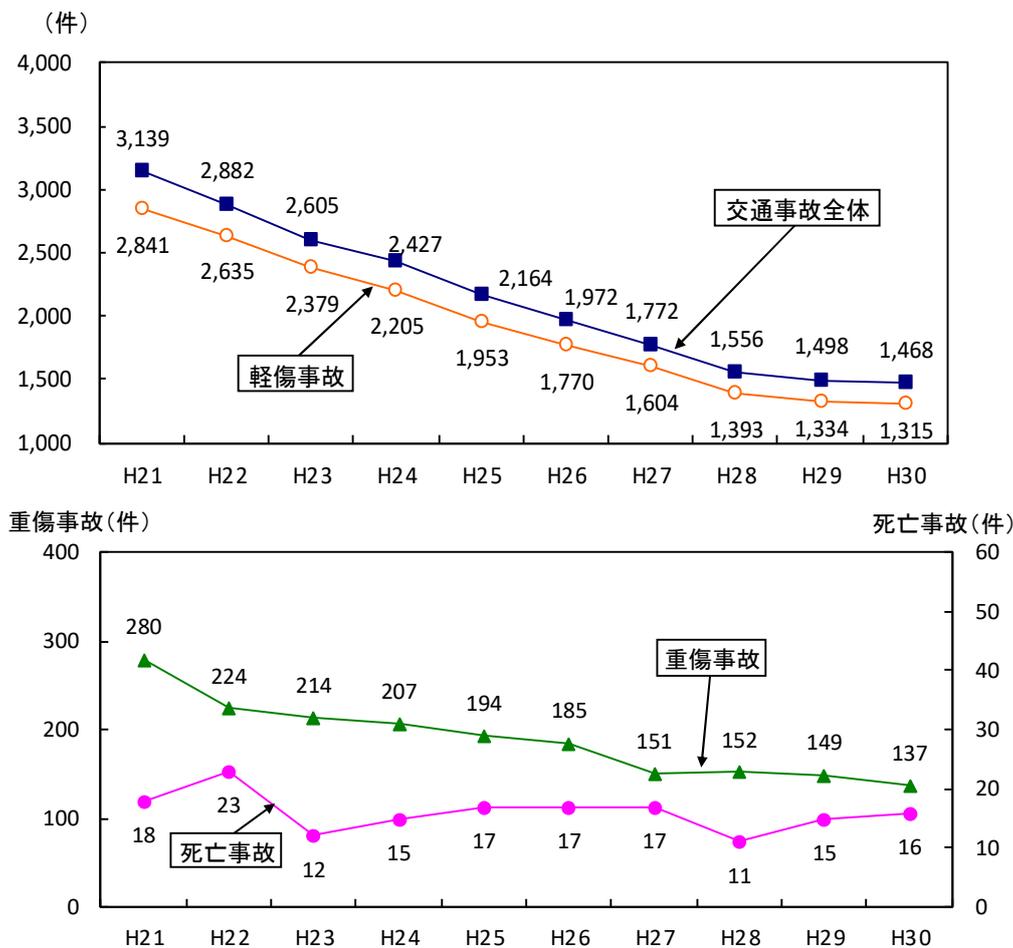
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2. バスの事故

(1) バスの事故件数、死傷事故件数の推移

バスによる事故は、総件数、軽傷事故件数、重傷事故件数は減少している。死亡事故件数は平成30年は前年と同程度、10年間で11件～23件で推移しており、減少傾向は見られない。

〔図 24〕 バスの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 25〕 バスの事故件数の推移（件）

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H21	18	280	2,841	3,139
H22	23	224	2,635	2,882
H23	12	214	2,379	2,605
H24	15	207	2,205	2,427
H25	17	194	1,953	2,164
H26	17	185	1,770	1,972
H27	17	151	1,604	1,772
H28	11	152	1,393	1,556
H29	15	149	1,334	1,498
H30	16	137	1,315	1,468

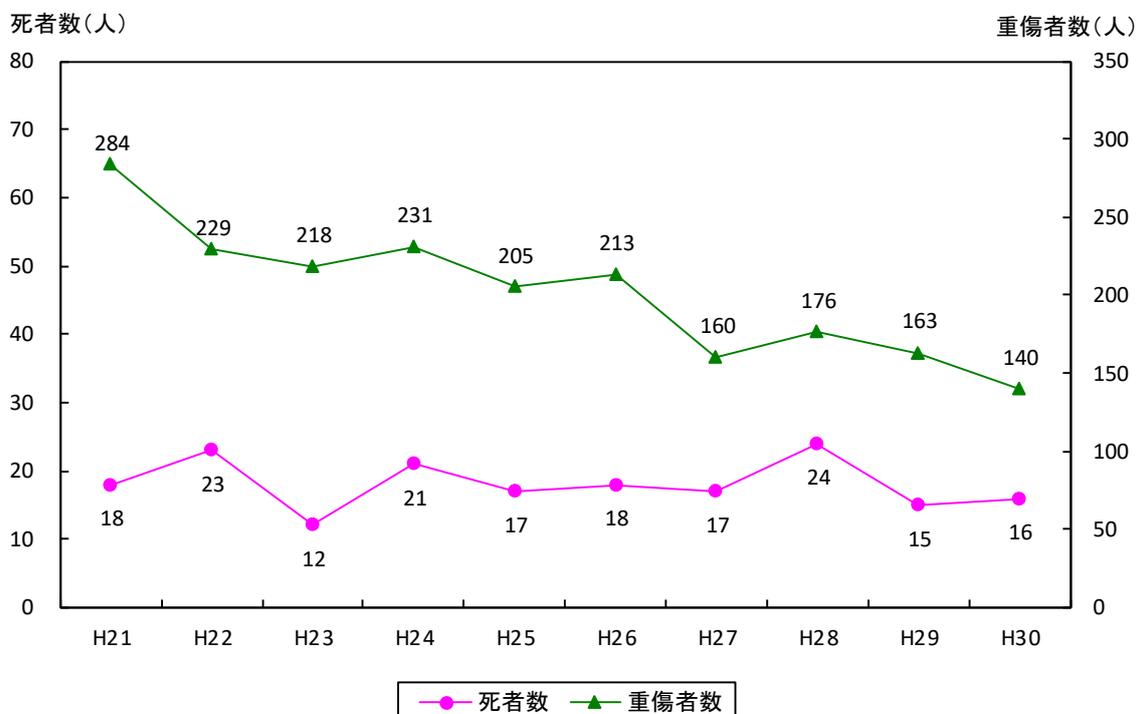
※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) バス事故の死傷者数の推移

バスの事故による重傷者数は減少傾向にあり、前年より23人減少した。死者数は10年間で12人～24人で推移しており、減少傾向は見られない。

〔図 25〕 バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 26〕 バスの死傷者数の推移(人)

年	区分	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H21		18	284	3,517	3,819
H22		23	229	3,300	3,552
H23		12	218	3,090	3,320
H24		21	231	2,831	3,083
H25		17	205	2,650	2,872
H26		18	213	2,355	2,586
H27		17	160	2,148	2,325
H28		24	176	1,923	2,123
H29		15	163	1,748	1,926
H30		16	140	1,734	1,890

※バス種別区分の乗合、貸切、その他の合計値

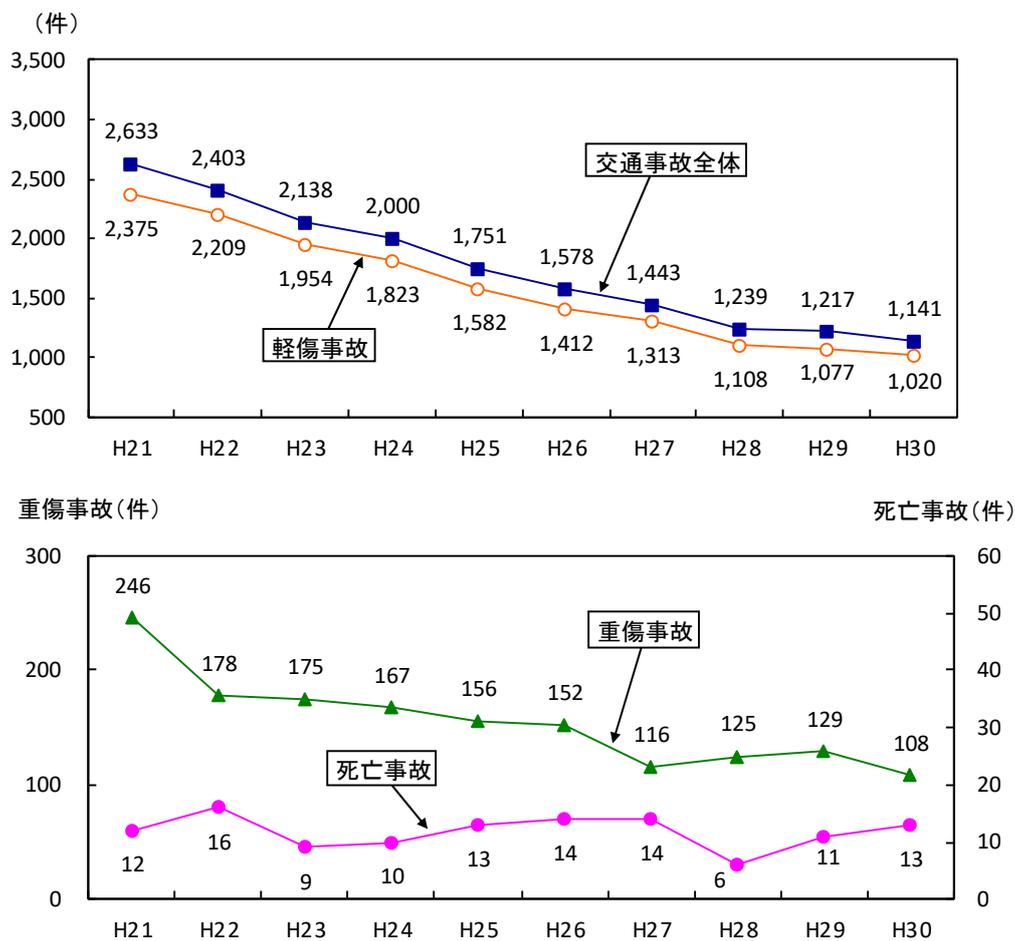
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-1. 乗合バスの事故

(1) 乗合バスの事故件数、死傷事故件数の推移

乗合バスによる事故件数は、全体では減少傾向にある。死亡事故件数は10年間で6件～16件で推移しており、減少傾向は見られない。

〔図 26〕 乗合バスの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 27〕 乗合バスの事故件数の推移（件）

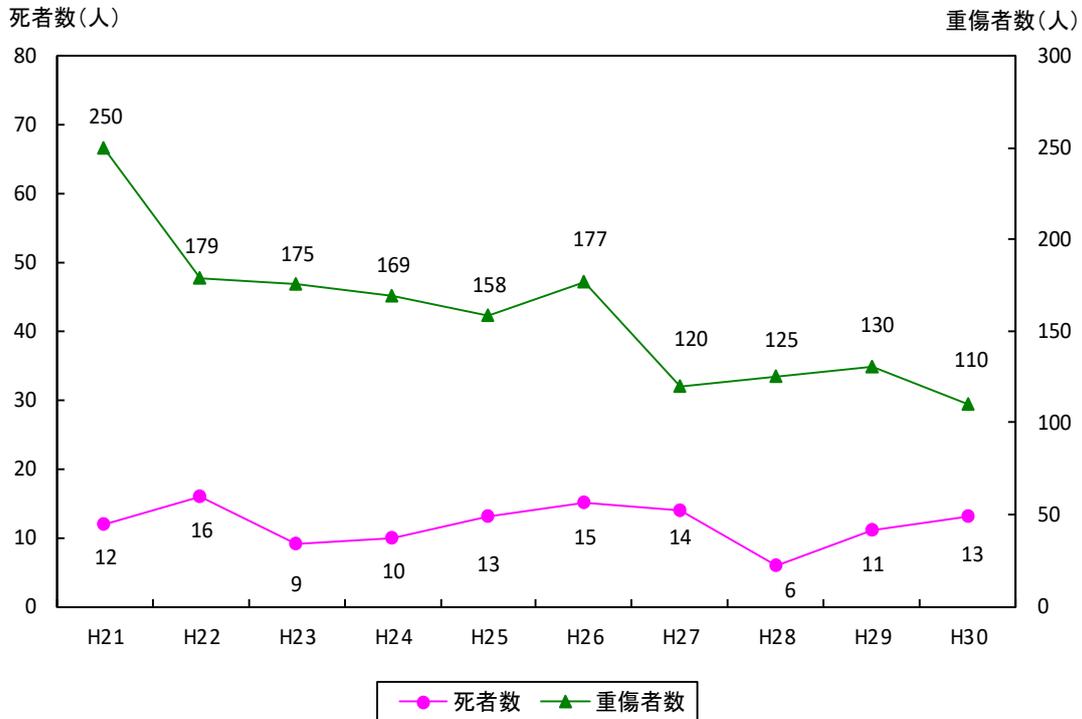
年 \ 区分	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H21	12	246	2,375	2,633
H22	16	178	2,209	2,403
H23	9	175	1,954	2,138
H24	10	167	1,823	2,000
H25	13	156	1,582	1,751
H26	14	152	1,412	1,578
H27	14	116	1,313	1,443
H28	6	125	1,108	1,239
H29	11	129	1,077	1,217
H30	13	108	1,020	1,141

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) 乗合バス事故の死傷者数の推移

乗合バスの事故のうち重傷者数は減少傾向にある。死者数は10年間で6人～16人で推移しており、減少傾向は見られない。

〔図 27〕 乗合バス事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 28〕 乗合バス事故の死傷者数の推移（人）

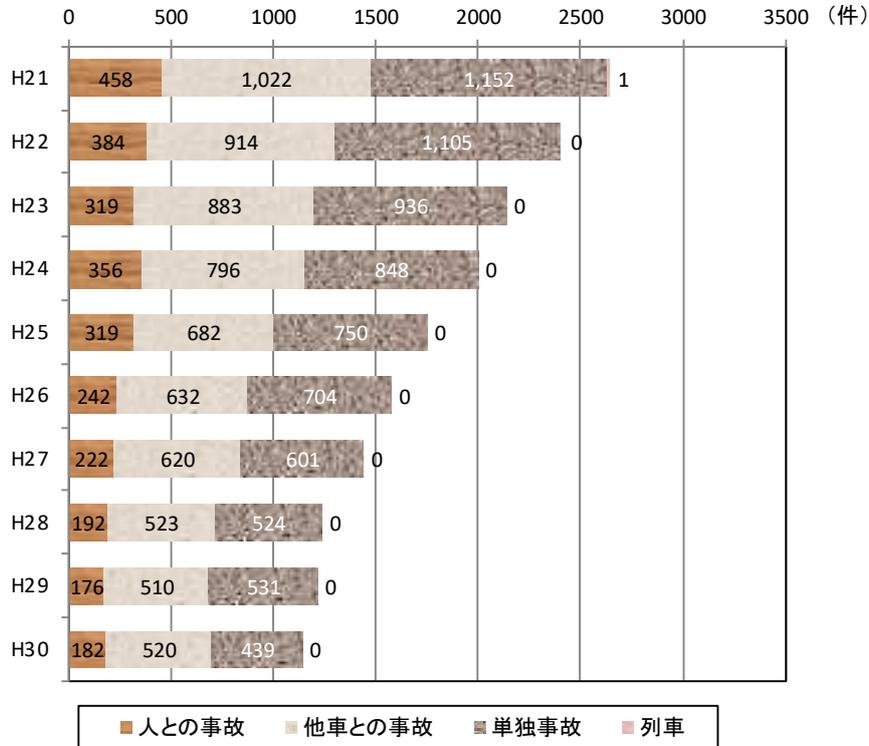
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H21	12	250	2,821	3,083
H22	16	179	2,653	2,848
H23	9	175	2,326	2,510
H24	10	169	2,139	2,318
H25	13	158	1,895	2,066
H26	15	177	1,741	1,933
H27	14	120	1,605	1,739
H28	6	125	1,351	1,482
H29	11	130	1,311	1,452
H30	13	110	1,306	1,429

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 乗合バスの事故類型別事故件数

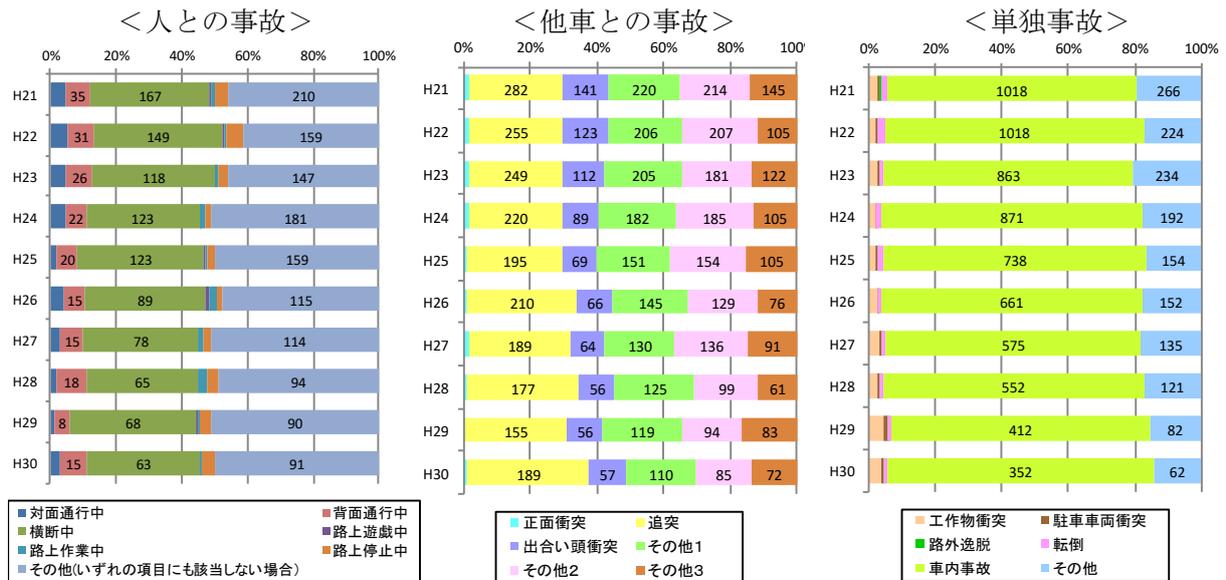
乗合バスの事故類型は他車との事故が最多となっている。単独事故の大半は車内事故が占めている。

[図 28] 乗合バスの事故類型別事故件数



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 29] 乗合バスの事故類型別事故件数の内訳



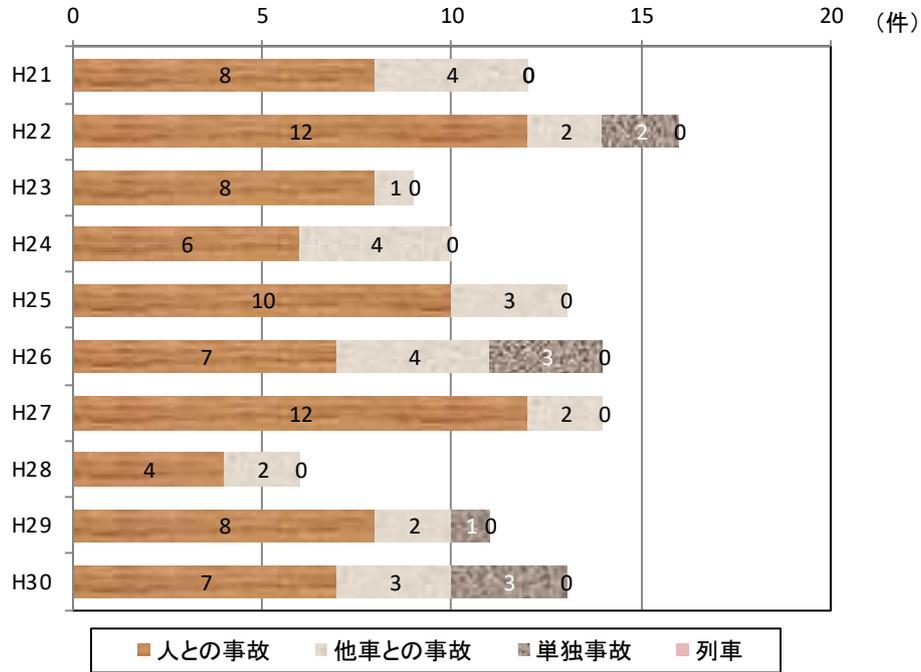
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

(4) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

事故類型別死亡事故件数は、人との事故が大半を占めている。

[図 30] 乗合バスの事故類型別死亡事故件数

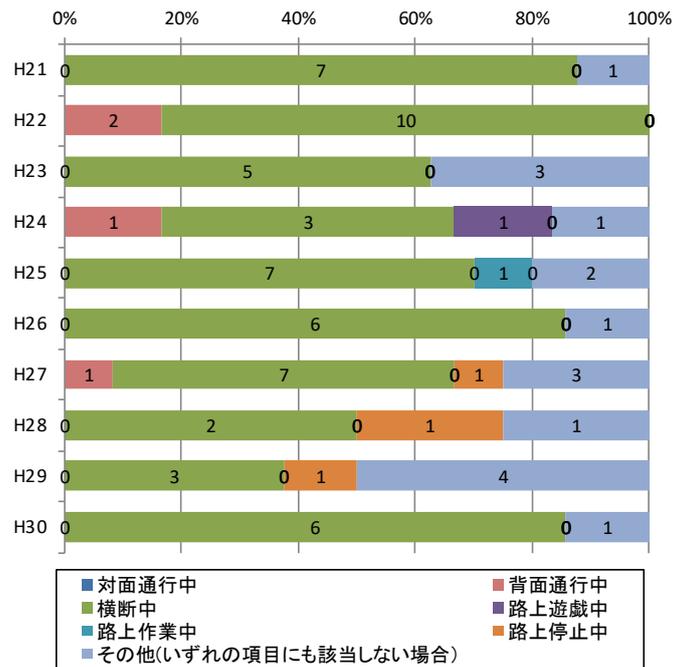


出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）

人との死亡事故は、歩行者が横断中に発生する件数が多い。

[図 31] 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（人との事故）



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（他車との事故）

他車との事故における死亡事故は、10年間で2件～4件にとどまっている。

[表 29] 乗合バスの事故類型別死亡事故件数の内訳（件）（他車との事故）

年	区分	正面衝突	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H21		0	0	1	2	0	1
H22		0	0	0	1	1	0
H23		0	0	1	0	0	0
H24		1	0	2	0	1	0
H25		0	0	1	0	2	0
H26		0	1	1	0	2	0
H27		0	0	0	0	1	1
H28		0	1	0	0	1	0
H29		0	0	0	1	1	0
H30		0	0	2	0	1	0

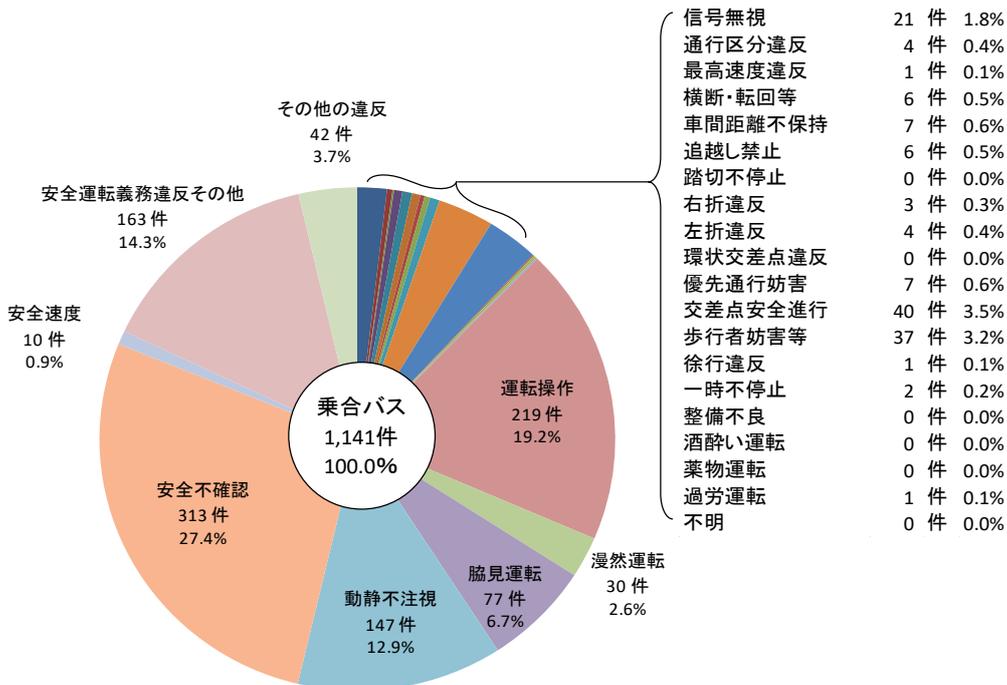
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故」

(7) 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

乗合バスでは、「安全不確認」313件（27.4%）、「運転操作」219件（19.2%）、「動静不注視」147件（12.9%）といった法令違反の事故が多い。「運転操作」は車内事故発生の要因の一つと考えられる。

[図 32] 乗合バスの事故の法令違反別の事故件数の割合（平成30年）

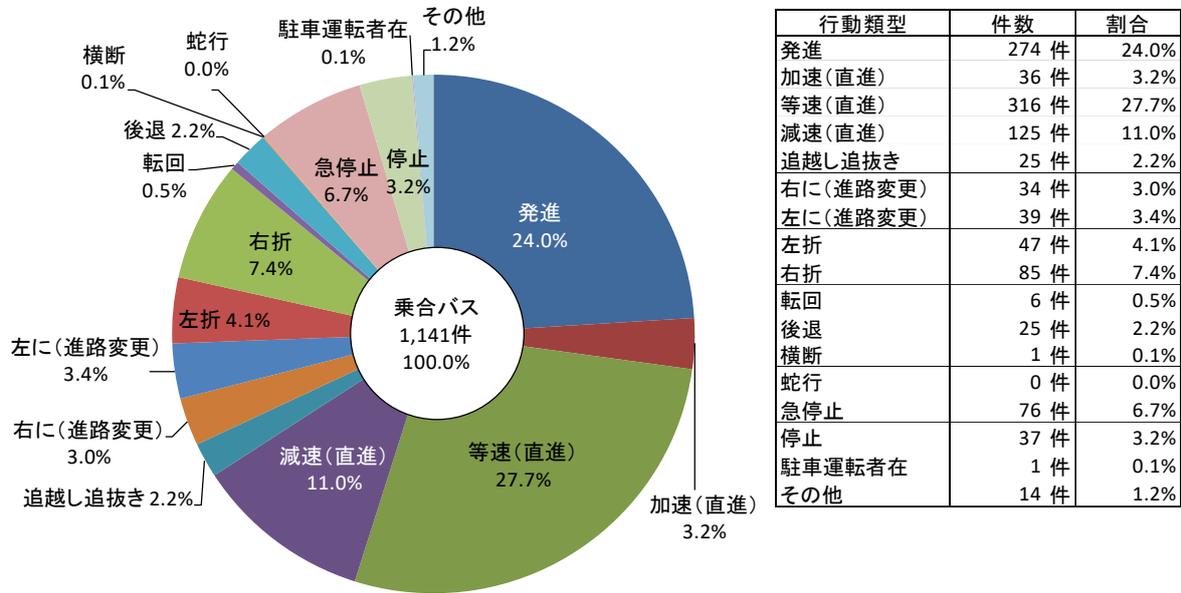


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 乗合バスの行動類型別事故件数の割合

乗合バスの行動類型別事故の割合は、等速316件（27.7%）が最も多く、次いで発進時274件（24.0%）となっている。

〔図33〕 乗合バスの行動類型別事故件数の割合（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数

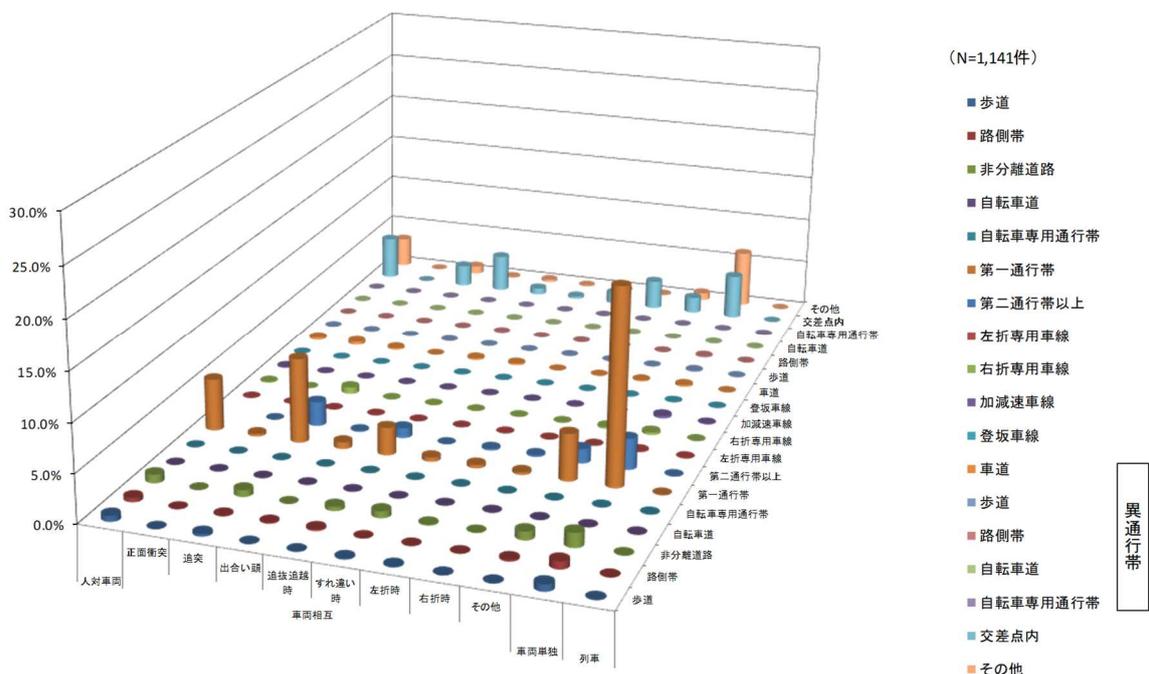
乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比をそれぞれ表30、図34に、死亡事故件数と構成比を表31、図35に示す。事故件数については、第一通行帯での単独事故232件(20.3%)が最も多く、死亡事故件数については、件数が少ないため、大きな特徴は見られない。

[表 30] 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数 (件) (平成30年)

		バス												合計
		乗合												
		人対車両	車両相互									車両単独	列車	
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
単路 (交差点付近を含む)	歩道	7	0	3	0	0	1	1	0	0	8	0	20	
	路側帯	5	0	1	1	2	0	0	0	2	9	0	20	
	非分離道路	10	0	8	0	5	8	1	0	10	17	0	59	
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	第一通行帯	62	3	101	8	33	5	4	3	56	232	0	507	
	第二通行帯以上	3	0	29	1	12	0	2	2	17	37	0	103	
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	右折専用車線	1	0	8	0	0	0	0	0	2	3	0	14	
	加減速車線	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	4	
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	異通行帯	車道	3	4	2	0	2	2	0	0	1	2	0	16
歩道		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
路側帯		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
自転車道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
自転車専用通行帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
交差点内		53	0	27	46	8	3	14	36	20	55	0	262	
その他		37	0	10	1	3	1	1	1	9	70	0	133	
合計		182	7	189	57	65	20	23	42	117	439	0	1,141	

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 34] 乗合バスの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比 (%) (平成 30 年)



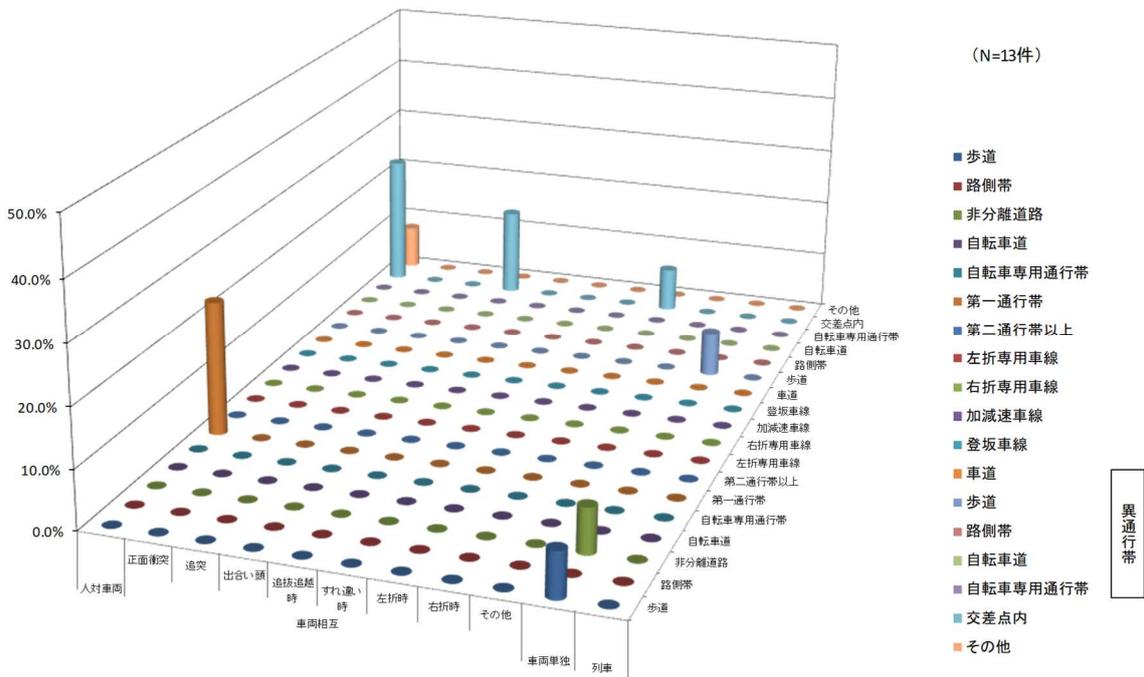
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 31] 乗合バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成30年）

		バス											
		乗合											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非分離道路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	第二通行帯以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	異通行帯	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
路側帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自転車道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自転車専用通行帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交差点内		3	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	6
その他		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計		7	0	0	2	0	0	0	1	0	3	0	13

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 35] 乗合バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数

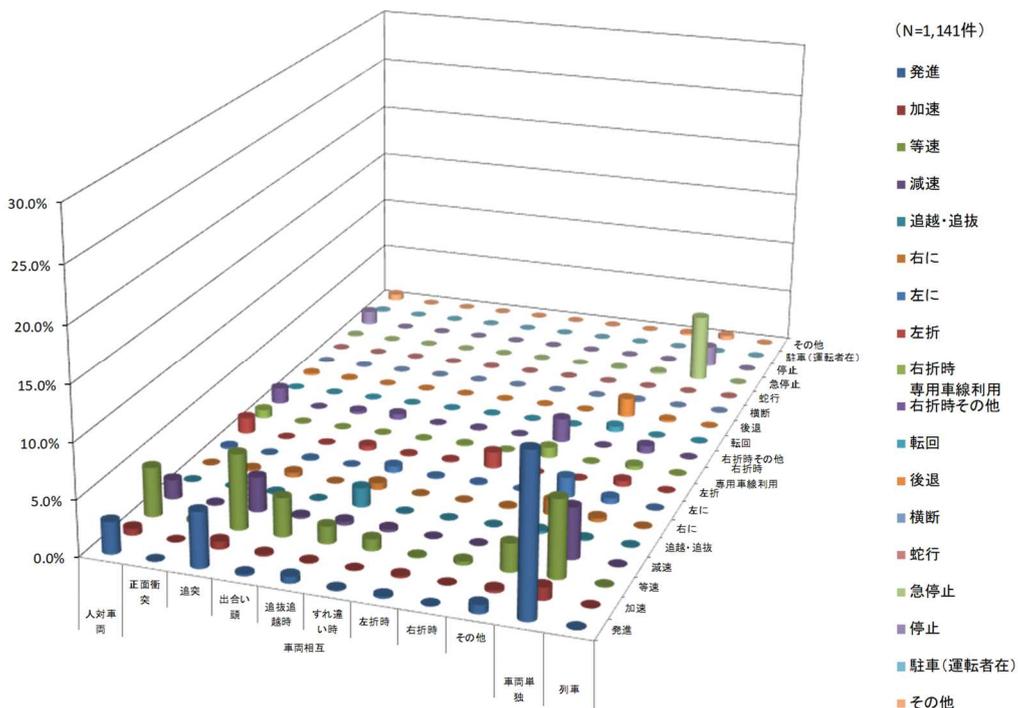
乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比をそれぞれ表32と図36に、死亡事故件数とその構成比をそれぞれ表33と図37に示す。事故件数については、発進時の単独事故163件（14.3%）が最も多く、死亡事故件数については、件数が少ないため、大きな特徴は見られない。

〔表 32〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数（件）（平成30年）

		バス											合計	
		乗合										車両単独		列車
		人対車両	車両相互								その他			
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他						
発進		33	0	57	2	7	1	2	0	9	163	0	274	
直進	加速	7	0	8	2	1	0	2	0	3	13	0	36	
	等速	51	3	78	40	18	12	1	4	29	80	0	316	
	減速	20	1	36	2	4	3	0	0	6	53	0	125	
追越・追抜		0	0	1	0	20	0	0	0	3	1	0	25	
進路変更	右に	0	2	5	0	7	0	0	1	15	4	0	34	
	左に	2	0	1	0	7	1	1	0	21	6	0	39	
左折		17	0	0	5	1	1	17	0	0	6	0	47	
右折時	専用車線利用	9	0	0	0	0	1	0	11	0	4	0	25	
	その他	17	0	3	6	0	1	0	25	0	8	0	60	
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6	
後退		2	1	0	0	0	0	0	0	20	2	0	25	
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
急停止		1	0	0	0	0	0	0	1	2	72	0	76	
停止		15	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0	37	
駐車(運転者在)		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
その他		7	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0	14	
合計		182	7	189	57	65	20	23	42	117	439	0	1,141	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 36〕 乗合バスの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（平成30年）



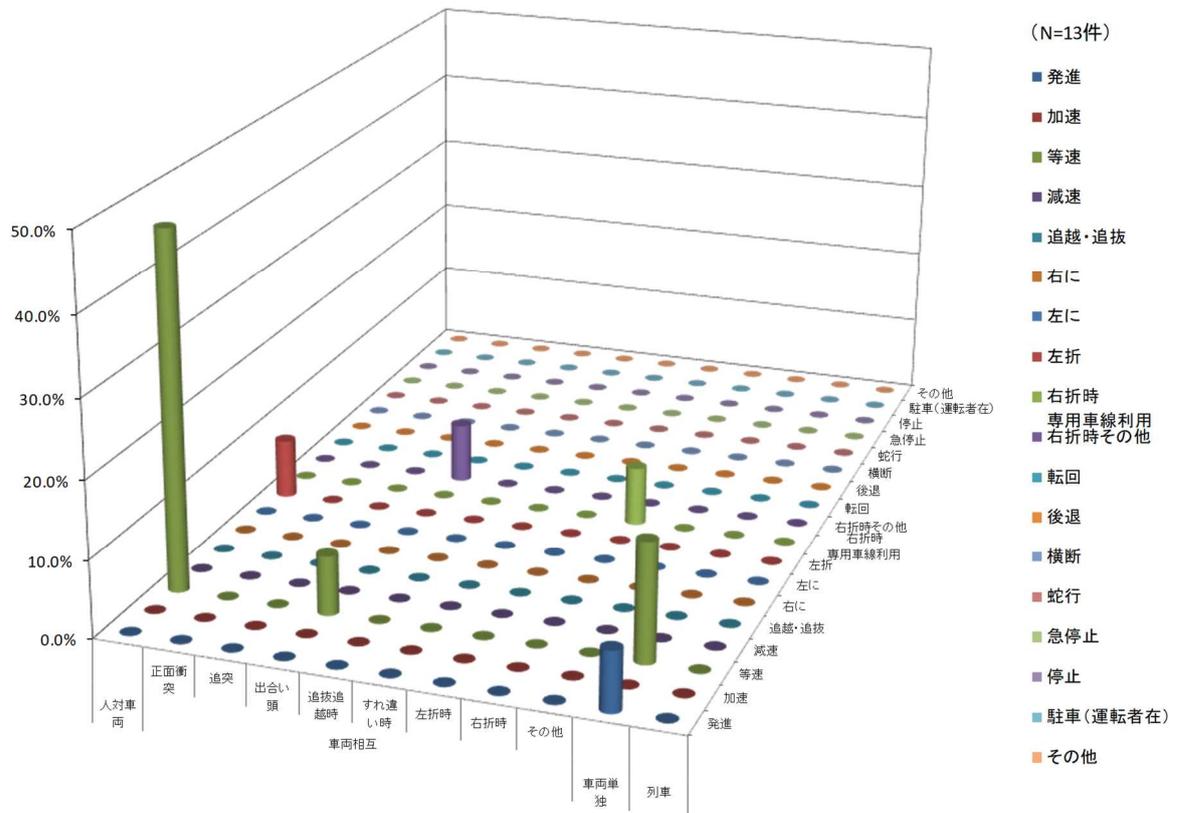
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 33] 乗合バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数（件）（平成30年）

		バス											
		乗合											
		人対車両	車両相互							車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
直進	加速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	等速	6	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	9
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
追越・追抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		7	0	0	2	0	0	0	1	0	3	0	13

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 37] 乗合バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（%）（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

乗合バスの車内事故件数は、平成30年は大きく減少し352件となった。平成21年から約10年で4割程度まで下がったが、事故件数は依然深刻な事態であることを示している。

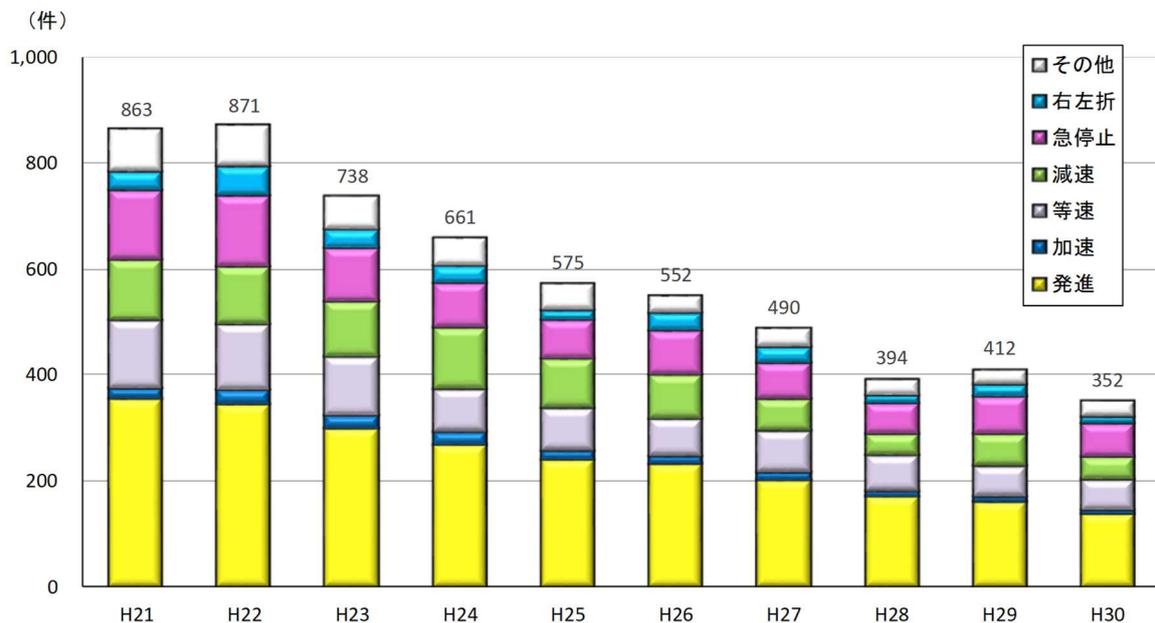
また、平成30年に発生した車内事故 352件のうち、行動類型別にみると、発進時が最も多く138件（39.2%）となっており、次いで急停止時64件（18.2%）となっている。

〔表 34〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移（件）

年		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
区分	発進	352	343	298	268	239	233	201	172	162	138
直進	加速	22	27	25	25	18	14	15	11	10	10
	等速	127	123	110	81	80	72	80	68	59	57
	減速	115	111	105	116	93	82	59	38	59	42
	急停止	131	134	101	84	73	83	69	59	71	64
	右左折	37	55	35	32	20	34	30	16	22	13
	その他	79	78	64	55	52	34	36	30	29	28
	合計	863	871	738	661	575	552	490	394	412	352

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 38〕 乗合バスの行動類型別、車内事故件数の推移

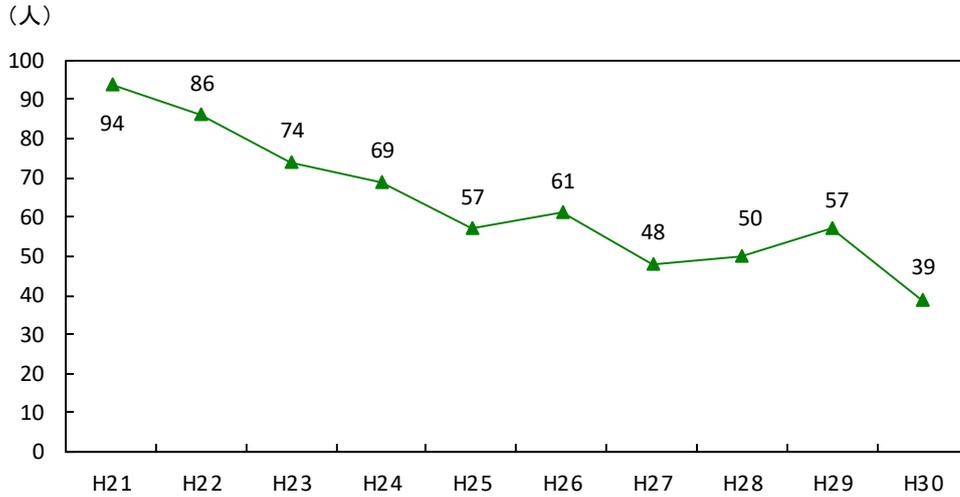


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

乗合バスの車内事故による重傷者数は、平成30年は前年と比べて18人減少している。

〔図 39〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の推移

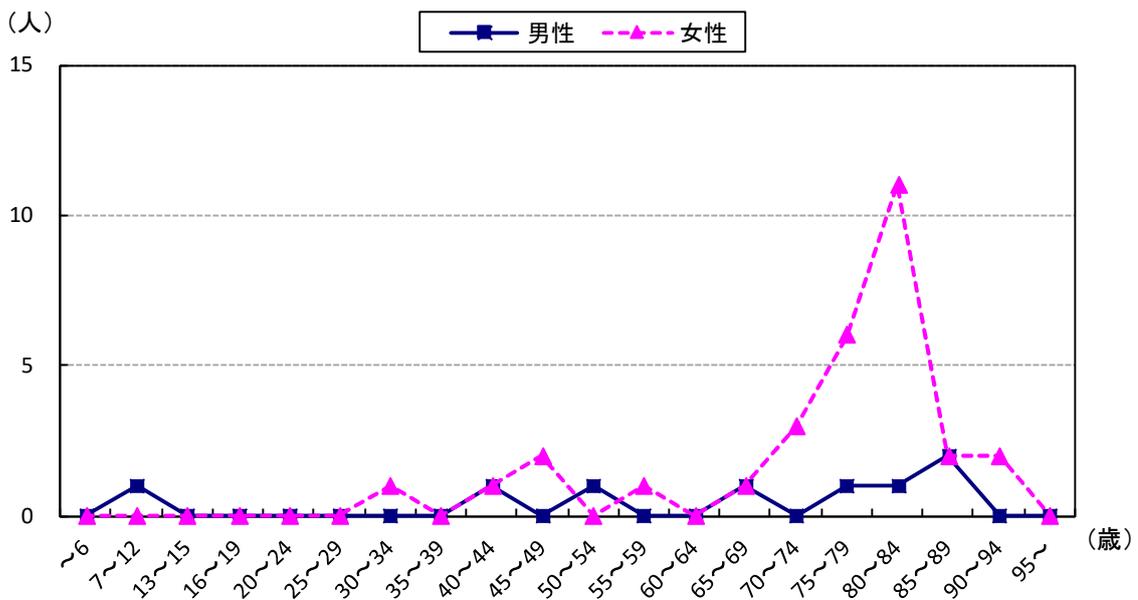


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布

乗合バスの車内事故による重傷者数を性・年齢別にみると、女性の70歳以上から多くなり、80歳～84歳が11人と最も多く前年と同様の傾向、また85歳以上が減少している。

〔図 40〕 乗合バスの車内事故による重傷者数の男女別年齢分布（平成30年）

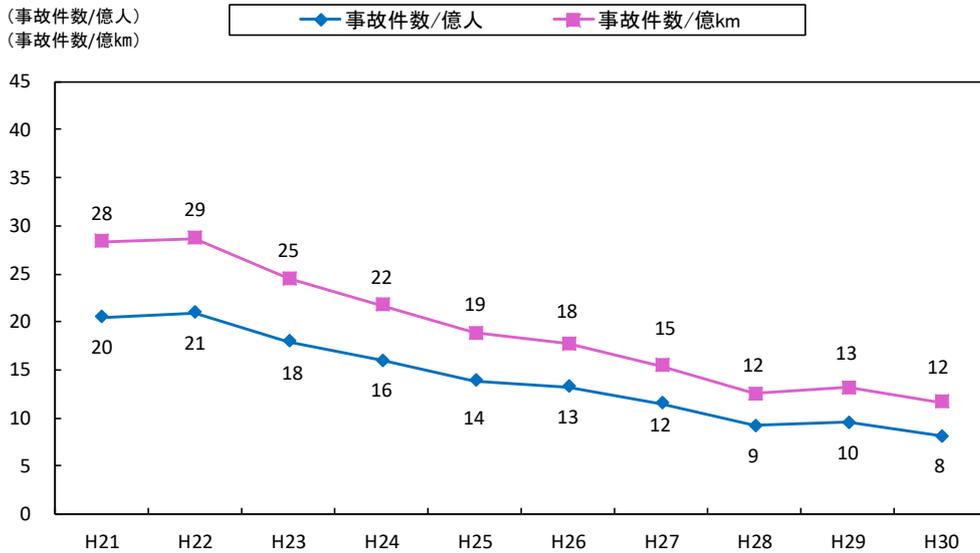


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) 乗合バスの 輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり車内事故件数

輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり乗合バスの車内事故件数をみると、減少傾向である。輸送人員と走行距離にはほぼ変化がないことから、車内事故件数自体が減っていることを示している。

〔図 41〕 乗合バスの輸送人員 1 億人あたり及び走行距離 1 億キロあたり車内事故件数の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

〔表 35〕 乗合バスの車内事故件数、輸送人員及び走行距離の推移

	事故件数(件)	輸送人員(億人)	走行距離(億km)
H21	863	42	30
H22	871	42	30
H23	738	41	30
H24	661	41	30
H25	575	42	31
H26	552	42	31
H27	490	43	32
H28	394	43	32
H29	412	43	31
H30	352	44	30

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(15) 乗合バスの車内事故件数の事故種類別時間帯分布

乗合バスの車内事故件数を時間帯別にみると、8時～18時台の日中の時間帯に多く発生している。

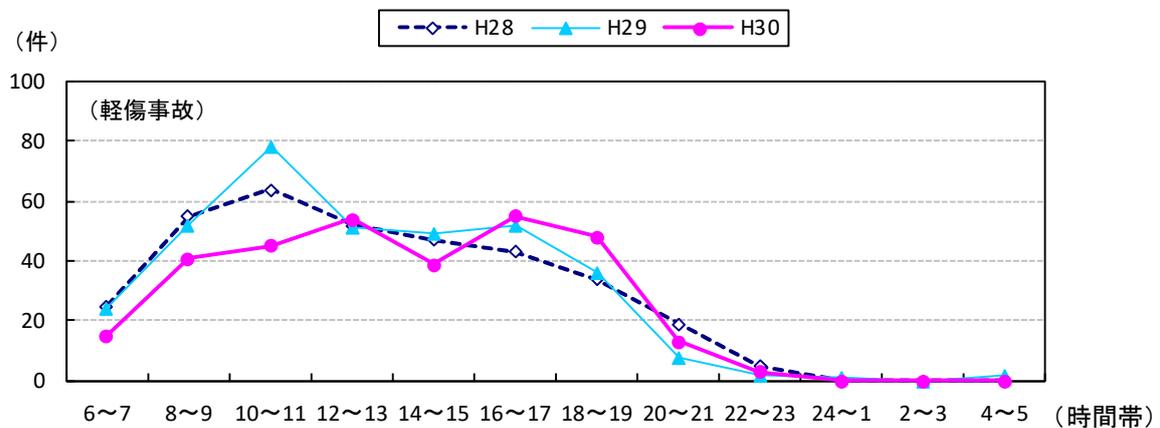
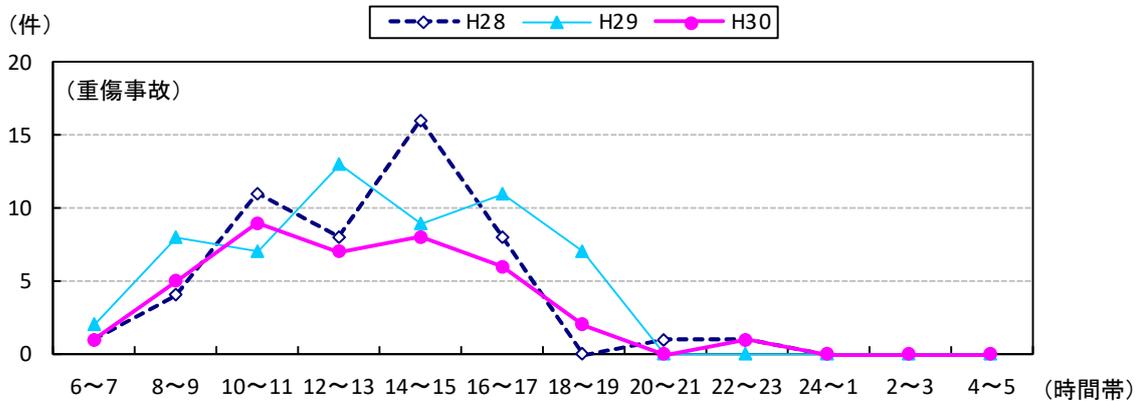
〔表 36〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布（平成30年）

時間帯	重傷事故	軽傷事故	負傷事故計
6～7	1	15	16
8～9	5	41	46
10～11	9	45	54
12～13	7	54	61
14～15	8	39	47
16～17	6	55	61
18～19	2	48	50
20～21	0	13	13
22～23	1	3	4
24～1	0	0	0
2～3	0	0	0
4～5	0	0	0
合計	39	313	352

※運転者が負傷した事故を含む。

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 42〕 乗合バス車内事故件数の事故種類別時間帯分布



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(16) 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布

乗合バスの車内事故による負傷者数を年齢層別にみると、80歳～84歳が58人（15.2%）と最も多く、65歳以上が178人（46.6%）と高齢者が半数弱を占めている。

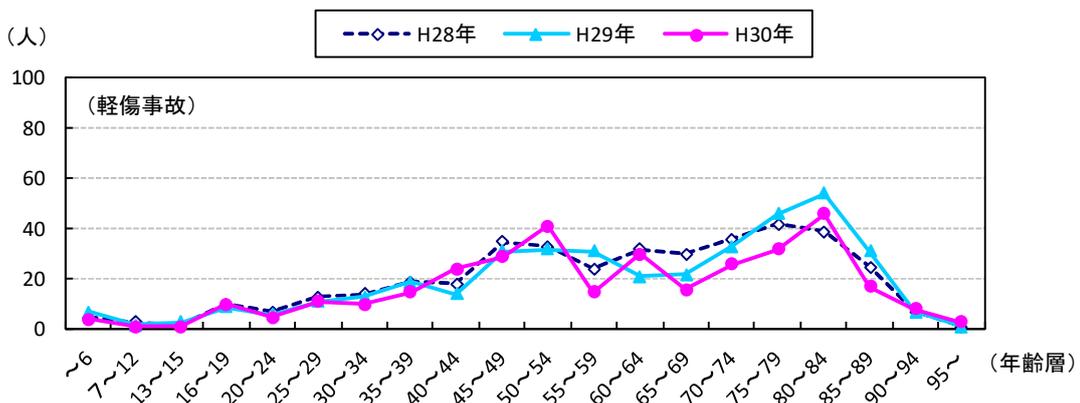
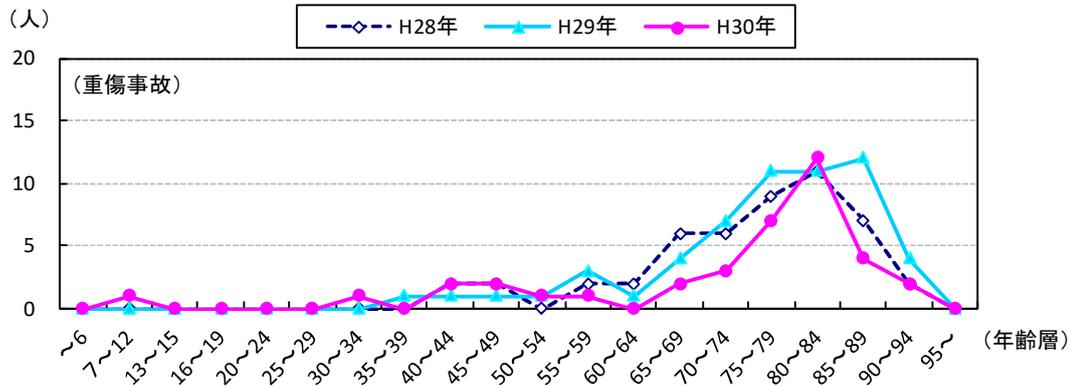
さらに重傷者数は65歳以上が38人中30人（78.9%）で、高齢者の比率の高さが顕著となっている。

〔表 37〕 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布（人）（平成30年）

年齢層	重傷者数	軽傷者数	負傷者計
～ 6	0	4	4
7～12	1	1	2
13～15	0	1	1
16～19	0	10	10
20～24	0	5	5
25～29	0	11	11
30～34	1	10	11
35～39	0	15	15
40～44	2	24	26
45～49	2	29	31
50～54	1	41	42
55～59	1	15	16
60～64	0	30	30
65～69	2	16	18
70～74	3	26	29
75～79	7	32	39
80～84	12	46	58
85～89	4	17	21
90～94	2	8	10
95～	0	3	3
合計	38	344	382

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 43〕 乗合バスの車内事故による事故種別別負傷者数の年齢分布



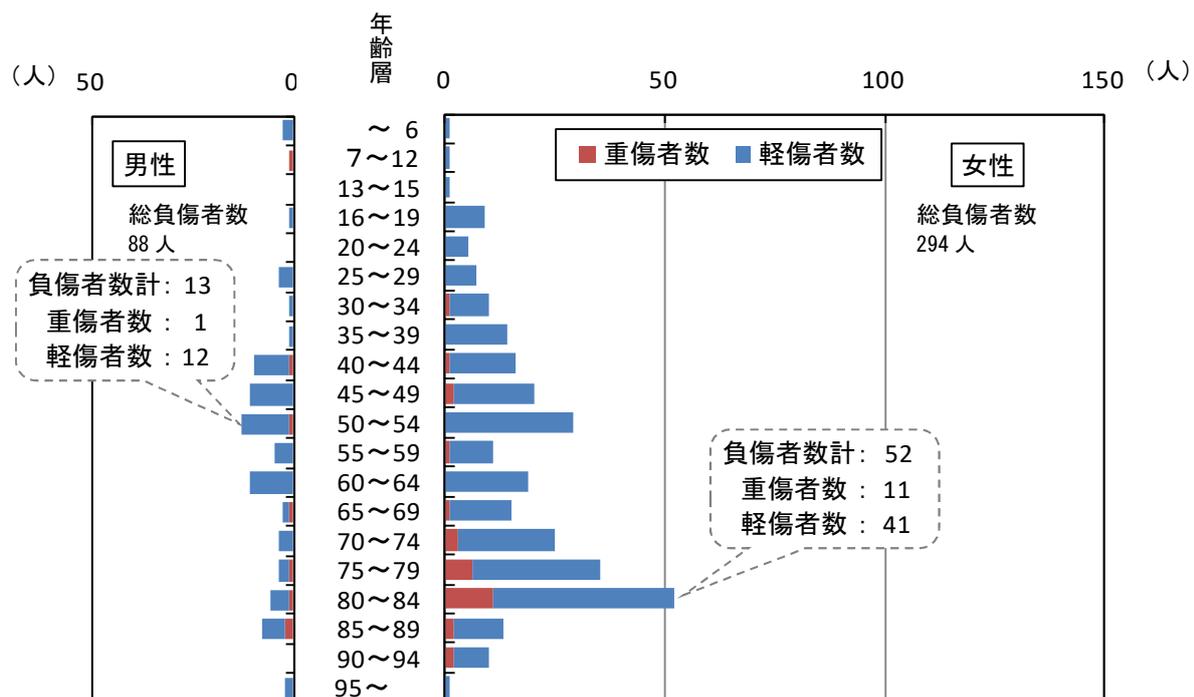
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

乗合バスの車内事故による負傷者数を男女年齢層別にみると、男性は50歳～54歳が13人（14.8%）と最も多く（うち重傷者数は1人）、65歳以上が27人（30.7%）と高齢者が多い傾向にある。

女性では80歳～84歳が52人（17.7%）と最も多く（うち重傷者数は11人）、65歳以上が151人（51.4%）と高齢者が過半数を占めている。

また、性別では男性より女性の負傷者数が大幅に多く、女性の負傷者数（294人）が男性の負傷者数（88人）の3倍程度となっている。

〔図44〕 乗合バスの車内事故による男女別年齢層別負傷者数（平成30年）



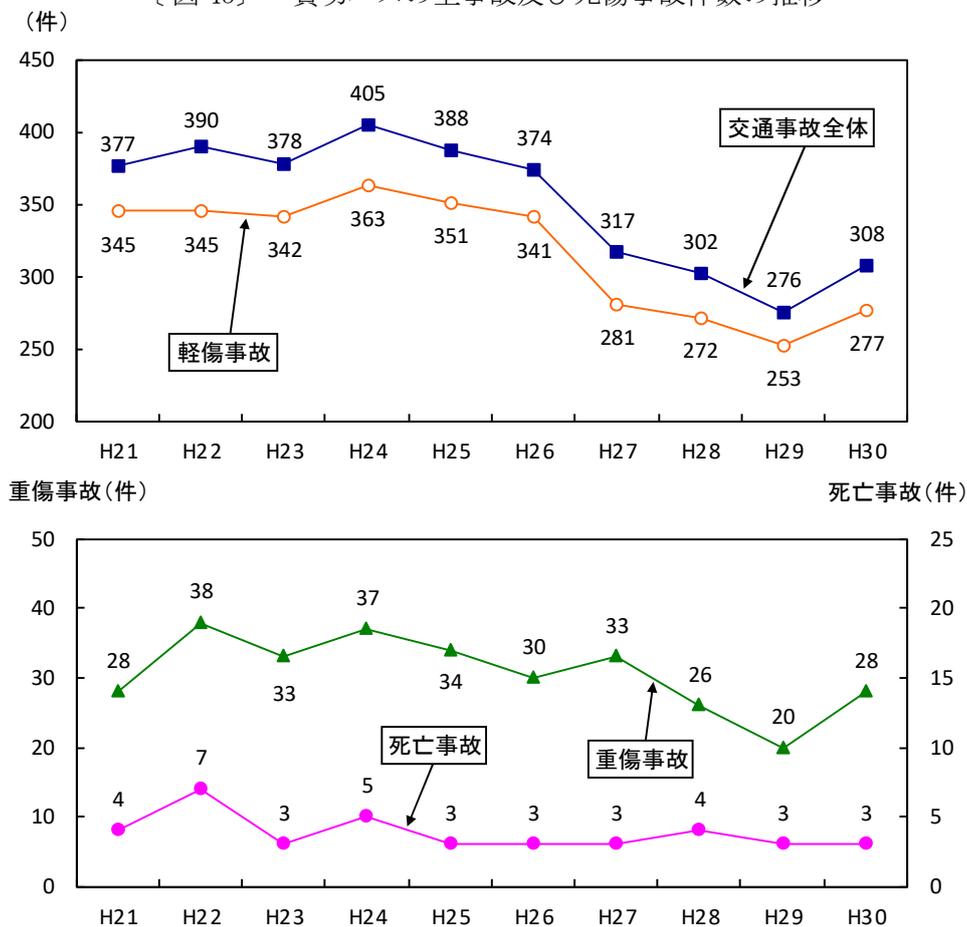
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

2-2. 貸切バスの事故

(1) 貸切バスの事故件数、死傷事故件数の推移

貸切バスの事故件数は平成21年～平成26年は横ばいで推移しており、近年は減少傾向となっていたが、平成30年は増加している。

〔図 45〕 貸切バスの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 38〕 貸切バスの事故件数（件）

区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H21	4	28	345	377
H22	7	38	345	390
H23	3	33	342	378
H24	5	37	363	405
H25	3	34	351	388
H26	3	30	341	374
H27	3	33	281	317
H28	4	26	272	302
H29	3	20	253	276
H30	3	28	277	308

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

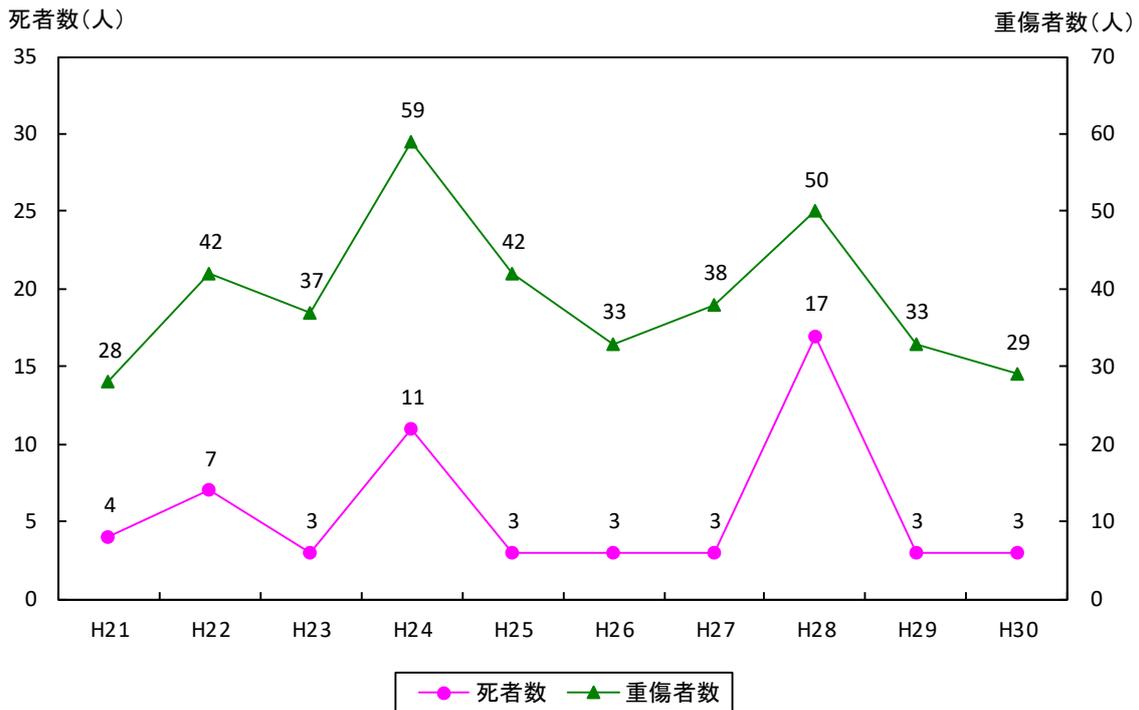
(2) 貸切バスの事故の死傷者数の推移

貸切バスの事故の死傷者数は、平成24年から平成26年まで減少となったものの、その後増加し、前年から減少している。

※平成24年は関越道における高速ツアーバス事故の影響により増加

※平成28年は軽井沢スキーバス事故の影響により増加

[図 46] 貸切バス事故の死傷者数の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 39] 貸切バス事故の死傷者数の推移 (人)

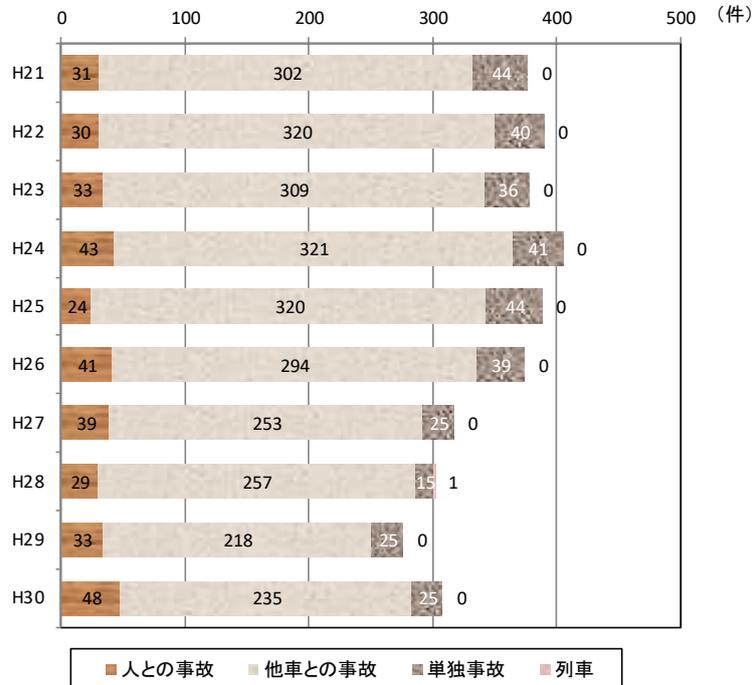
区分 年	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H21	4	28	545	577
H22	7	42	555	604
H23	3	37	633	673
H24	11	59	655	725
H25	3	42	700	745
H26	3	33	587	623
H27	3	38	524	565
H28	17	50	558	625
H29	3	33	432	468
H30	3	29	399	431

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) 貸切バスの事故類型別事故件数の推移

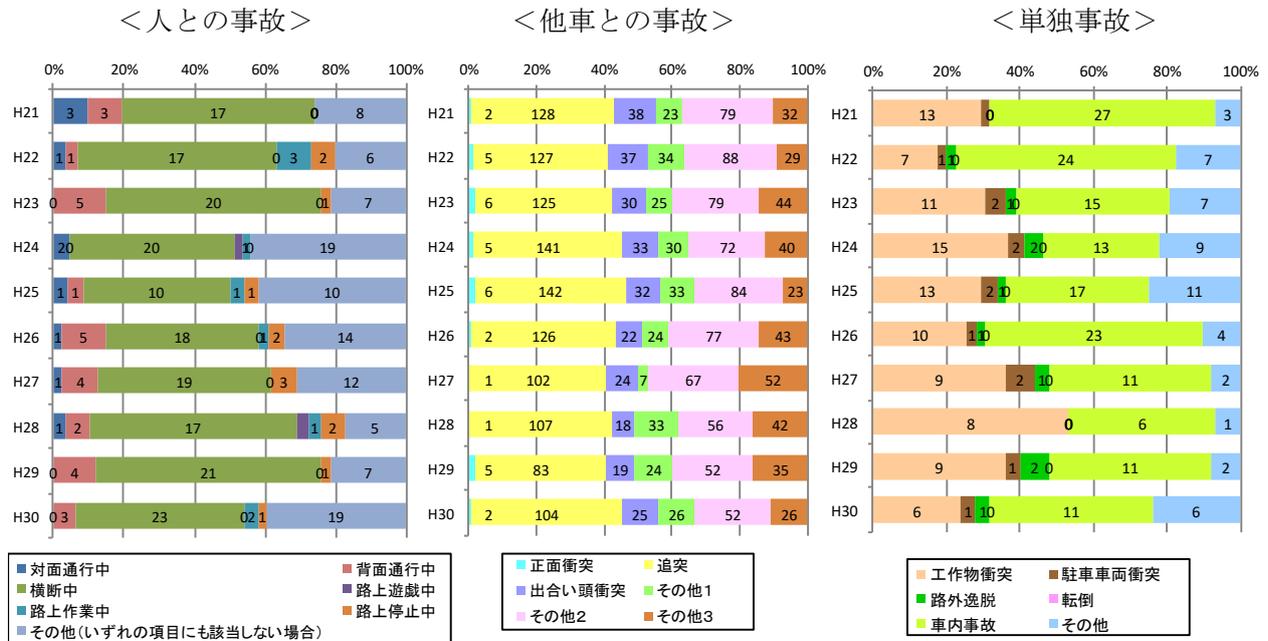
貸切バスの事故の類型別件数は、他車との事故が7割を超え、圧倒的に多い。他車との事故のうち追突事故が約4割を占めている。

[図 47] 貸切バスの事故類型別事故件数



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 48] 貸切バスの事故類型別事故件数の内訳の推移

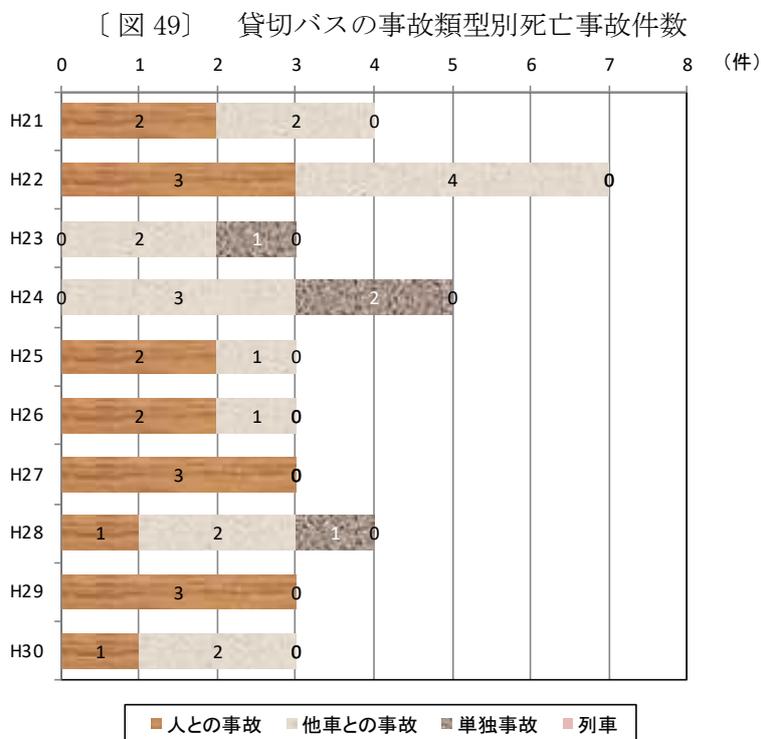


その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の推移

貸切バスの事故類型別死亡事故件数は、人との事故1件、他車との事故2件となっている。



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移 (他車との事故)

他車との事故の事故類型別内訳には、顕著な傾向はみられない。

[表 40] 貸切バスの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移 (件) (他車との事故)

年	正面衝突	追突	出合い頭衝突	その他1	その他2	その他3
H21	0	0	1	0	1	0
H22	1	0	2	1	0	0
H23	0	1	1	0	0	0
H24	0	1	0	0	1	1
H25	0	1	0	0	0	0
H26	0	0	1	0	0	0
H27	0	0	0	0	0	0
H28	0	0	0	1	1	0
H29	0	0	0	0	0	0
H30	0	0	1	1	0	0

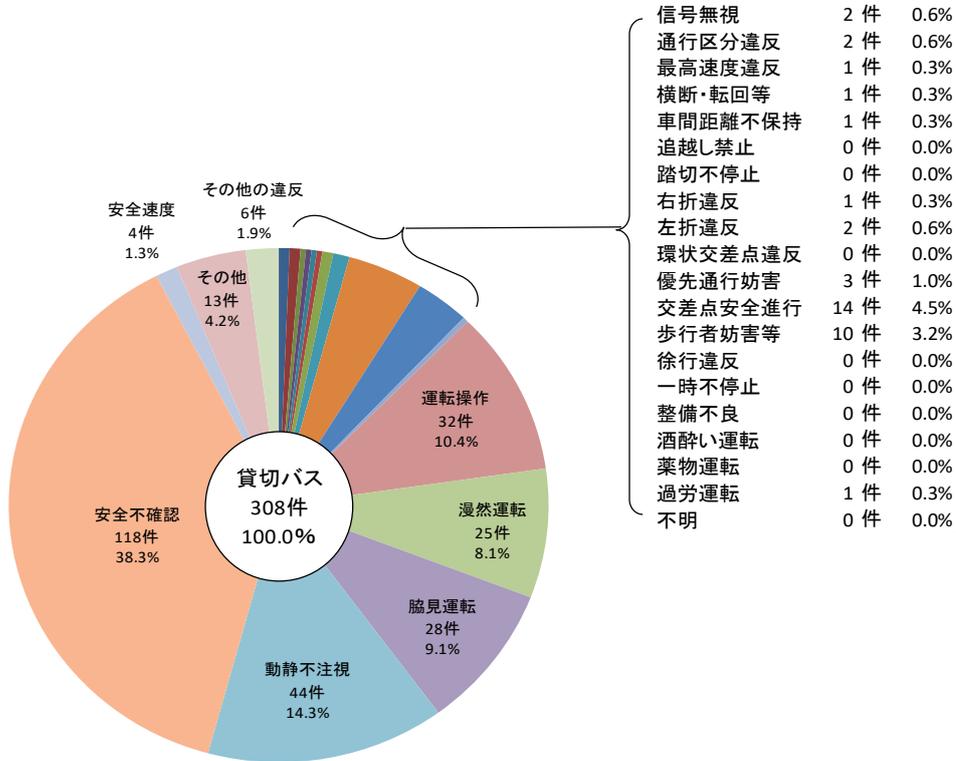
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合

貸切バスの法令違反別の死亡事故件数をみると、「安全不確認」118件（38.3%）、「動静不注意」44件（14.3%）、「運転操作」32件（10.4%）などが多くなっている。

〔図50〕 貸切バスの事故の法令違反別の事故件数の割合（平成30年）

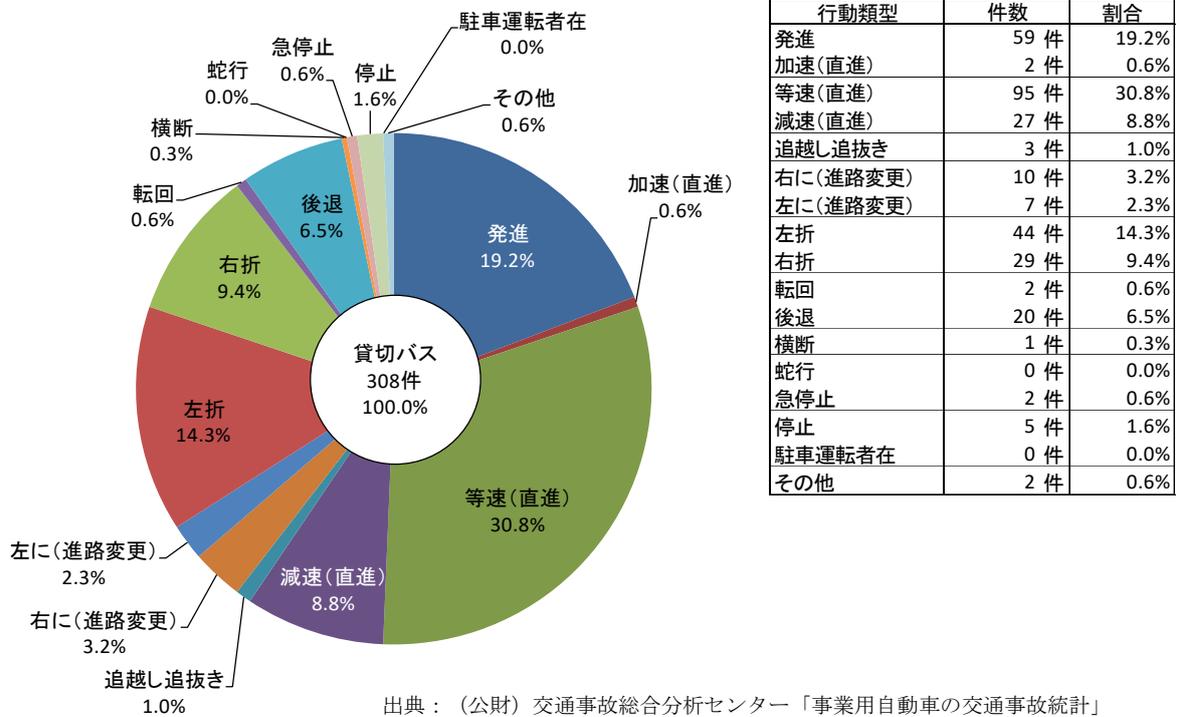


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) 貸切バスの行動類型別事故件数の割合

貸切バスの行動類型別事故件数の割合をみると、等速（直進）時95件（30.8%）が最も多く、次いで発進時59件（19.2%）、左折時44件（14.3%）となっている。

〔図 51〕 貸切バスの行動類型別事故件数の割合（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数

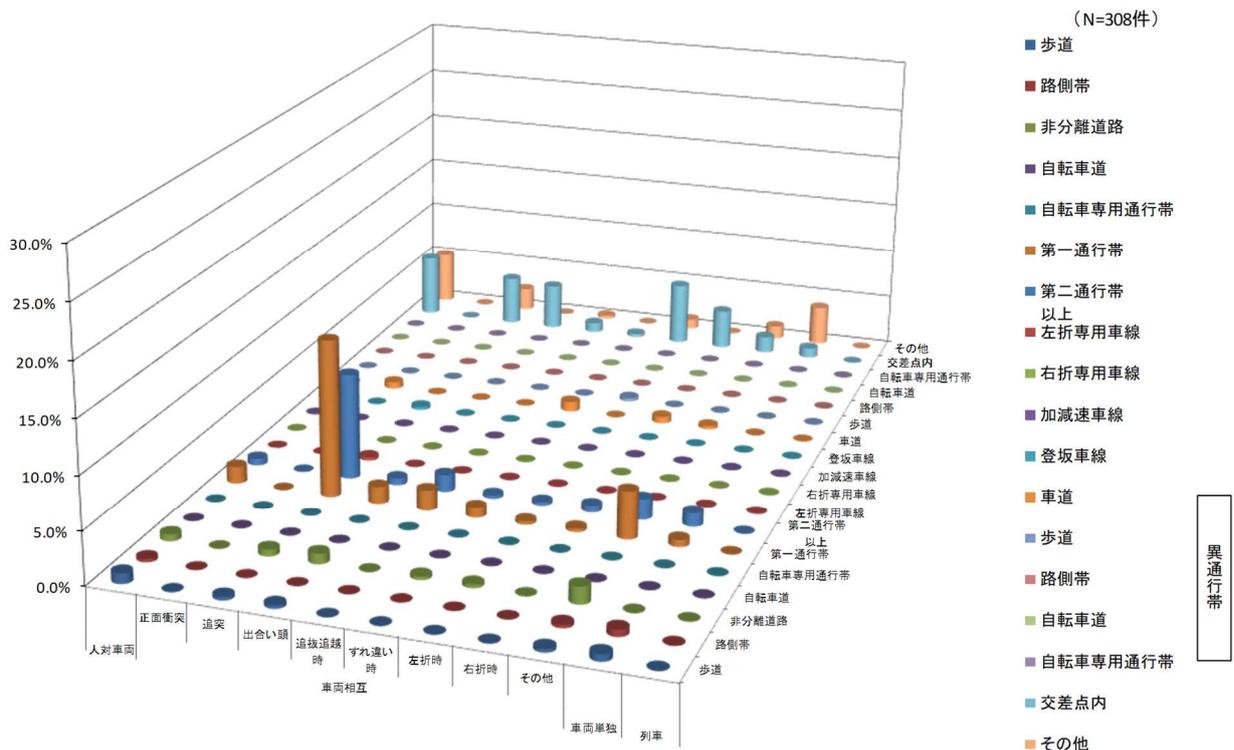
貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表41と図52に、死亡事故件数と構成比を表42と図53に示す。事故件数については、第一通行帯での追突事故46件（14.9%）が最も多く、死亡事故件数については、第一通行帯での出会い頭が1件、追抜追越時が1件、第二通行帯以上での人対車両が1件となっている。

〔表 41〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数（件）（平成30年）

		バス											合計
		貸切											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路 (交差点付近を含む)	歩道	3	0	1	1	0	0	0	0	1	2	0	8
	路側帯	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	4
	非分離道路	2	0	2	3	0	1	1	0	5	0	0	14
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	5	0	46	5	6	3	1	1	14	2	0	83
	第二通行帯以上	2	0	31	2	5	1	1	2	6	4	0	54
	左折専用車線	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異通行帯	登坂車線	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	車道	0	2	0	0	0	3	0	2	1	0	0	8
	歩道	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交差点内	19	0	15	14	3	1	19	12	5	3	0	91	
その他	16	0	7	0	1	0	3	0	4	12	0	43	
合計	48	2	104	25	15	9	26	17	37	25	0	308	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 52〕 貸切バスの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比（%）（平成30年）



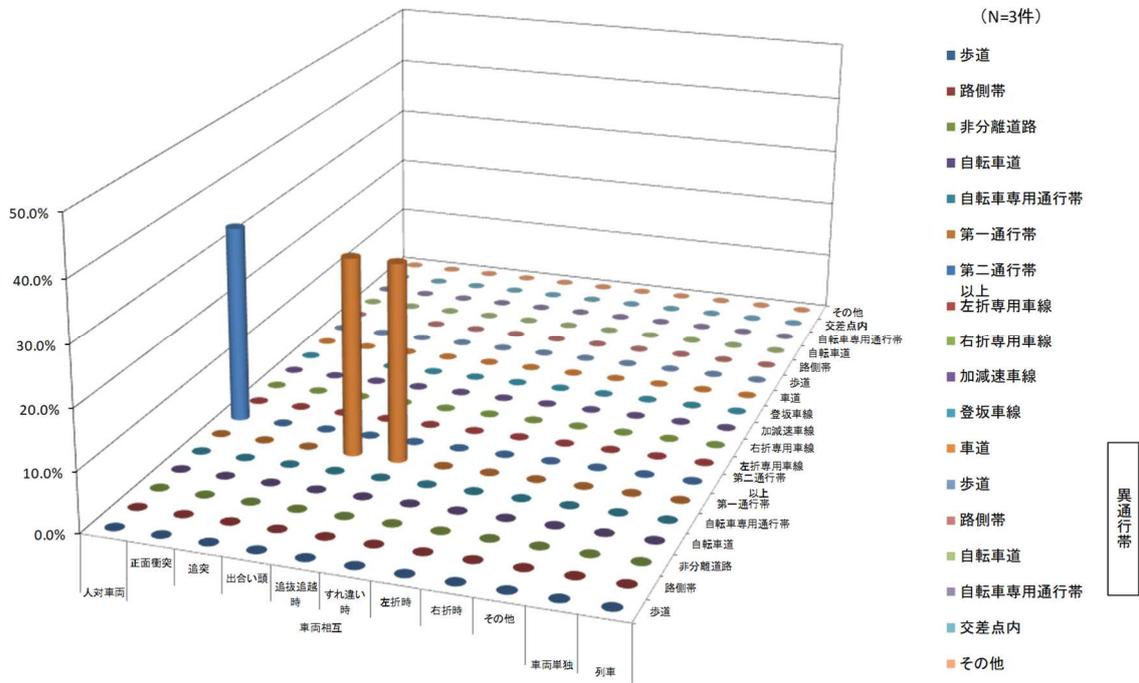
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 42] 貸切バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成30年）

		バス												
		貸切												
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他						
単路（交差点付近を含む）	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	非分離道路	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	第一通行帯	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	
	第二通行帯以上	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	異通行帯	車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
交差点内		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 53] 貸切バスの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（%）（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数

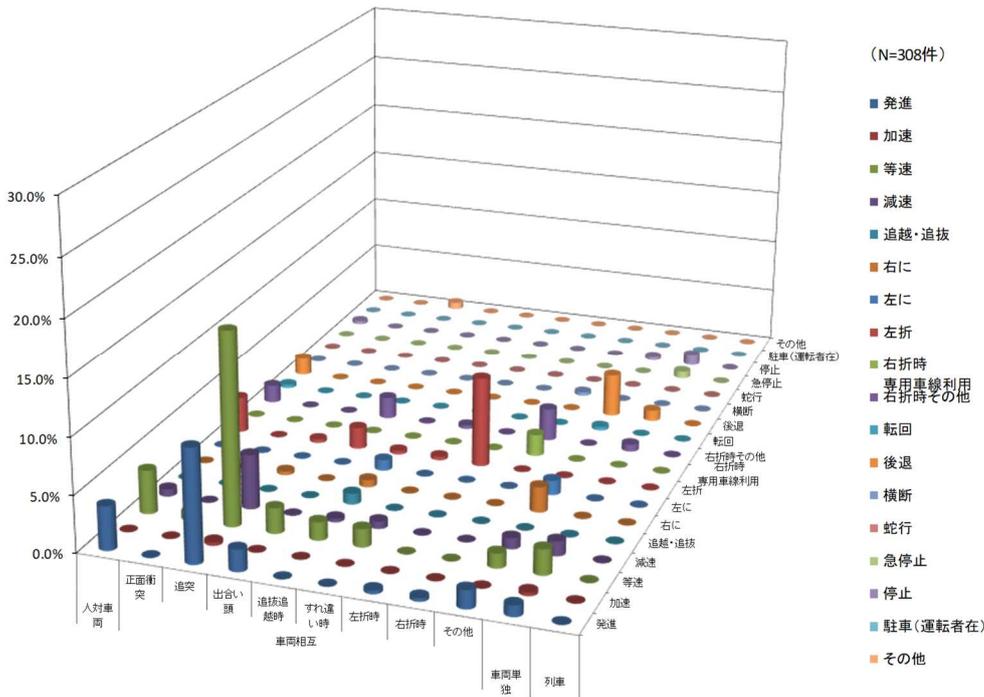
貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比をそれぞれ表43と図54に、死亡事故件数と構成比を表44と図55に示す。事故件数については、等速直進時の追突事故53件（17.2%）が最も多く、死亡事故件数については、発進時の人対車両事故が1件、等速直進時の出会い頭事故が1件、追越追抜時が1件となっている。

〔表 43〕 貸切バスの事故類型別、行動類型事故件数（件）（平成30年）

	貸切											
	人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
		正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他			
発進	12	0	31	6	0	0	1	1	5	3	0	59
直進	加速	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
	等速	12	2	53	7	5	5	0	4	7	0	95
	減速	2	0	15	0	1	2	0	0	3	4	27
追越・追抜	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
進路変更	右に	0	0	1	0	2	0	0	7	0	0	10
	左に	0	0	0	0	3	0	0	4	0	0	7
左折	10	0	1	6	1	1	25	0	0	0	0	44
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6
	その他	5	0	0	6	0	1	0	9	0	2	23
転回	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
後退	5	0	0	0	0	0	0	0	12	3	0	20
横断	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
停止	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	5
駐車(運転者在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	48	2	104	25	15	9	26	17	37	25	0	308

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 54〕 貸切バスの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（平成 30 年）



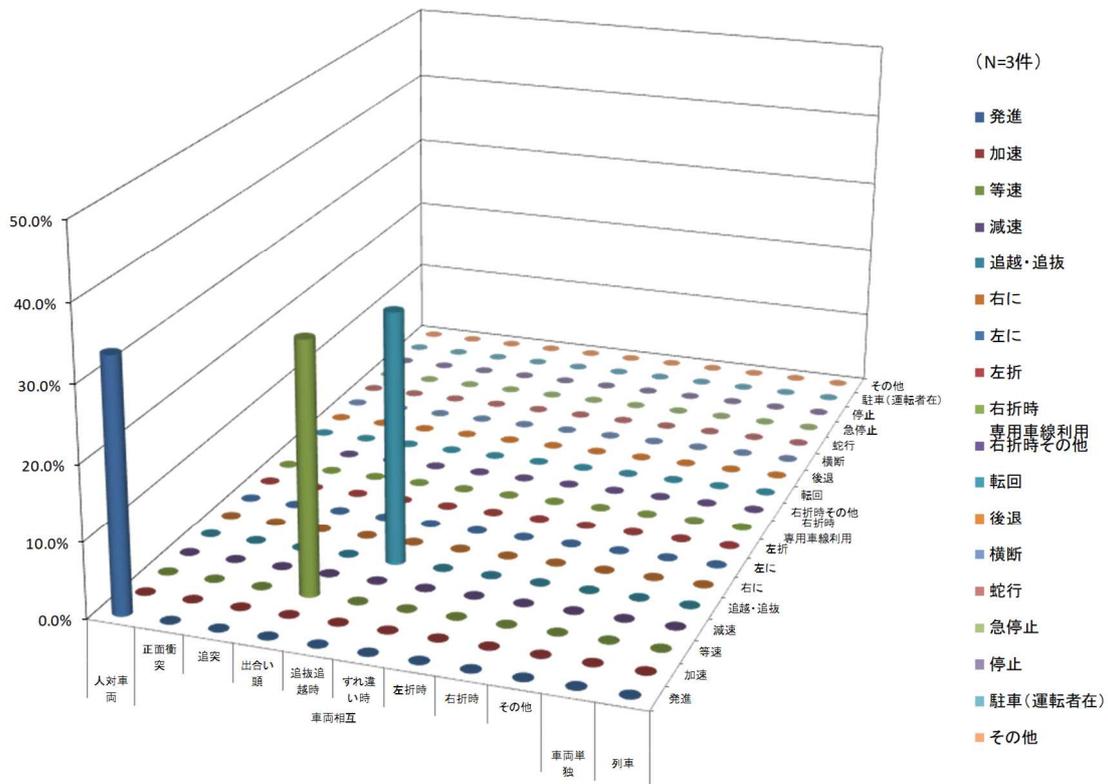
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 44] 貸切バスの事故類型別、行動類型死亡事故件数（件）（平成30年）

		貸切											合計	
		人対車両	車両相互								車両単独	列車		
			正面衝突	追突	出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他				
発進		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
直進	加速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	等速	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減速	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
追越・追抜		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 55] 貸切バスの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（%）（平成30年）

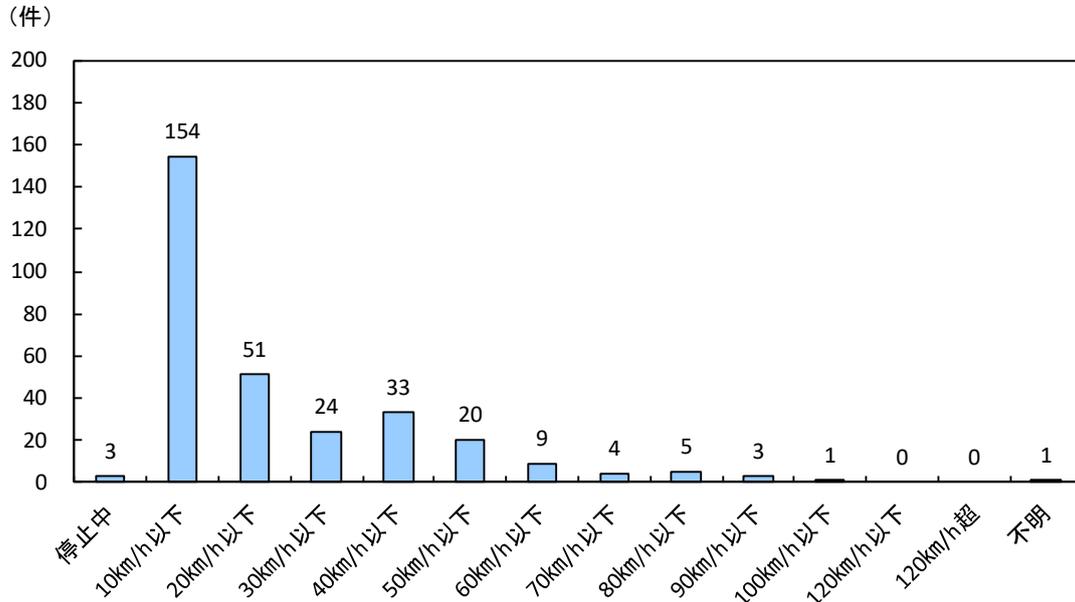


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) 貸切バスの危険認知速度別の事故件数

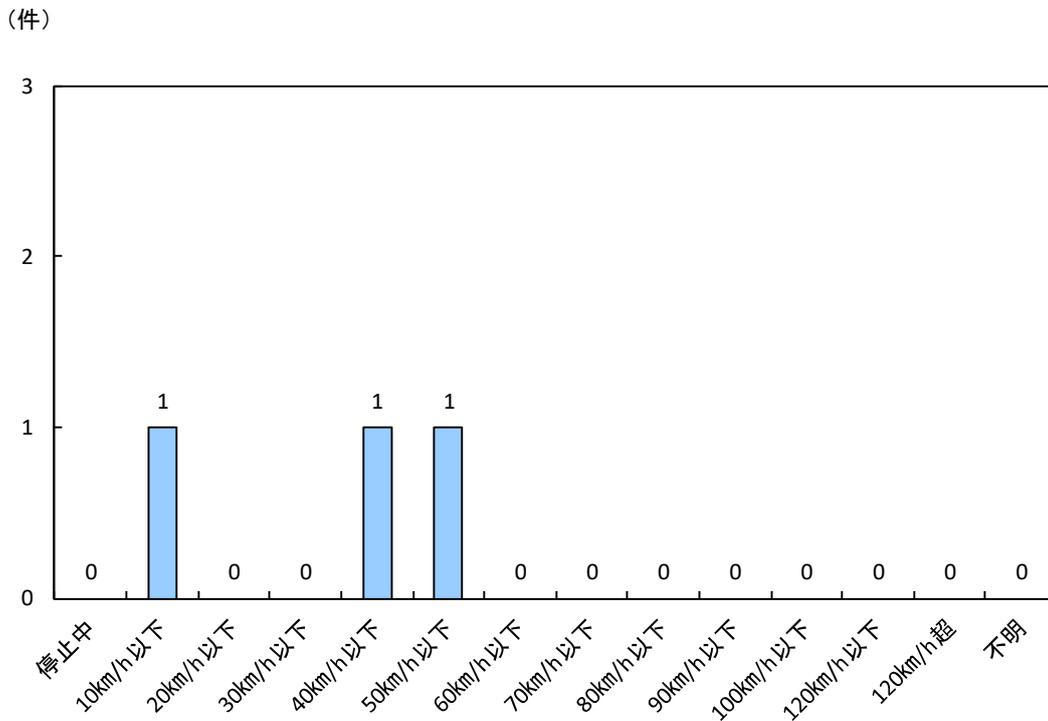
貸切バスの危険認知速度別の事故件数は10km/h以下で154件と最も多く発生しており、次いで10km/h～20km/h以下で51件、30km/h～40km/h以下で33件発生している。

〔図 56〕 貸切バスの危険認知速度別の事故件数（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 57〕 貸切バスの危険認知速度別の死亡事故件数（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) 貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

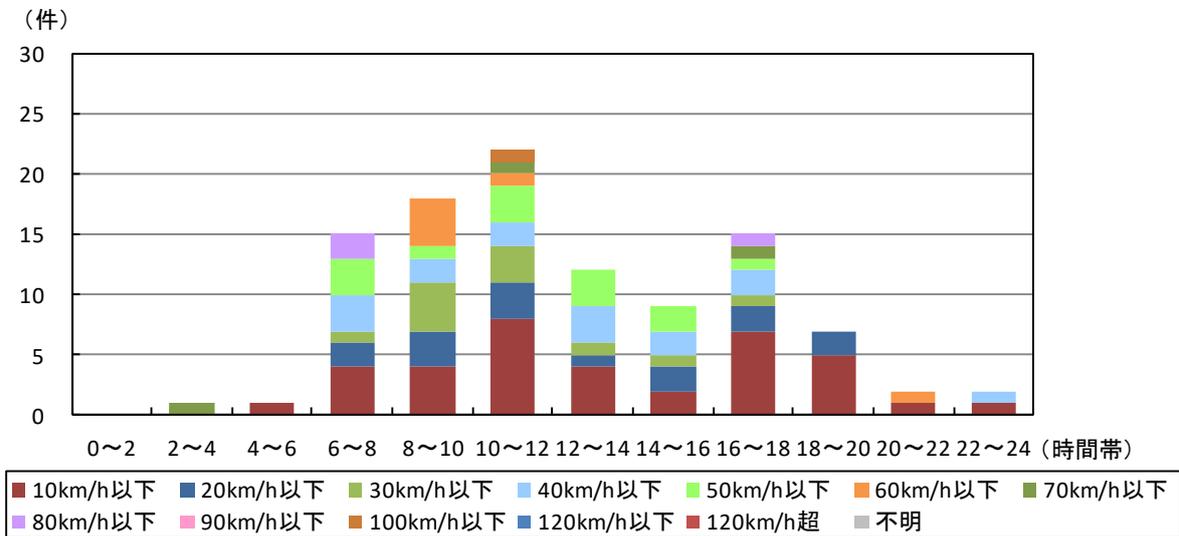
貸切バスの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布をみると、10時～11時台の時間帯に最も多く発生している。

〔表45〕 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成30年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	1	4	4	8	4	2	7	5	1	1	37
20km/h以下	0	0	0	2	3	3	1	2	2	2	0	0	15
30km/h以下	0	0	0	1	4	3	1	1	1	0	0	0	11
40km/h以下	0	0	0	3	2	2	3	2	2	0	0	1	15
50km/h以下	0	0	0	3	1	3	3	2	1	0	0	0	13
60km/h以下	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	1	0	6
70km/h以下	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	3
80km/h以下	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
90km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100km/h以下	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	1	15	18	22	12	9	15	7	2	2	104

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図58〕 貸切バスの追突の事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成30年）



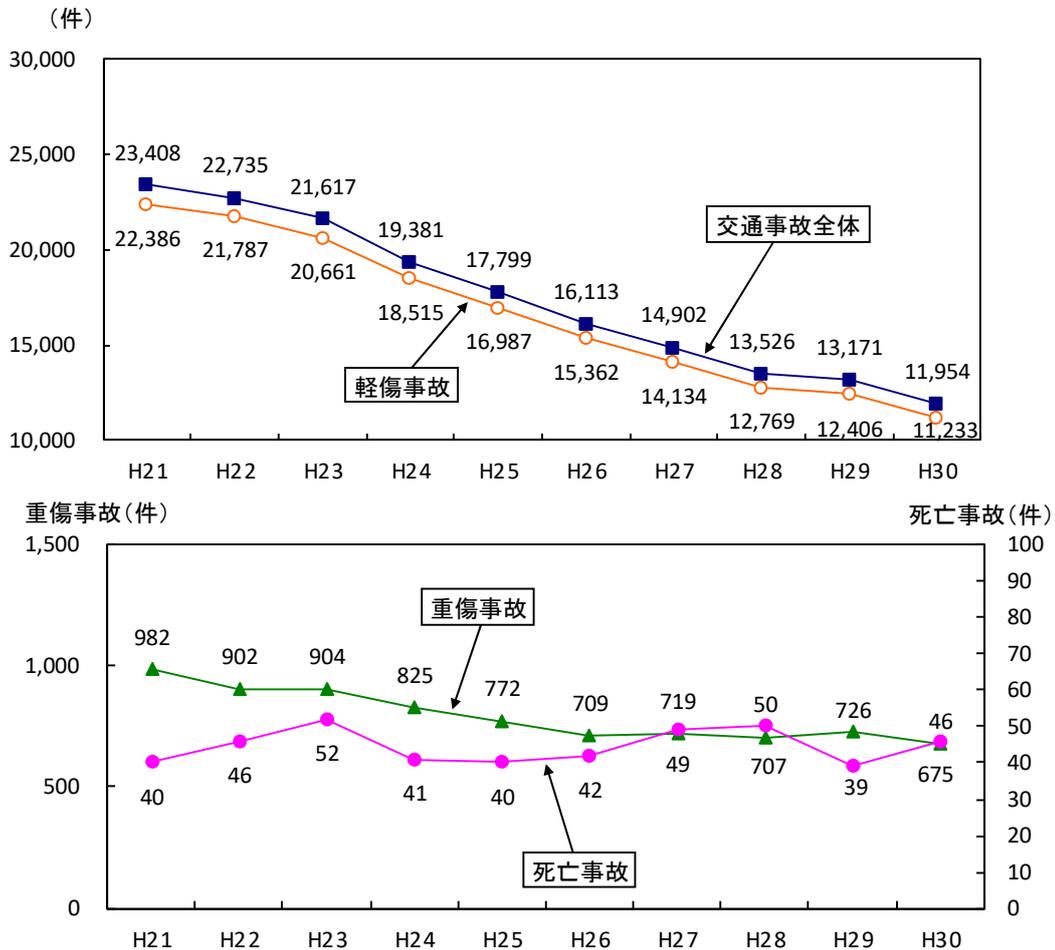
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

3. タクシーの事故

(1) タクシーの事故件数、死傷事故件数の推移

タクシーの事故件数は全体で減少傾向となっている。死亡事故件数については、前年に比べて7件増加している。

〔図 59〕 タクシーの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 46〕 タクシーの事故件数の推移 (件)

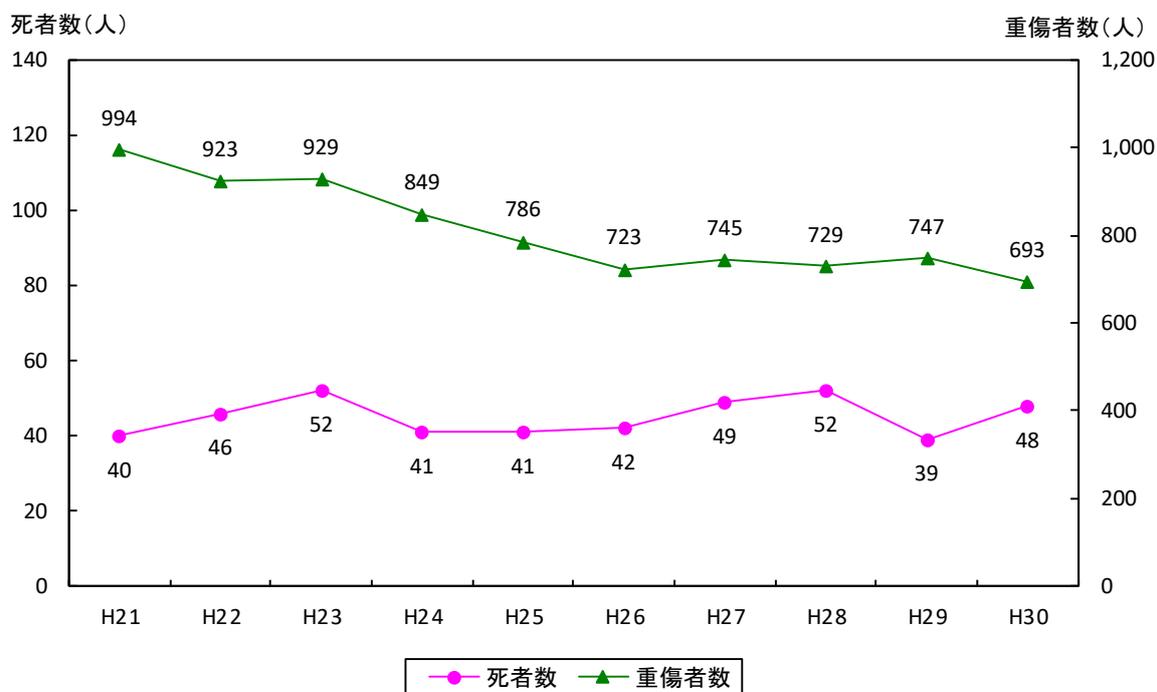
区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	交通事故全体
H21	40	982	22,386	23,408
H22	46	902	21,787	22,735
H23	52	904	20,661	21,617
H24	41	825	18,515	19,381
H25	40	772	16,987	17,799
H26	42	709	15,362	16,113
H27	49	719	14,134	14,902
H28	50	707	12,769	13,526
H29	39	726	12,406	13,171
H30	46	675	11,233	11,954

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) タクシーの事故の死傷者数の推移

タクシーの事故の重傷者数は減少しているが、死者数は平成30年は前年に比べて9人増加している。

〔図 60〕 タクシーの事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 47〕 タクシーの事故の死傷者数の推移（人）

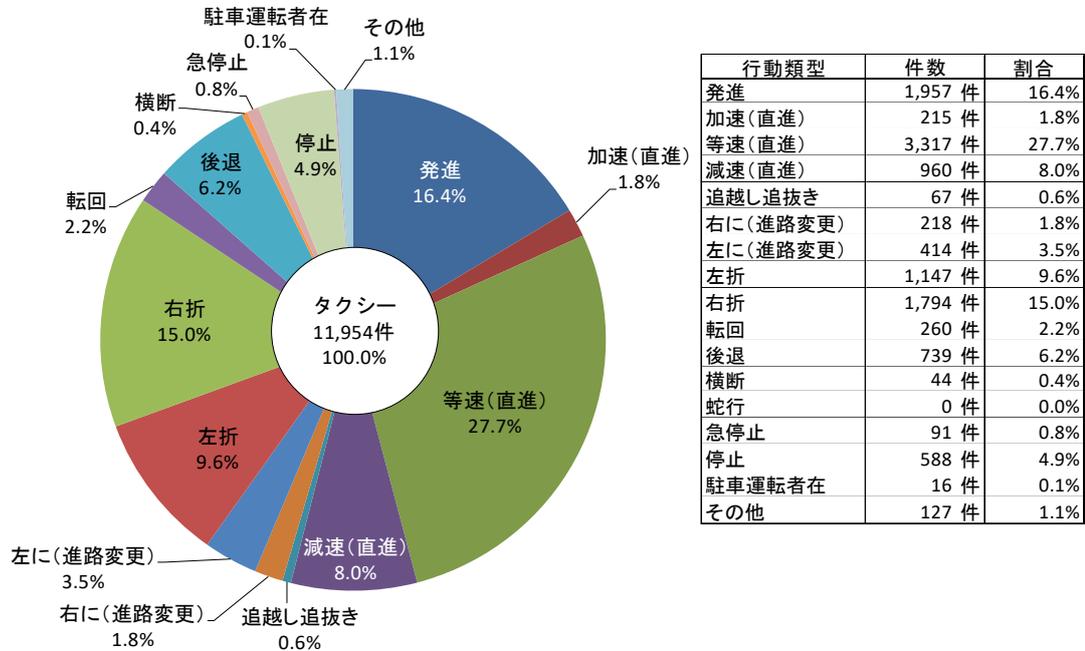
年	区分	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H21		40	994	25,963	26,997
H22		46	923	25,317	26,286
H23		52	929	24,167	25,148
H24		41	849	21,651	22,541
H25		41	786	19,992	20,819
H26		42	723	18,051	18,816
H27		49	745	16,622	17,416
H28		52	729	15,112	15,893
H29		39	747	14,593	15,379
H30		48	693	13,290	14,031

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) タクシーの行動類型別事故件数の割合

タクシーの行動類型別事故件数は、等速（直進）3,317件（27.7%）が最も多く、次いで発進1,957件（16.4%）、右折1,794件（15.0%）である。

〔図 61〕 タクシーの行動類型別事故件数の割合（平成30年）

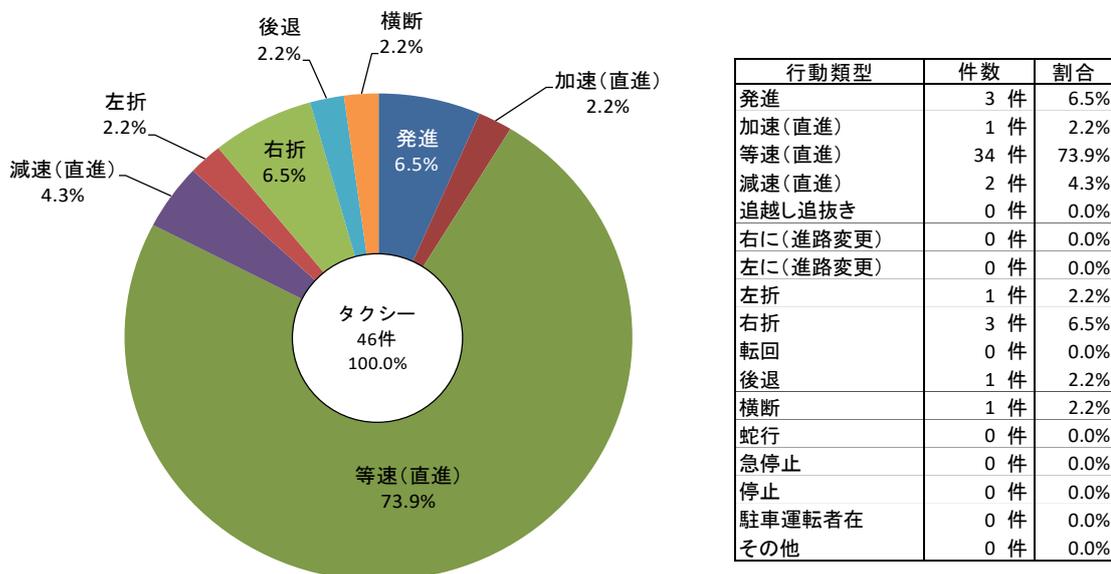


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合

タクシーの行動類型別死亡事故件数は、等速（直進）34件（73.9%）が大半を占めている。

〔図 62〕 タクシーの行動類型別死亡事故件数の割合（平成30年）

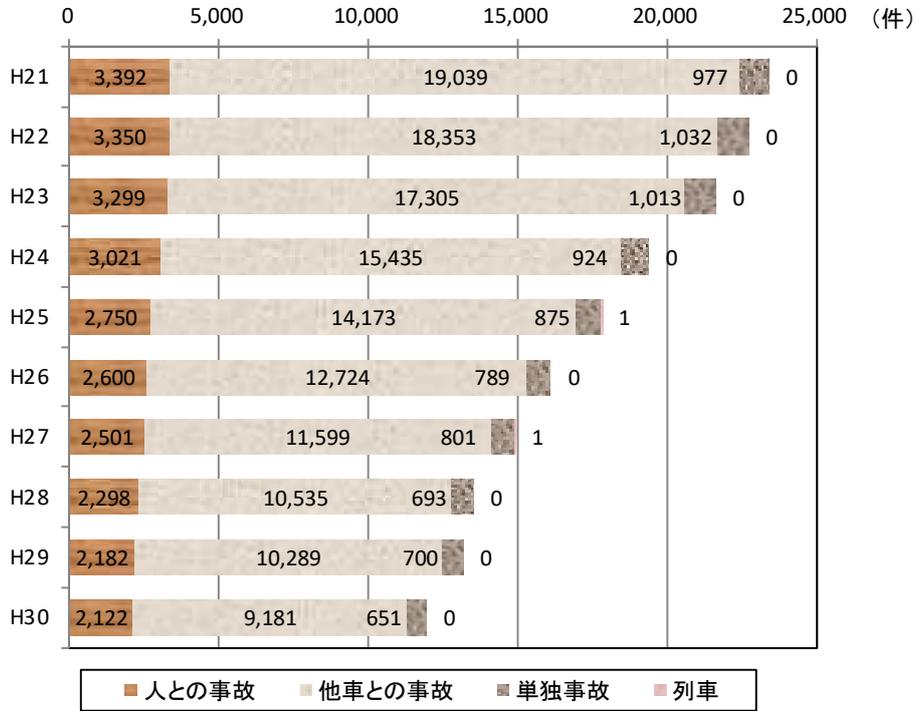


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(5) タクシーの事故類型別事故件数の割合の推移

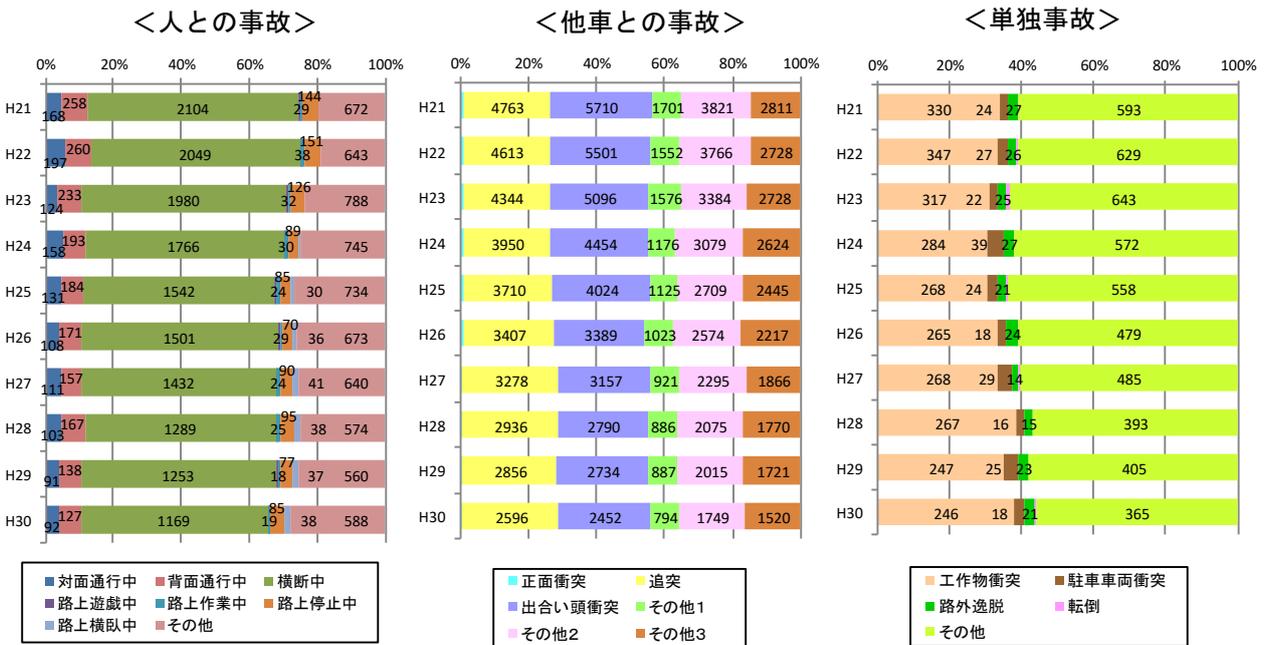
平成30年のタクシーの事故は、他車との事故が9,181件で8割弱を占めており、そのうち追突と出合い頭衝突が半分以上を占めている。

〔図 63〕 タクシーの事故類型別事故件数の割合



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 64〕 タクシーの事故類型別事故件数の内訳の推移



※路上横臥中は H24 より分類

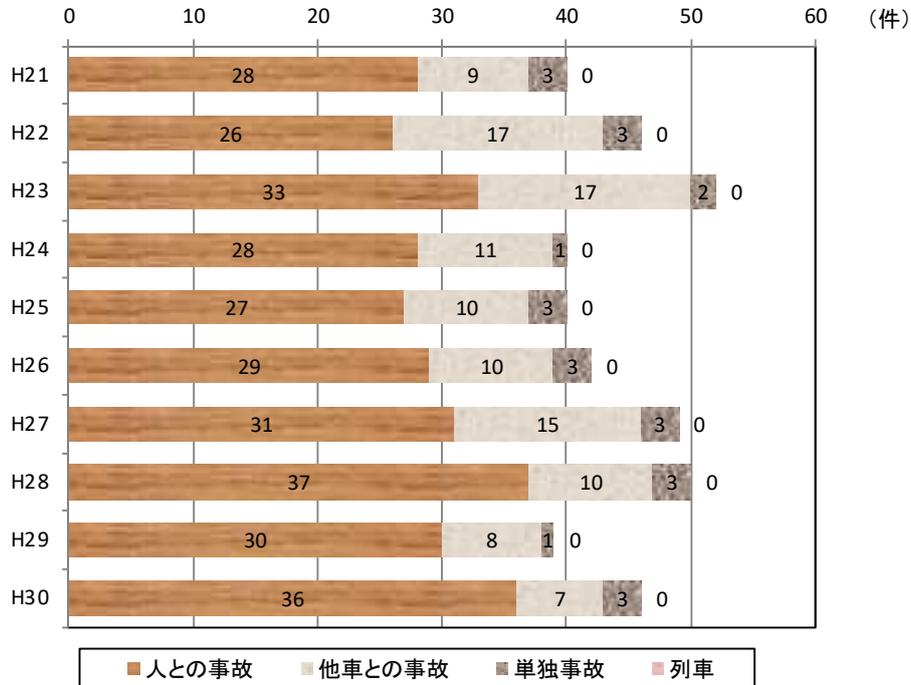
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合の推移

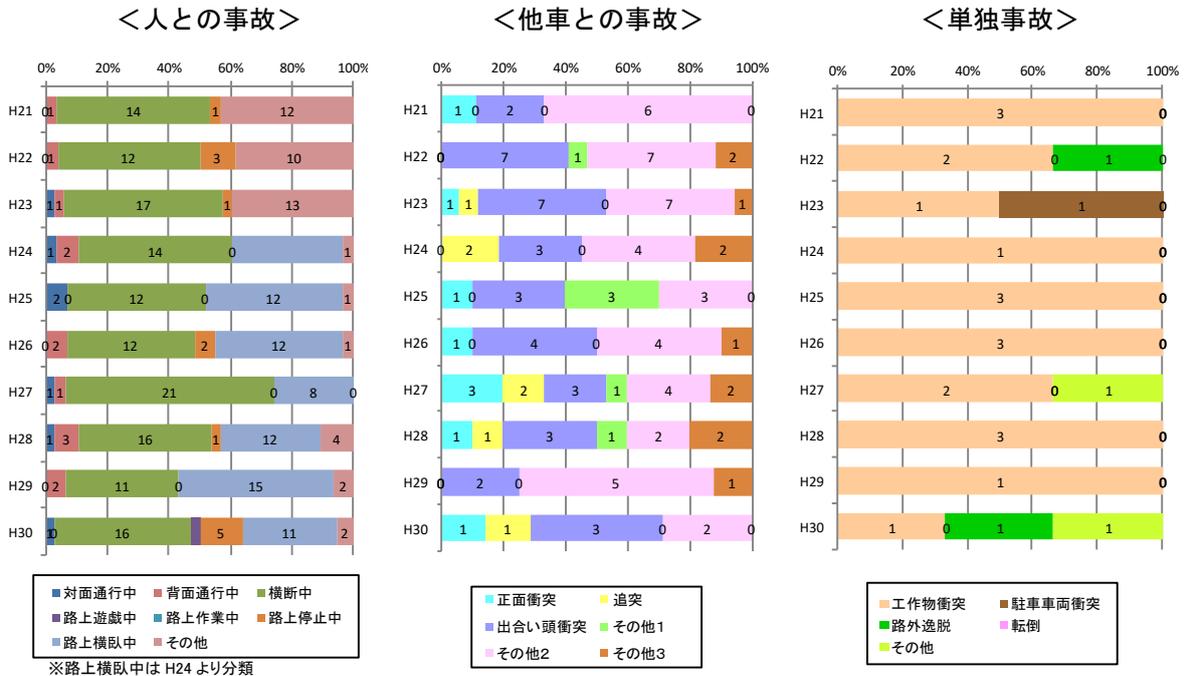
平成30年のタクシーの死亡事故は、人との事故が36件で8割弱を占めており、そのうち、横断中の事故が16件となっている。

[図 65] タクシーの事故類型別死亡事故件数の割合の推移



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 66] タクシーの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移



※路上横臥中は H24 より分類

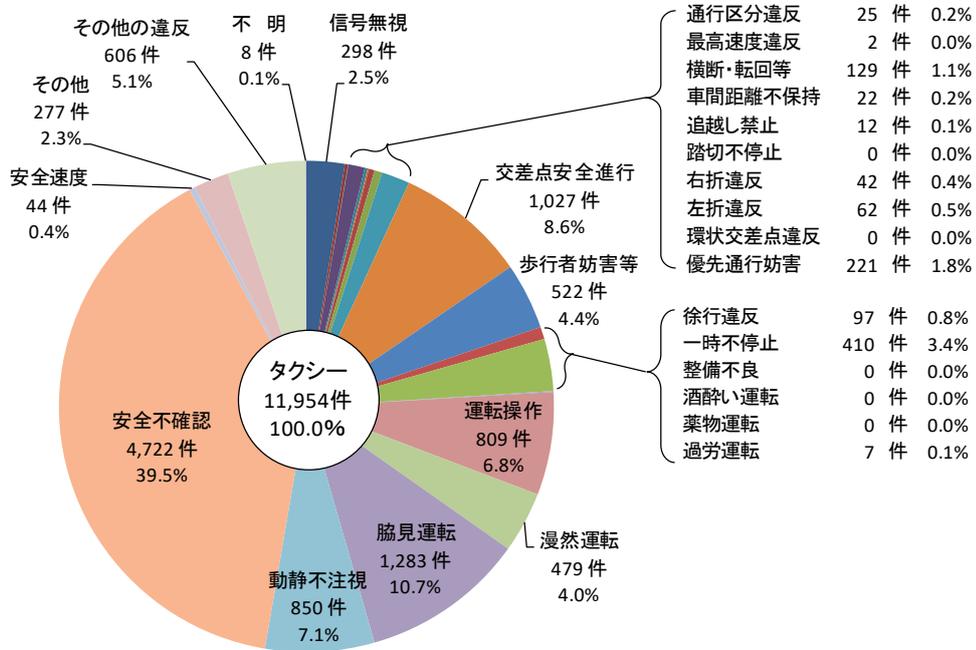
その他 1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他 2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他 3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) タクシーの法令違反別の事故件数の割合

タクシーの法令違反別の事故件数は、「安全不確認」4,722件（39.5%）が最も多く、次いで「脇見運転」1,283件（10.7%）、「交差点安全進行」1,027件（8.6%）となっている。

〔図 67〕 タクシーの法令違反別事故件数の割合（平成30年）

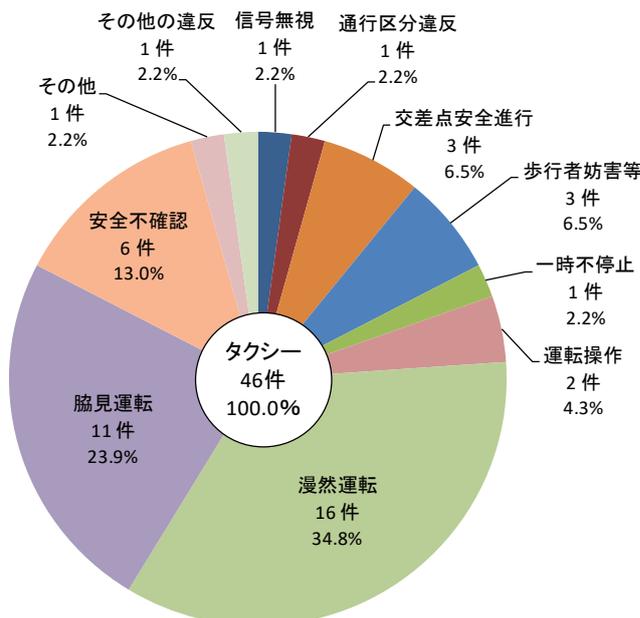


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) タクシーの法令違反別の死亡事故件数の割合

タクシーの法令違反別の死亡事故件数は、「漫然運転」16件（34.8%）が最も多く、次いで「脇見運転」11件（23.9%）、「安全不確認」6件（13.0%）となっている。

〔図 68〕 タクシーの法令違反別死亡事故件数の割合（平成30年）

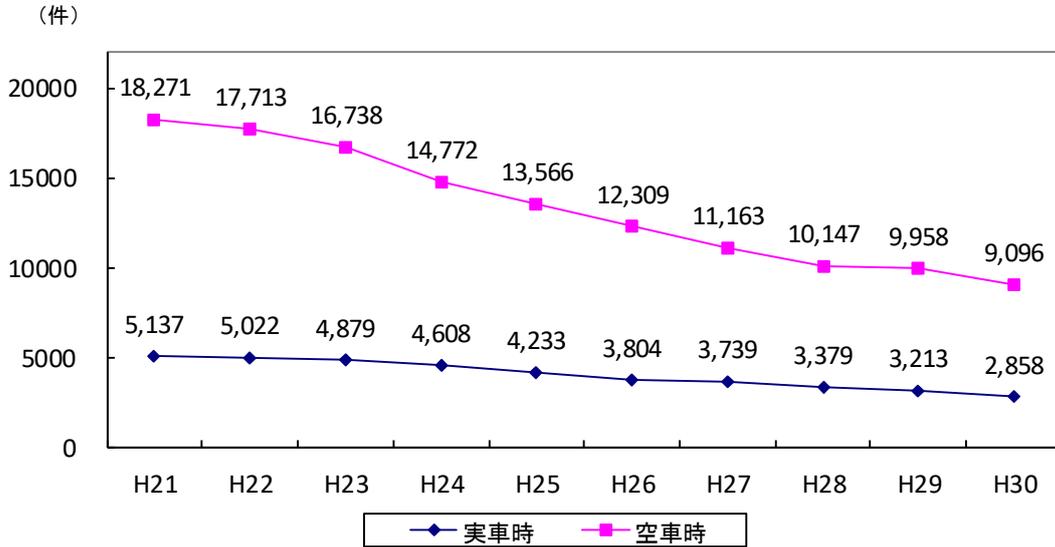


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) タクシーの事故件数（空車時、実車時）

タクシーの事故件数（空車時、実車時）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。空車時、実車時ともに減少傾向となっている。

〔図 69〕 タクシーの事故件数（空車時、実車時）

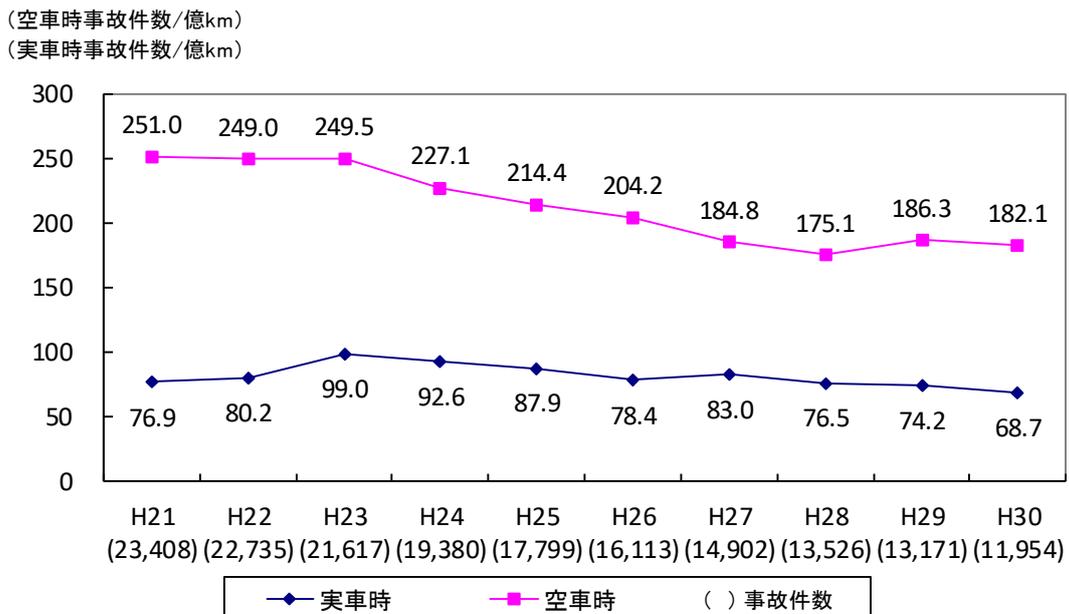


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数（空車キロ、実車キロ）

タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数（空車キロ、実車キロ）は、空車時が実車時と比べて多く発生している。空車時は減少傾向であったが、前年は増加し、平成 30 年は減少している。実車時は横ばいで推移している。

〔図 70〕 タクシーの走行距離 1 億キロあたりの事故件数



注1：（ ）内の数字は空車時と実車時を合わせた事故件数，単位是件

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
国土交通省「自動車輸送統計調査」「自動車燃料消費量調査」

(11) タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数

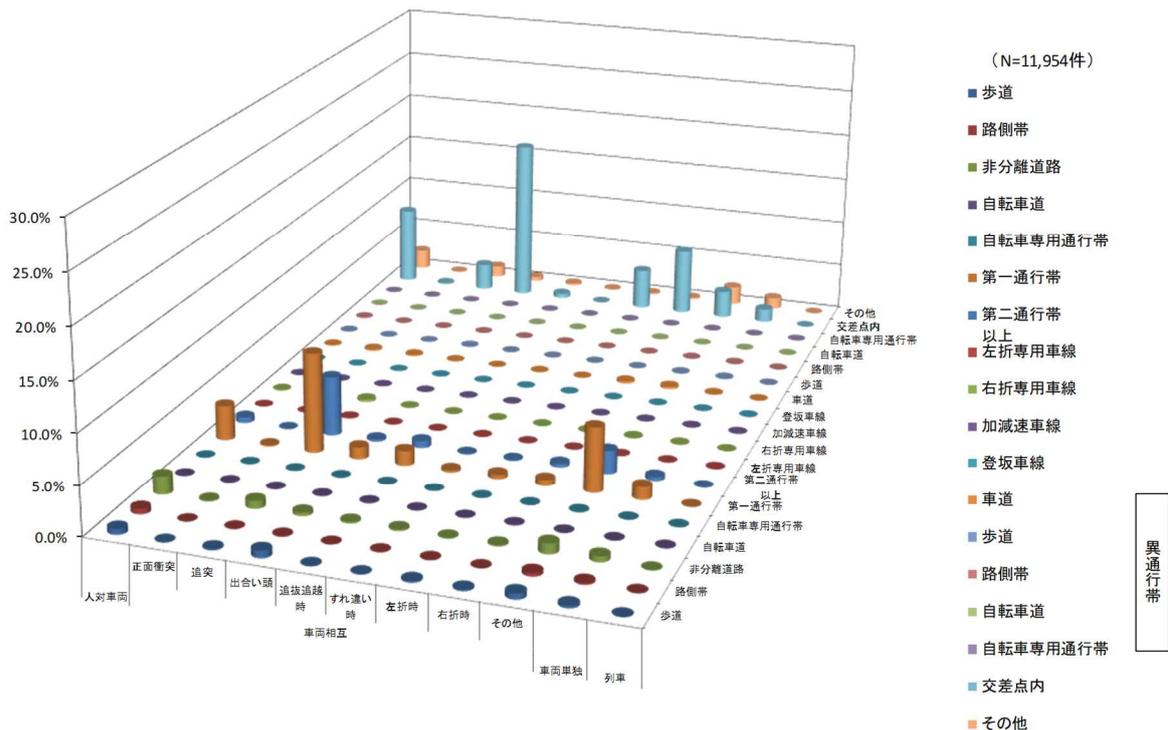
タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表48と図71に、死亡事故件数と構成比を表49と図72に示す。事故件数については、交差点内での出会い頭事故2,073件(17.3%)が最も多く、死亡事故件数については、第一通行帯での人対車両事故19件(41.3%)が多くなっている。

[表 48] タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数 (件) (平成30年)

		タクシー											
		合計											合計
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路 (交差点付近を含む)	歩道	67	2	16	86	5	1	19	14	68	28	0	306
	路側帯	64	0	4	7	2	3	5	2	41	21	0	149
	非分離道路	219	12	93	41	19	18	8	15	124	67	0	616
	自転車道	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	0	5
	自転車専用通行帯	1	0	2	0	0	0	0	0	5	0	0	8
	第一通行帯	426	15	1,220	148	182	28	55	73	788	155	0	3,090
	第二通行帯以上	71	3	726	29	85	6	11	45	287	47	0	1,310
	左折専用車線	1	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	6
	右折専用車線	5	0	30	2	0	0	0	2	7	3	0	49
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異通行帯	車道	7	18	13	5	1	4	1	25	27	6	0	107
	歩道	4	0	0	5	1	0	2	2	5	7	0	26
	路側帯	5	0	0	1	0	0	0	0	2	5	0	13
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内		1,001	15	342	2,073	57	5	514	850	349	169	0	5,375
その他		251	5	144	54	24	7	17	16	231	143	0	892
合計		2,122	70	2,596	2,452	377	73	632	1,044	1,937	651	0	11,954

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 71] タクシーの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比 (%) (平成 30 年)



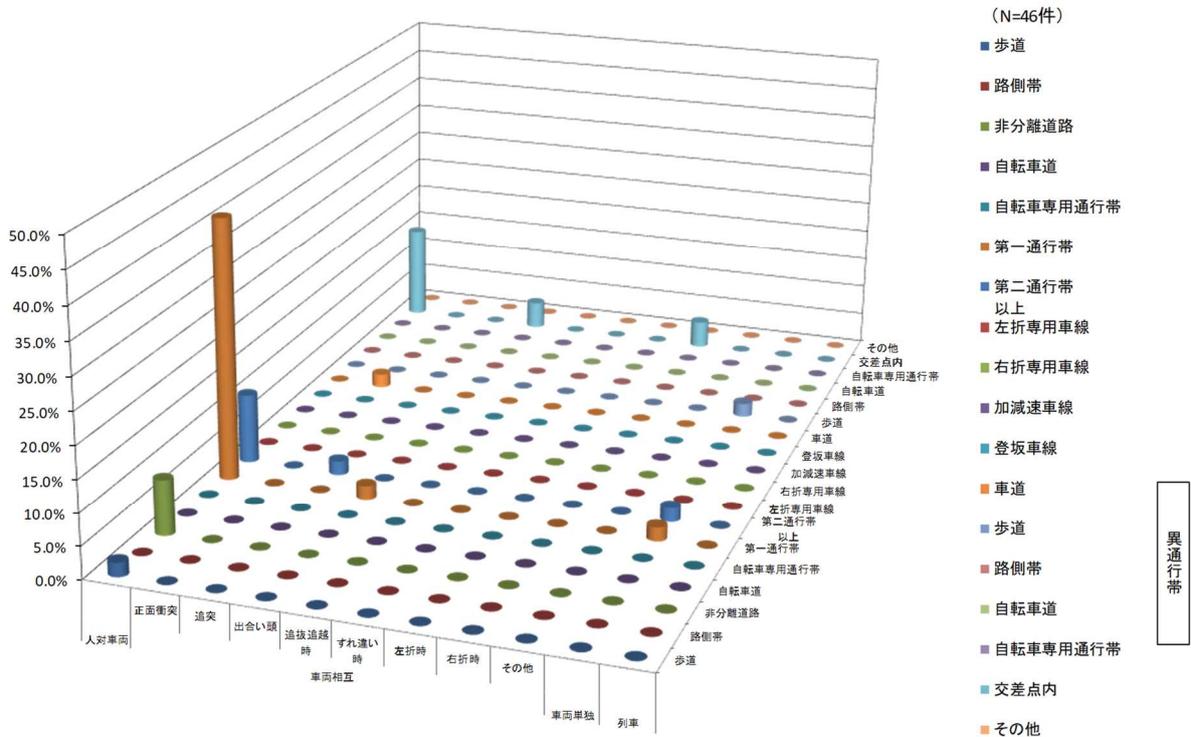
出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 49] タクシーの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成30年）

		タクシー													
		合計													
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計		
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他							
単路（交差点付近を含む）	歩道	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	非分離道路	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	第一通行帯	19	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	21	
	第二通行帯以上	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7	
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	右折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	異通行帯	車道	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
自転車専用通行帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
交差点内		7	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	11	
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		36	1	1	3	0	0	0	2	0	3	0	0	46	

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 72] タクシーの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（%）（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数

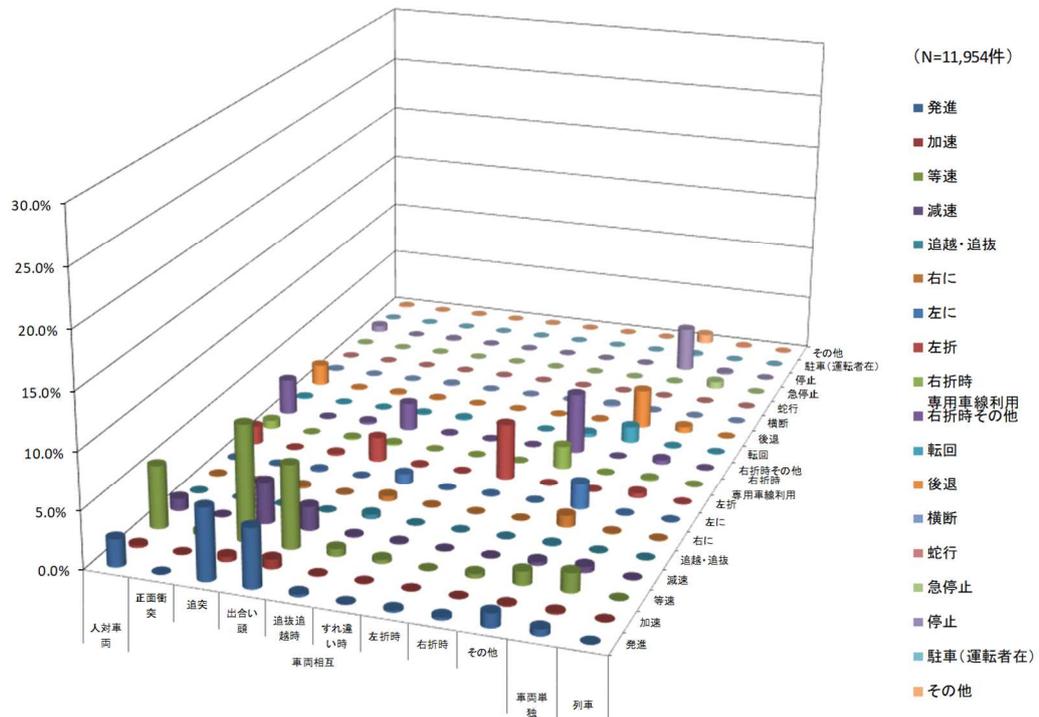
タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比を表50と図73に、死亡事故件数と構成比を表51と図74に示す。事故件数については、等速直進時の追突事故1,221件（10.2%）が最も多く、死亡事故件数については、等速直進時の人対車両事故30件（65.2%）が多くなっている。

〔表50〕 タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数（件）（平成30年）

		タクシー											合計
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		287	2	750	616	29	4	21	30	148	70	0	1,957
直進	加速	25	2	54	99	5	1	1	1	12	15	0	215
	等速	663	42	1,221	874	79	42	2	45	145	204	0	3,317
	減速	130	5	439	252	13	12	2	5	39	63	0	960
	追越・追抜	3	0	1	0	48	2	0	2	10	1	0	67
進路変更	右に	7	2	20	1	54	4	0	0	124	6	0	218
	左に	8	1	14	0	108	2	4	1	273	3	0	414
右折時	左折	196	4	22	262	11	2	598	0	0	52	0	1,147
	専用車線利用	90	0	14	17	0	0	0	245	0	14	0	380
	その他	381	6	27	298	7	3	0	645	0	47	0	1,414
	転回	11	0	2	8	16	1	1	40	175	6	0	260
	後退	226	6	13	9	0	0	0	9	411	65	0	739
	横断	7	0	0	13	1	0	2	19	2	0	0	44
	蛇行	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	急停止	4	0	3	0	1	0	1	1	5	76	0	91
	停止	72	0	12	3	3	0	0	1	478	19	0	588
	駐車(運転者在)	2	0	0	0	0	0	0	0	13	1	0	16
	その他	10	0	4	0	2	0	0	0	102	9	0	127
	合計	2,122	70	2,596	2,452	377	73	632	1,044	1,937	651	0	11,954

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図73〕 タクシーの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（平成30年）



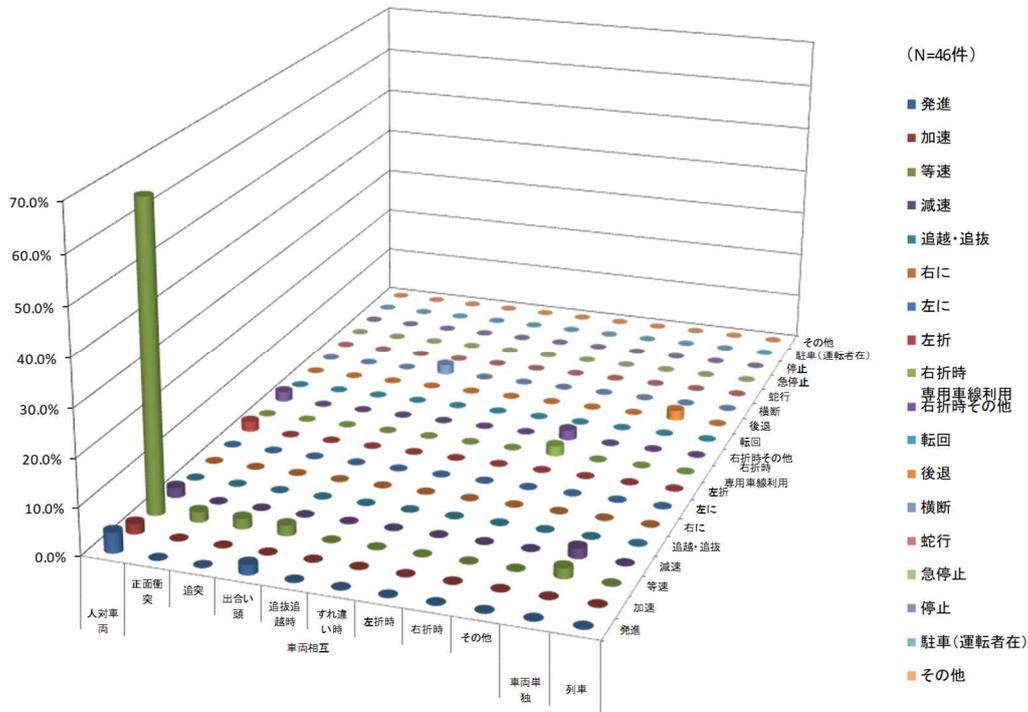
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 51〕 タクシーの事故類型別、行動類型死亡事故件数（件）（平成30年）

		タクシー											
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
直進	加速	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	等速	30	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	34
	減速	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
追越・追抜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	右に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	左に	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
左折		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
右折時	専用車線利用	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	その他	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
後退		0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
横断		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		36	1	1	3	0	0	0	2	0	3	0	46

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 74〕 タクシーの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（平成 30 年）

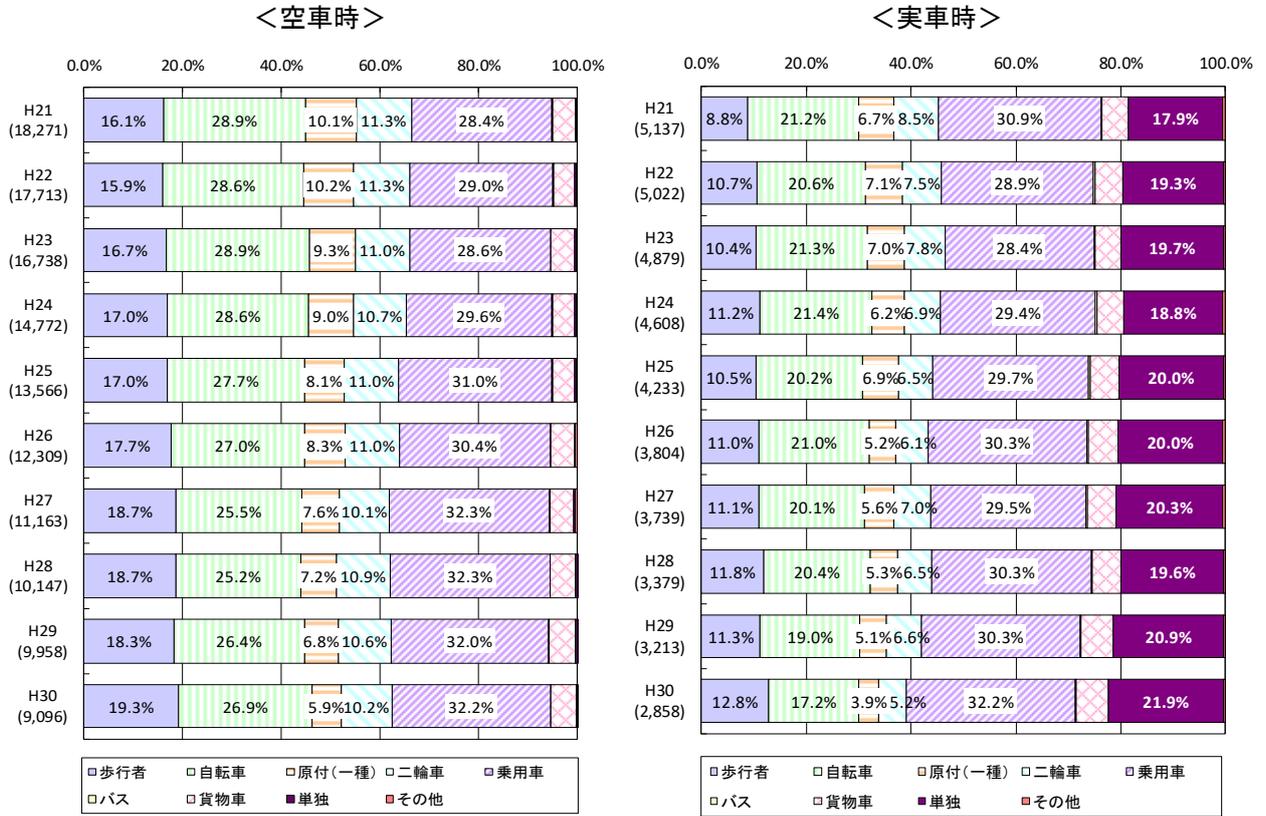


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) タクシーの事故の相手方の割合の推移（空車時、実車時）

実車時は、空車時に比べて単独の事故が圧倒的に多くなっている。

〔図 75〕 タクシーの事故の相手方の割合の推移



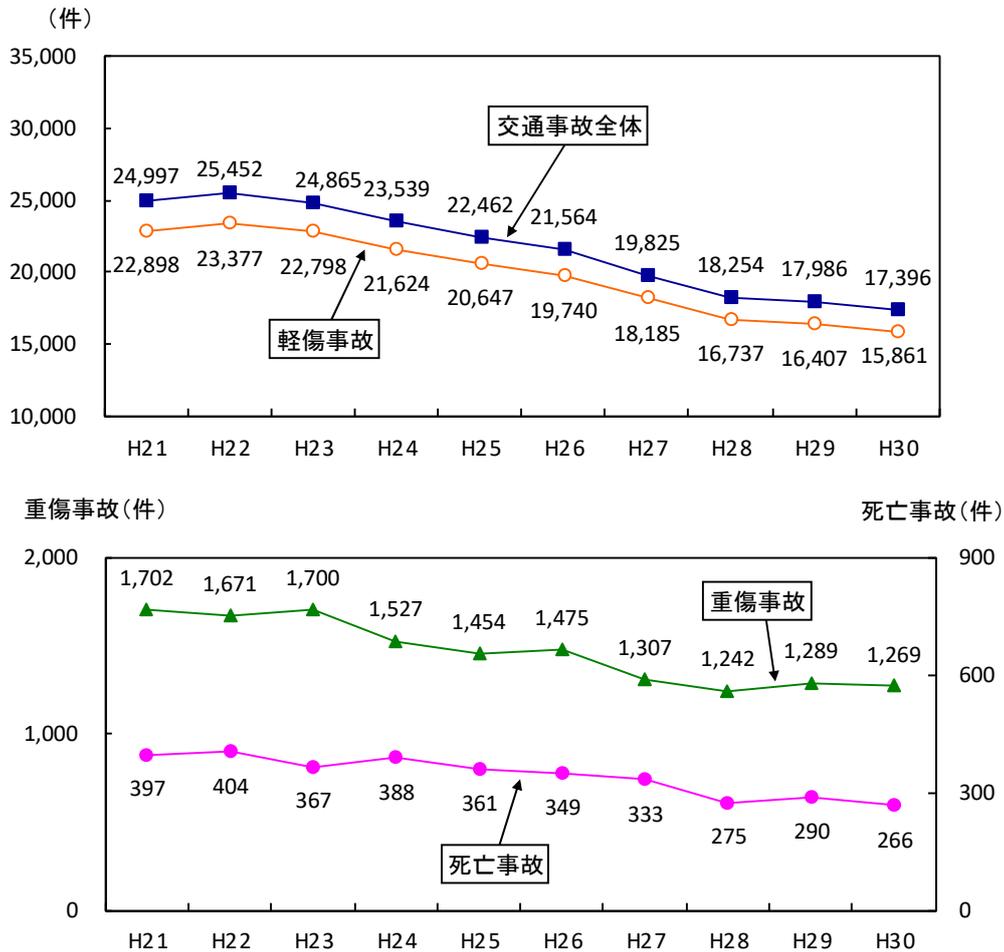
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

4. トラックの事故

(1) トラックの事故件数、死傷事故件数の推移

平成30年のトラックによる事故件数は17,396件で前年より3.3%減少している。死傷事故件数別では、死亡事故、重傷事故、軽傷事故全て減少している。

〔図 76〕 トラックの全事故及び死傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 52〕 トラックの事故件数の推移（件）

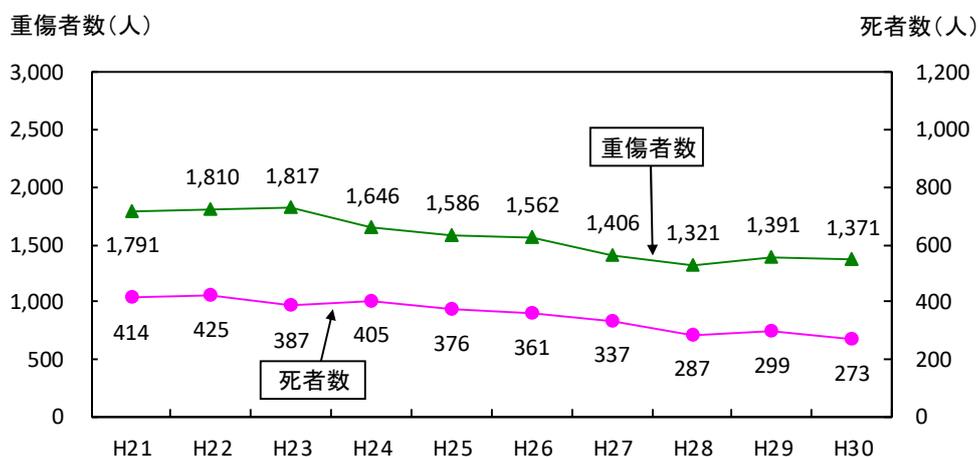
区分 年	死亡事故	重傷事故	軽傷事故	事故全体
H21	397	1,702	22,898	24,997
H22	404	1,671	23,377	25,452
H23	367	1,700	22,798	24,865
H24	388	1,527	21,624	23,539
H25	361	1,454	20,647	22,462
H26	349	1,475	19,740	21,564
H27	333	1,307	18,185	19,825
H28	275	1,242	16,737	18,254
H29	290	1,289	16,407	17,986
H30	266	1,269	15,861	17,396

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(2) トラック事故の死傷者数の推移

トラックの事故による死者数、重傷者数の推移をみると減少傾向にあり、前年は増加したが平成30年は死者数、重傷者数ともに減少している。

〔図 77〕 トラック事故の死傷者数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 53〕 トラック事故の死傷者数の推移（人）

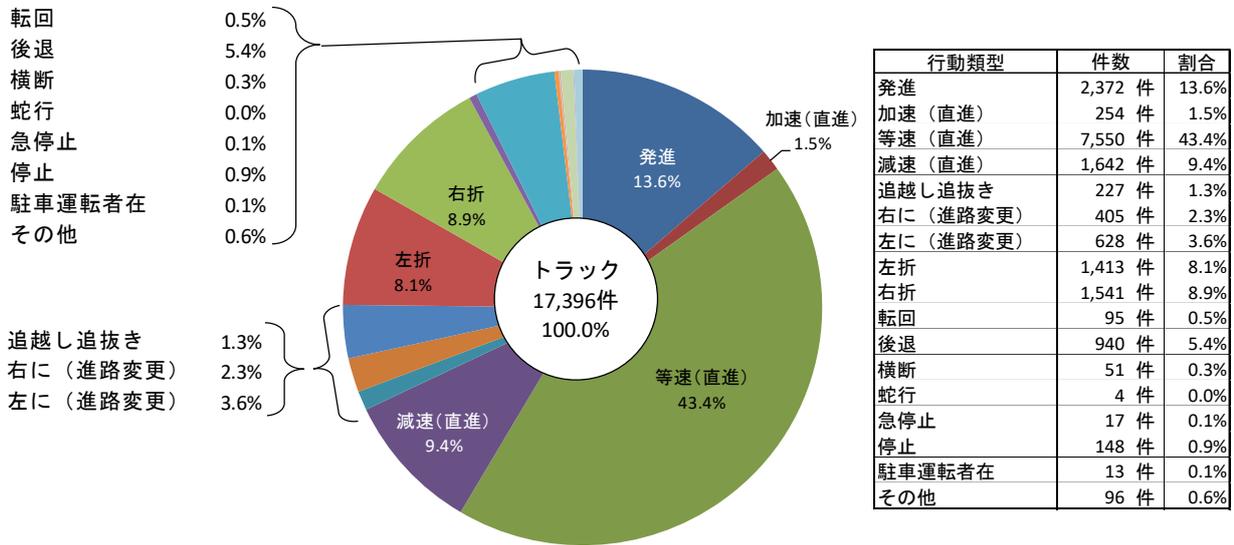
年	区分	死者数	重傷者数	軽傷者数	死傷者合計
H21		414	1,791	30,227	32,432
H22		425	1,810	31,171	33,406
H23		387	1,817	30,436	32,640
H24		405	1,646	28,824	30,875
H25		376	1,586	27,636	29,598
H26		361	1,562	26,499	28,422
H27		337	1,406	24,253	25,996
H28		287	1,321	22,081	23,689
H29		299	1,391	21,528	23,218
H30		273	1,371	20,720	22,364

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(3) トラックの行動類型別事故件数の割合

トラックの行動類型別事故件数は、等速（直進）7,550件（43.4%）が最も多く、次いで発進時2,372件（13.6%）となっている。

〔図78〕 トラックの行動類型別事故件数の割合（平成30年）

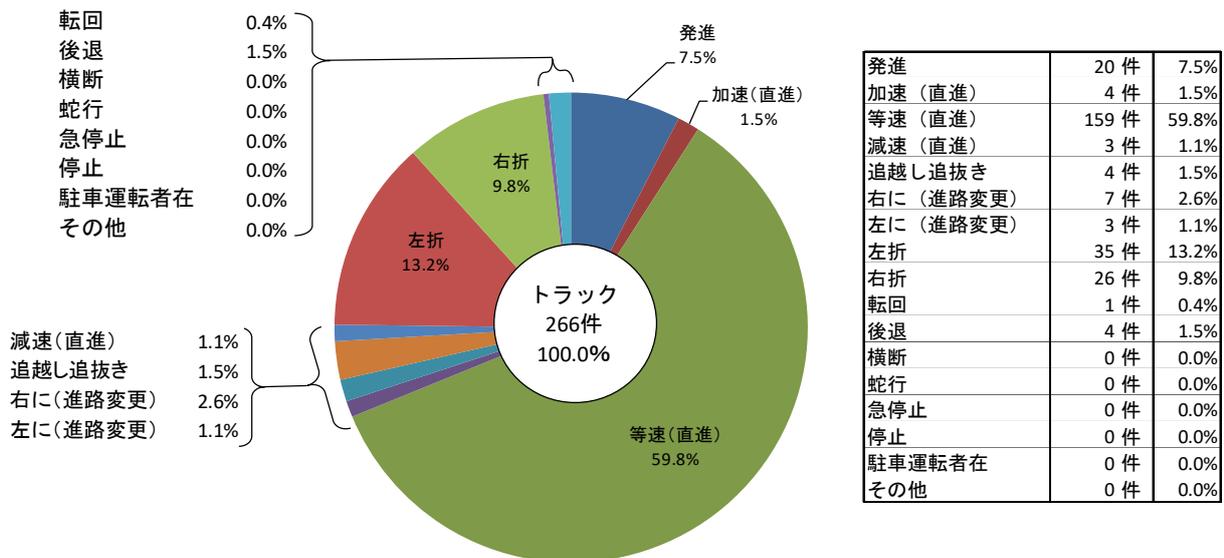


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(4) トラックの行動類型別死亡事故件数の割合

トラックの行動類型別死亡事故件数は、事故全体と同じく等速（直進）159件（59.8%）が最も多く、次いで左折35件（13.2%）、右折26件（9.8%）となっている。

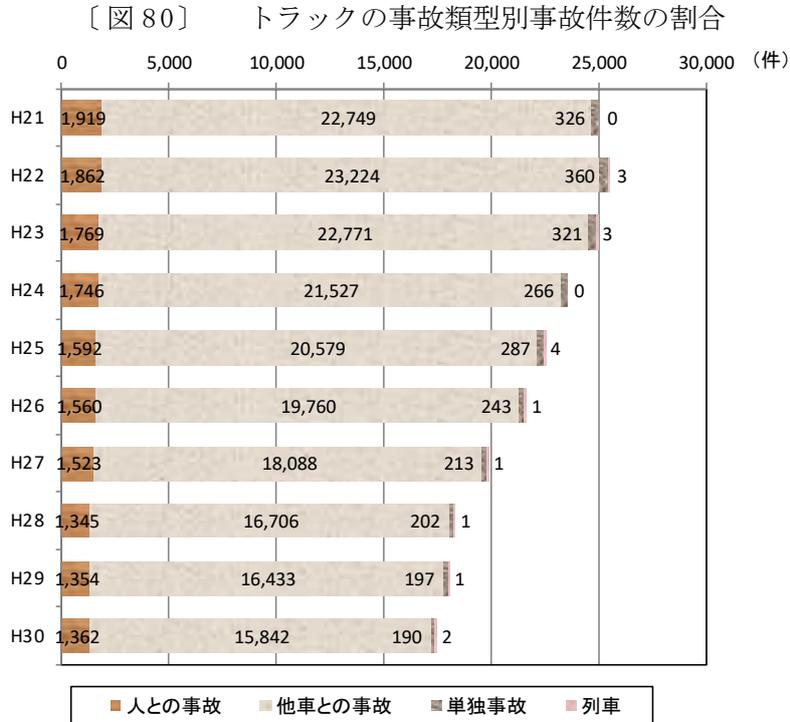
〔図79〕 トラックの行動類型別死亡事故件数の割合（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

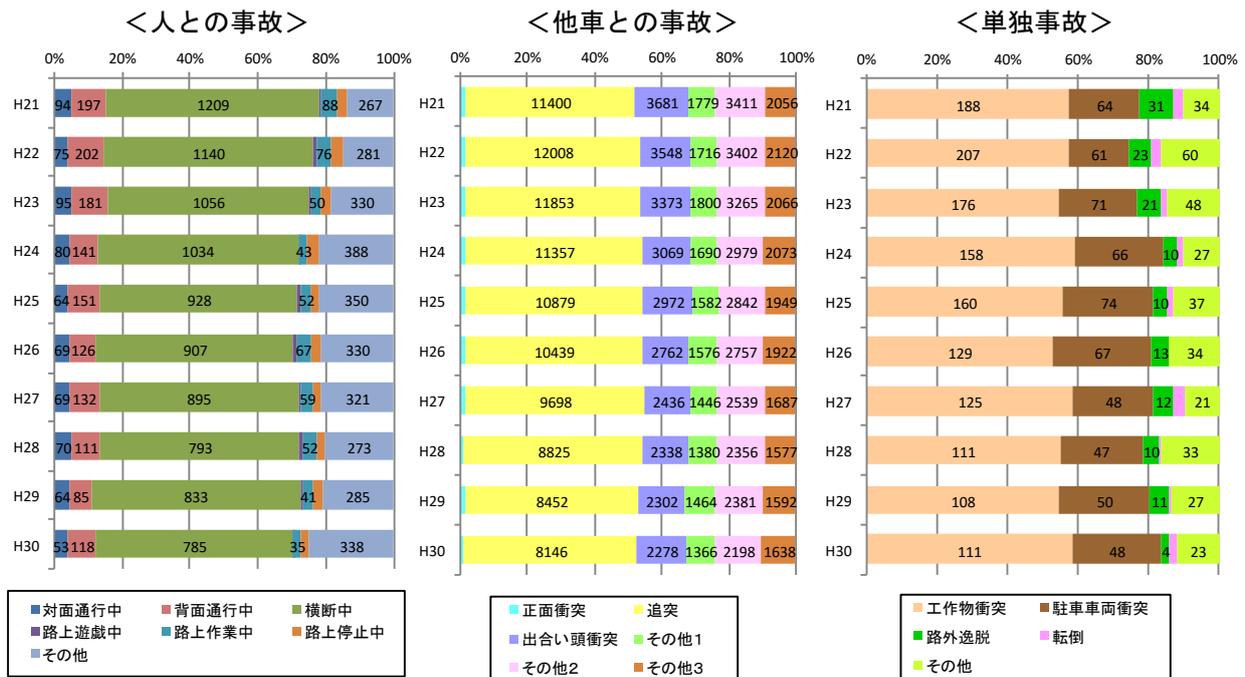
(5) トラックの事故類型別事故件数の割合

トラックの事故は、他車との事故が約9割を占めており、そのうち約5割は追突事故となっている。



出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図81〕 トラックの事故類型別事故件数の内訳



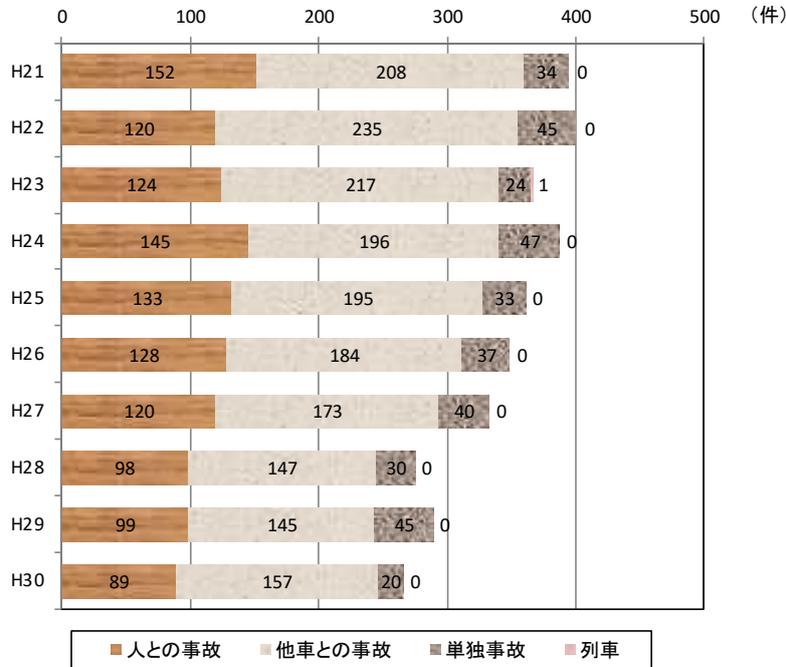
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(6) トラックの事故類型別死亡事故件数の割合の推移

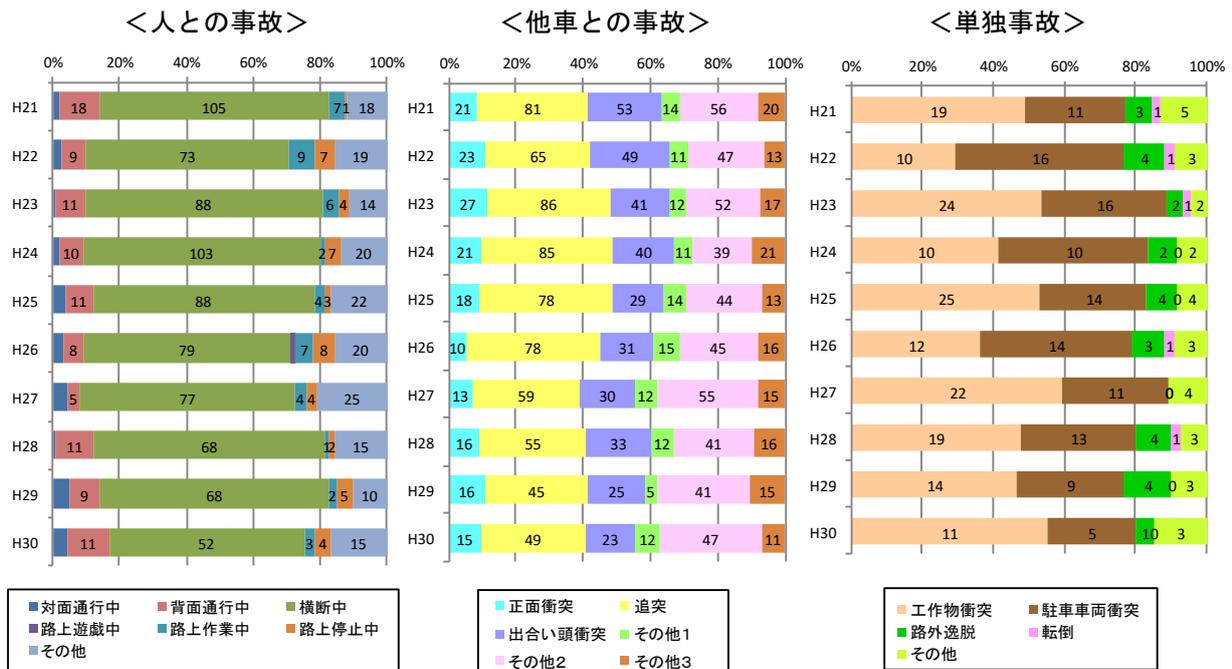
トラックの死亡事故は、他車との事故が約6割を占めている。他車との事故のうち追突が最も多く約3割を占めている。死亡事故全体でみると人との事故の横断中が52件で最も多い。

〔図 82〕 トラックの事故類型別死亡事故件数の割合



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 83〕 トラックの事故類型別死亡事故件数の内訳の推移



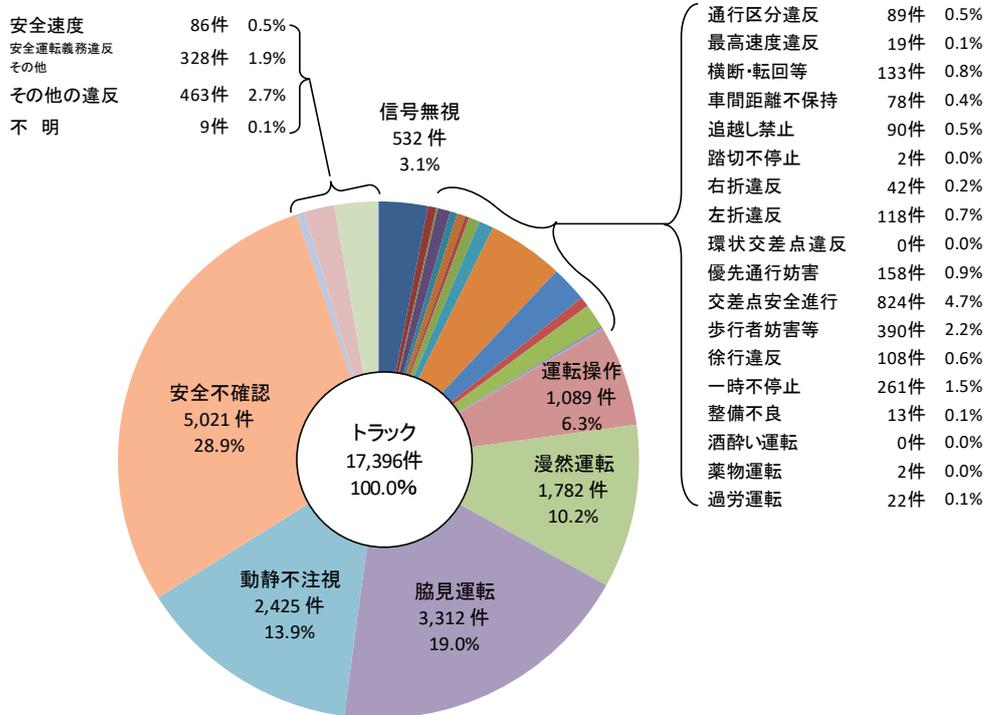
その他1・・・追越・追抜時衝突、進路変更時衝突
 その他2・・・すれ違い時衝突、左折衝突、右折時衝突
 その他3・・・横断時衝突、転回時衝突、後退時衝突、その他

出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(7) トラックの法令違反別の事故件数の割合

トラックの法令違反別の事故件数では、「安全不確認」5,021件（28.9%）、「脇見運転」3,312件（19.0%）、「動静不注視」2,425件（13.9%）などが多い。

〔図 84〕 トラックの法令違反別の事故件数の割合（平成30年）

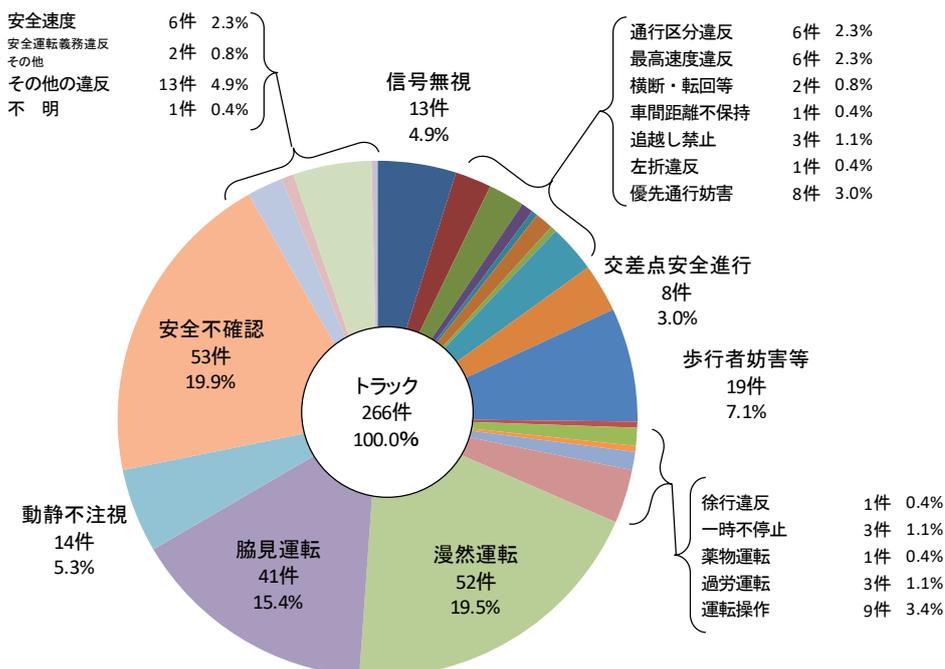


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(8) トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合

トラックの法令違反別の死亡事故件数では、「安全不確認」53件（19.9%）、「漫然運転」52件（19.5%）、「脇見運転」41件（15.4%）などが多い。

〔図 85〕 トラックの法令違反別の死亡事故件数の割合（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(9) トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数

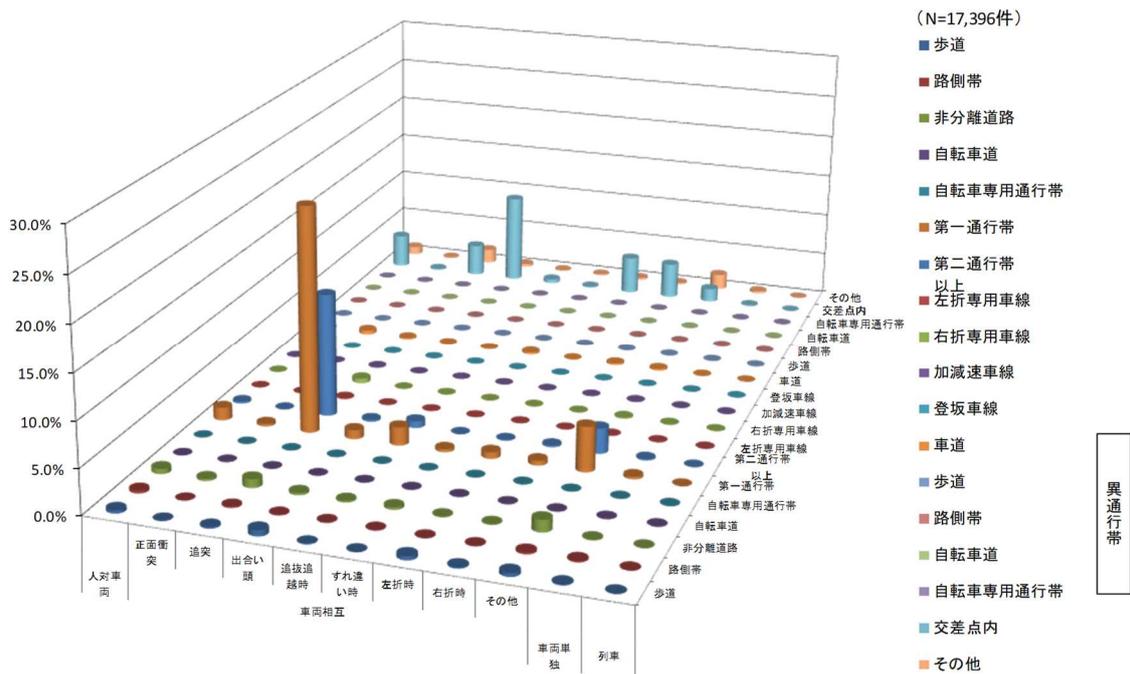
トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数と構成比を表54と図86に、死亡事故件数と構成比を表55と図87に示す。事故件数については、第一通行帯での追突事故4,401件(25.3%)が最も多く、死亡事故件数については、第一通行帯での人対車両事故45件(16.9%)が多くなっている。

[表54] トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数(件) (平成30年)

		トラック											合計
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路(交差点付近を含む)	歩道	61	0	28	114	1	0	76	20	69	12	0	381
	路側帯	52	0	21	8	9	6	5	5	30	24	0	160
	非分離道路	101	40	166	43	29	47	12	9	234	7	0	688
	自転車道	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	3
	第一通行帯	251	51	4,401	175	356	56	127	92	874	47	0	6,430
	第二通行帯以上	36	7	2,424	36	134	4	12	31	494	24	0	3,202
	左折専用車線	0	0	15	0	1	0	0	0	4	0	0	20
	右折専用車線	3	0	92	1	3	0	1	2	18	2	0	122
	加減速車線	0	0	12	0	1	0	0	0	6	0	0	19
	登坂車線	1	0	4	1	1	0	0	0	1	0	0	8
	車道	5	81	29	10	11	40	6	33	30	5	0	250
	異通行帯	歩道	2	0	1	5	0	0	5	4	3	3	0
路側帯		2	0	1	1	0	0	2	1	1	7	0	15
自転車道		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自転車専用通行帯		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内		685	23	655	1,825	82	20	769	729	275	15	0	5,078
その他		163	14	295	59	18	18	40	25	316	44	2	994
合計		1,362	216	8,146	2,278	647	192	1,055	951	2,357	190	2	17,396

出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図86] トラックの事故類型別、衝突地点別事故件数の構成比(%) (平成30年)



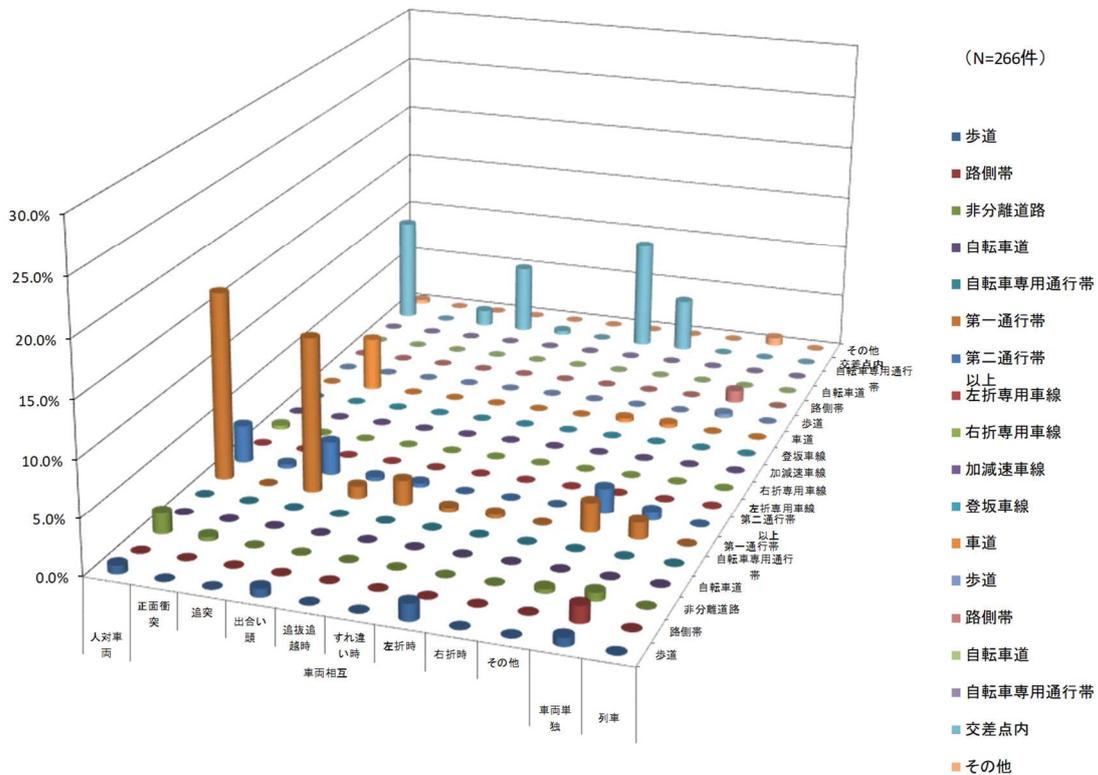
出典：(公財)交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[表 55] トラックの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数（件）（平成30年）

		トラック											
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
単路（交差点付近を含む）	歩道	2	0	0	2	0	0	4	0	0	2	0	10
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
	非分離道路	5	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	9
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	第一通行帯	45	0	37	3	6	1	1	0	7	4	0	104
	第二通行帯以上	9	1	8	1	1	0	0	0	6	2	0	28
	左折専用車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	右折専用車線	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	加減速車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	登坂車線	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異通行帯	車道	0	13	0	0	0	0	0	1	1	0	0	15
	歩道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	路側帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
	自転車道	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自転車専用通行帯	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
交差点内		26	0	4	17	1	0	27	13	0	0	0	88
その他		1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
合計		89	15	49	23	8	1	32	14	15	20	0	266

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

[図 87] トラックの事故類型別、衝突地点別死亡事故件数の構成比（％）（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(10) トラックの事故類型別、行動類型別事故件数

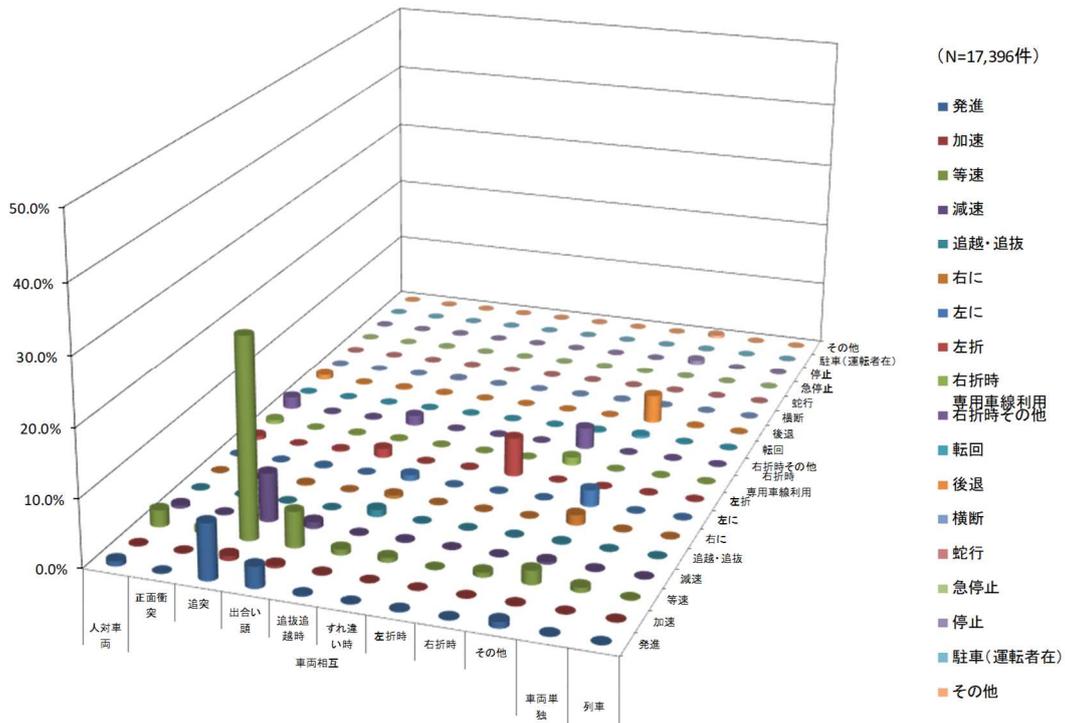
トラックの事故類型別、行動類型別事故件数と構成比を表56と図88に、死亡事故件数と構成比を表57と図89に示す。事故件数は、等速直進時の追突事故5,154件（29.6%）が最も多く、死亡事故件数は、等速直進時の人対車両事故62件（23.3%）が多くなっている。

〔表 56〕 トラックの事故類型別、行動類型別事故件数（件）（平成30年）

		トラック											
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	合計
正面衝突	追突		出合い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		130	5	1,439	554	23	6	24	15	160	15	1	2,372
直進	加速	15	6	126	63	21	2	1	3	16	1	0	254
	等速	433	152	5,154	922	150	119	5	125	361	129	0	7,550
	減速	84	14	1,251	174	10	25	2	2	65	15	0	1,642
	追越・追抜	6	4	4	0	183	4	0	5	21	0	0	227
進路変更	右に	3	12	27	0	84	5	0	4	265	5	0	405
	左に	3	0	26	0	153	4	6	1	434	1	0	628
	左折	109	0	29	239	6	15	1,012	0	0	3	0	1,413
右折時	専用車線利用	107	1	15	16	4	1	0	210	0	1	0	355
	その他	319	12	20	265	8	7	0	552	0	3	0	1,186
	転回	2	1	0	4	3	1	0	19	65	0	0	95
	後退	136	8	20	11	1	1	0	0	749	14	0	940
	横断	1	0	0	27	1	0	4	12	6	0	0	51
	蛇行	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	0	4
	急停止	1	0	14	0	0	0	0	1	1	0	0	17
	停止	5	0	16	1	0	0	0	2	122	1	1	148
	駐車(運転者在)	2	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	13
	その他	6	0	4	2	0	2	1	0	79	2	0	96
	合計	1,362	216	8,146	2,278	647	192	1,055	951	2,357	190	2	17,396

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 88〕 トラックの事故類型別、行動類型別事故件数の構成比（%）（平成 30 年）



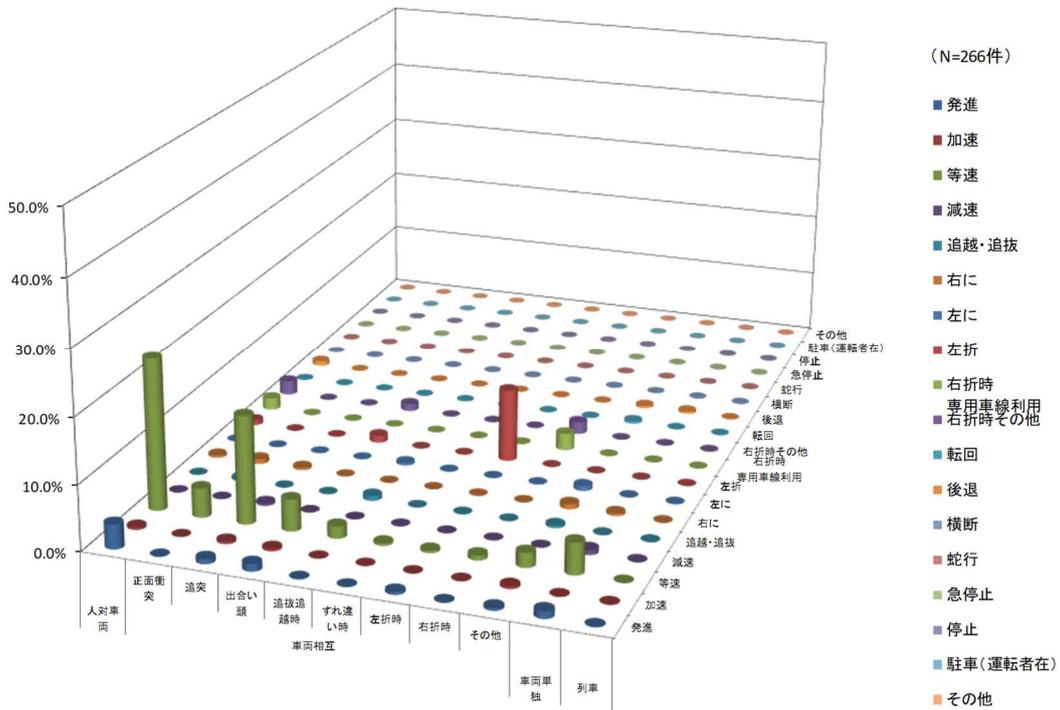
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 57〕 トラックの事故類型別、行動類型別死亡事故件数（件）（平成30年）

		トラック											合計
		合計											
		人対車両	車両相互								車両単独	列車	
正面衝突	追突		出会い頭	追抜追越時	すれ違い時	左折時	右折時	その他					
発進		10	0	2	3	0	0	1	0	1	3	0	20
直進	加速	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	4
	等速	62	12	44	13	5	1	1	2	6	13	0	159
	減速	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3
追越・追抜		0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	4
進路変更	右に	1	2	1	0	0	0	0	0	2	1	0	7
	左に	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	3
左折		2	0	0	3	0	0	30	0	0	0	0	35
右折時	専用車線利用	5	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	12
	その他	6	0	0	3	0	0	0	5	0	0	0	14
転回		0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
後退		2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4
横断		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
蛇行		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
急停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
停止		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
駐車(運転者在)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		89	15	49	23	8	1	32	14	15	20	0	266

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 89〕 トラックの事故類型別、行動類型別死亡事故件数の構成比（％）（平成30年）

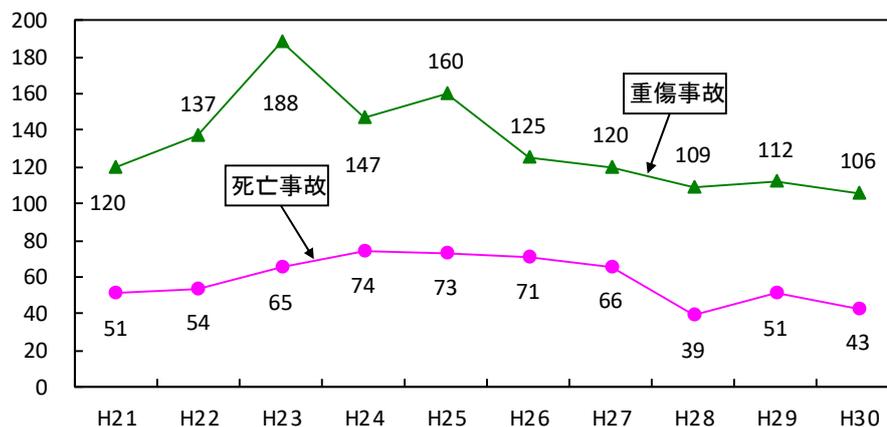


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(11) トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移

トラックの高速道路における平成30年の死亡事故は43件で前年より8件、重傷事故は106件で前年より6件減少している。

[図 90] トラックの高速道路における死亡・重傷事故件数の推移
(件)



出典：(公財) 交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(12) トラックの追突事故件数、死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布

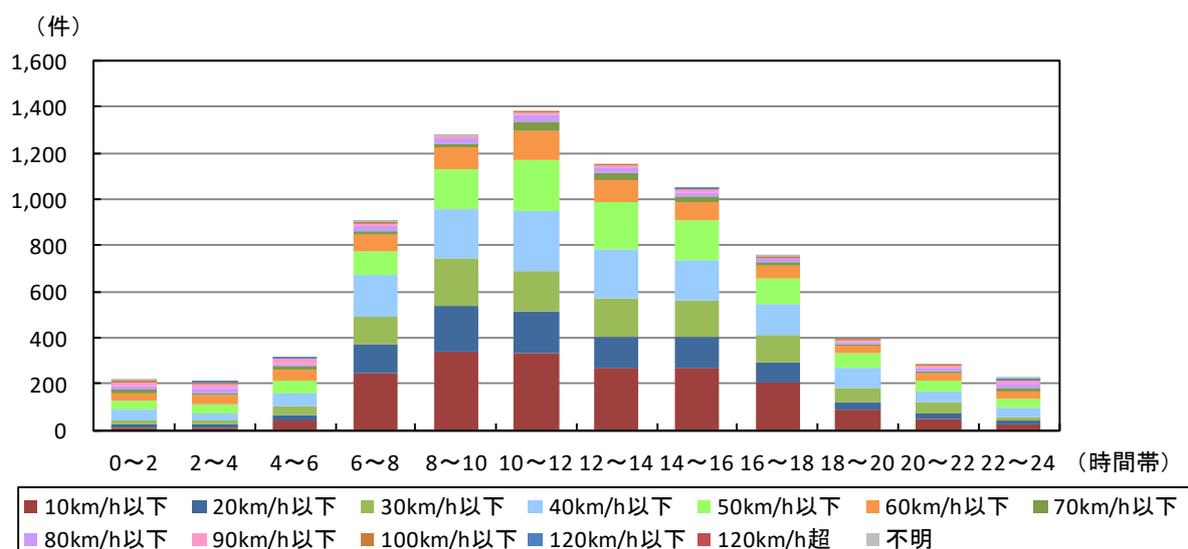
時間帯別危険認知速度別追突事故件数をみると、時間帯は10時～11時台が最も多く1,379件（16.9%）、速度は10km/h以下が最も多く1,901件（23.3%）、次いで30km/h～40km/h以下1,484件（18.2%）、40km/h～50km/h以下1,260件（15.5%）となっている。死亡事故件数の時間帯では、0時～1時台、10時～11時台、16時～17時台が最も多く8件（16.3%）、速度では70km/h～80km/h以下が最も多く15件（30.6%）となっており、危険認知速度が高めとなっている。

〔表 58〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成30年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	11	13	41	246	344	334	271	268	204	90	52	27	1,901
20km/h以下	16	14	27	127	197	178	132	135	94	34	23	15	992
30km/h以下	18	12	34	121	200	178	171	163	112	58	42	19	1,128
40km/h以下	41	34	61	176	218	262	207	168	139	91	52	35	1,484
50km/h以下	43	41	49	108	169	215	209	178	105	58	43	42	1,260
60km/h以下	29	37	48	65	97	129	94	79	55	36	32	28	729
70km/h以下	16	10	18	23	19	41	29	20	17	6	14	14	227
80km/h以下	17	26	12	18	20	29	26	21	18	10	12	17	226
90km/h以下	18	14	17	9	9	12	5	10	3	7	11	16	131
100km/h以下	9	4	5	5	2	1	8	3	2	1	3	6	49
120km/h以下	0	1	2	4	0	0	0	1	1	0	0	1	10
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	1	0	0	3	1	0	0	0	3	0	0	1	9
合計	219	206	314	905	1,276	1,379	1,152	1,046	753	391	284	221	8,146

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 91〕 トラックの追突事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（平成30年）



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

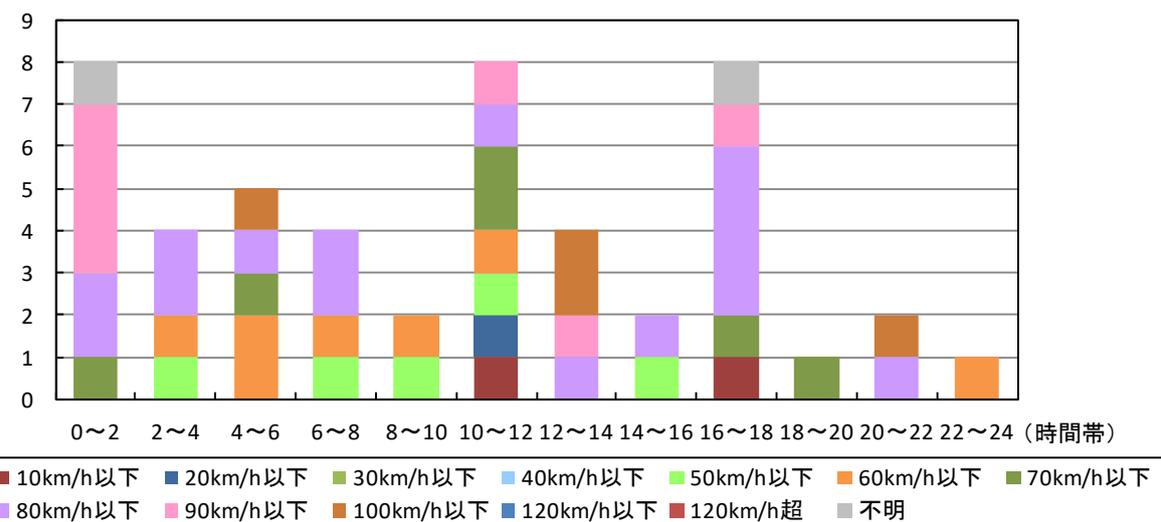
〔表 59〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（件）（平成30年）

危険認知速度	時 間 帯												合計
	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	
10km/h以下	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
20km/h以下	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
30km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
40km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50km/h以下	0	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	5
60km/h以下	0	1	2	1	1	1	0	0	0	0	0	1	7
70km/h以下	1	0	1	0	0	2	0	0	1	1	0	0	6
80km/h以下	2	2	1	2	0	1	1	1	4	0	1	0	15
90km/h以下	4	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	7
100km/h以下	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	1	0	4
120km/h以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
120km/h超	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
合計	8	4	5	4	2	8	4	2	8	1	2	1	49

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図 92〕 トラックの追突死亡事故件数の危険認知速度別発生時間帯分布（平成30年）

（件）

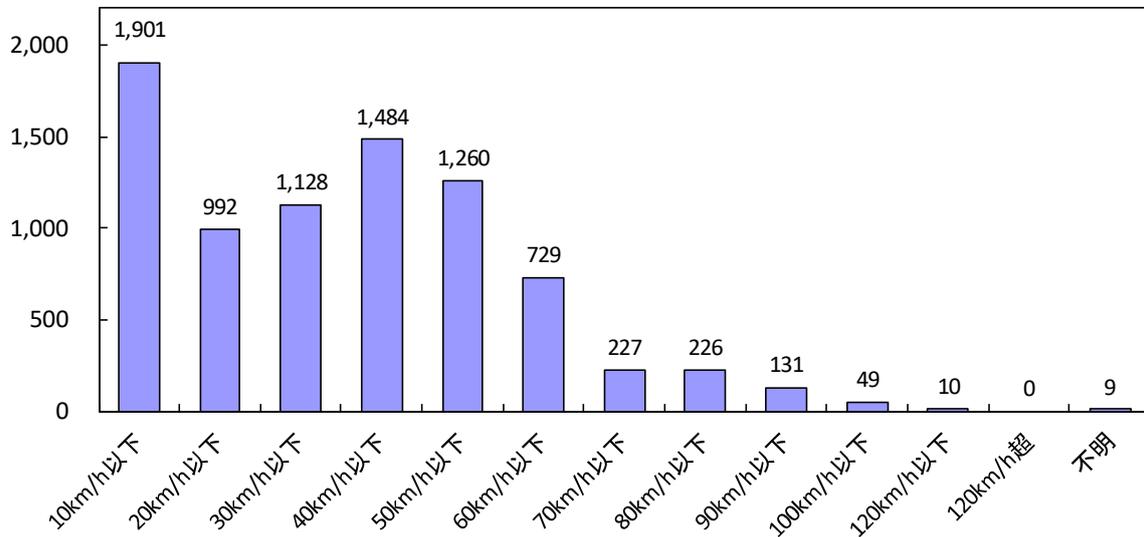


出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

トラックの追突事故における危険認知速度をみると、追突死亡事故は事故全体に比べて危険認知速度が高くなっている。

〔図93〕 トラックの危険認知速度別の追突事故件数（平成30年）

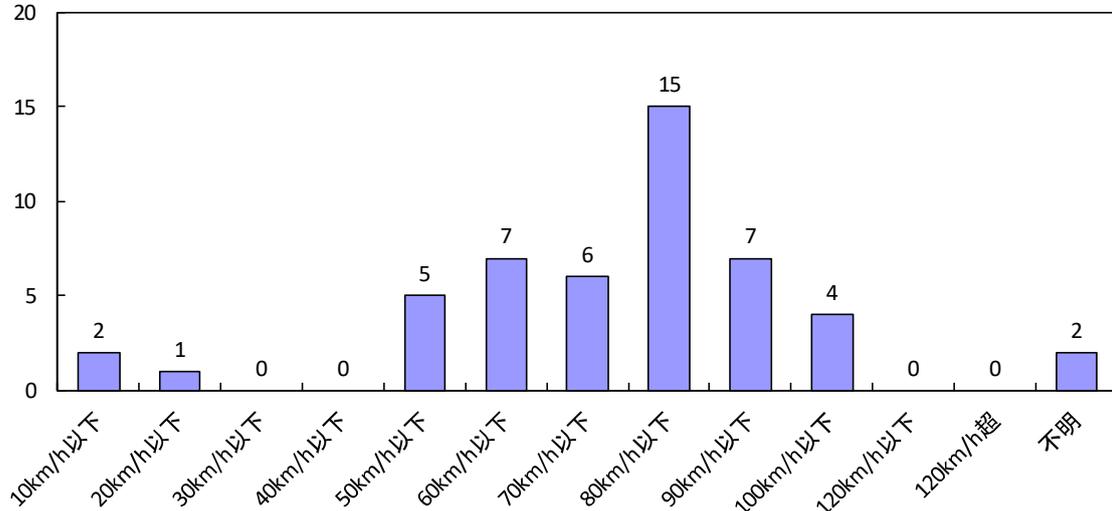
(件)



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔図94〕 トラックの危険認知速度別の追突死亡事故件数（平成30年）

(件)



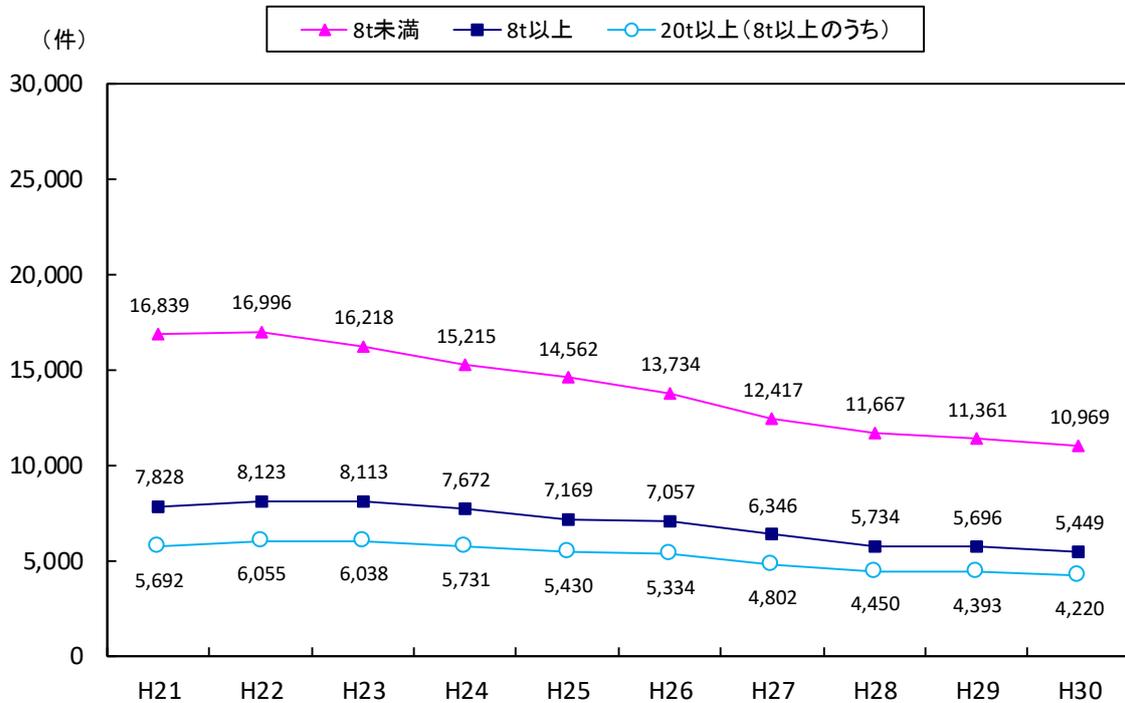
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(13) トラックの車両総重量別の交通事故件数の推移

① 交通事故件数

トラックの事故における交通事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満、8トン以上ともに減少傾向となっている。

〔図 95〕 トラックの車両総重量別交通事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 60〕 車両総重量別交通事故件数の推移（件）

区分 年	交通事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H21	16,839	7,828	5,692	24,667
H22	16,996	8,123	6,055	25,119
H23	16,218	8,113	6,038	24,331
H24	15,215	7,672	5,731	22,887
H25	14,562	7,169	5,430	21,731
H26	13,734	7,057	5,334	20,791
H27	12,417	6,346	4,802	18,763
H28	11,667	5,734	4,450	17,401
H29	11,361	5,696	4,393	17,057
H30	10,969	5,449	4,220	16,418

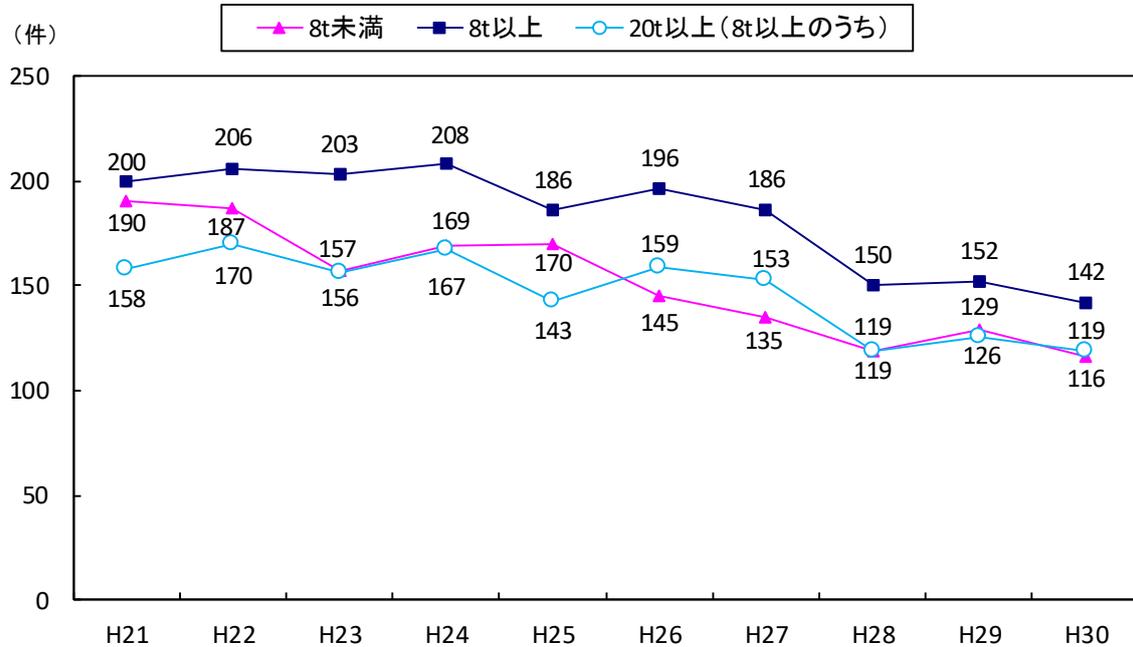
注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

② 死亡事故件数

トラックの事故における死亡事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満、8トン以上ともに、平成30年は前年に比べて減少している。

〔図 96〕 トラックの車両総重量別死亡事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 61〕 車両総重量別死亡事故件数の推移（件）

区分 年	死亡事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H21	190	200	158	390
H22	187	206	170	393
H23	157	203	156	360
H24	169	208	167	377
H25	170	186	143	356
H26	145	196	159	341
H27	135	186	153	321
H28	119	150	119	269
H29	129	152	126	281
H30	116	142	119	258

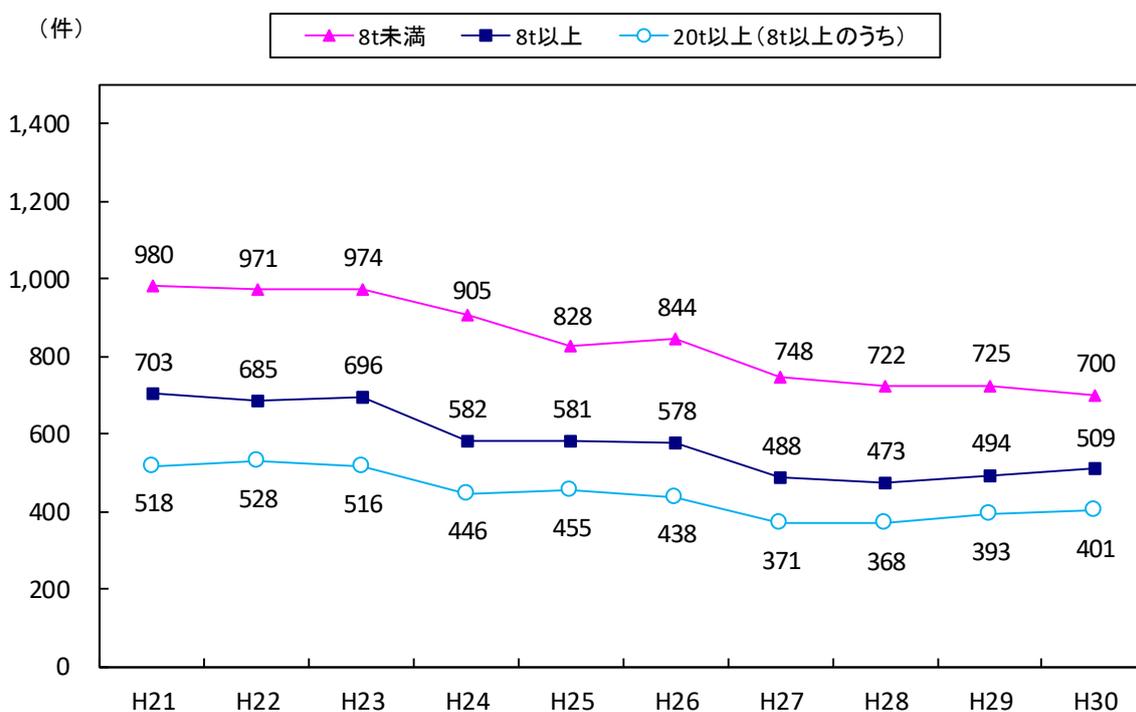
注：合計は車両総重量不明を除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

③ 重傷事故件数

トラックの事故における重傷事故件数の推移を車両総重量別にみると、8トン未満の車両が多くなっている。前年に比べ8トン未満の車両は減少、8トン以上、20トン以上の車両は増加している。

〔図 97〕 トラックの車両総重量別重傷事故件数の推移



出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

〔表 62〕 車両総重量別重傷事故件数の推移（件）

区分 年	重傷事故件数			合計
	8t未満	8t以上	うち20t以上	
H21	980	703	518	1,683
H22	971	685	528	1,656
H23	974	696	516	1,670
H24	905	582	446	1,487
H25	828	581	455	1,409
H26	844	578	438	1,422
H27	748	488	371	1,236
H28	722	473	368	1,195
H29	725	494	393	1,219
H30	700	509	401	1,209

注：合計は車両総重量不明を除く

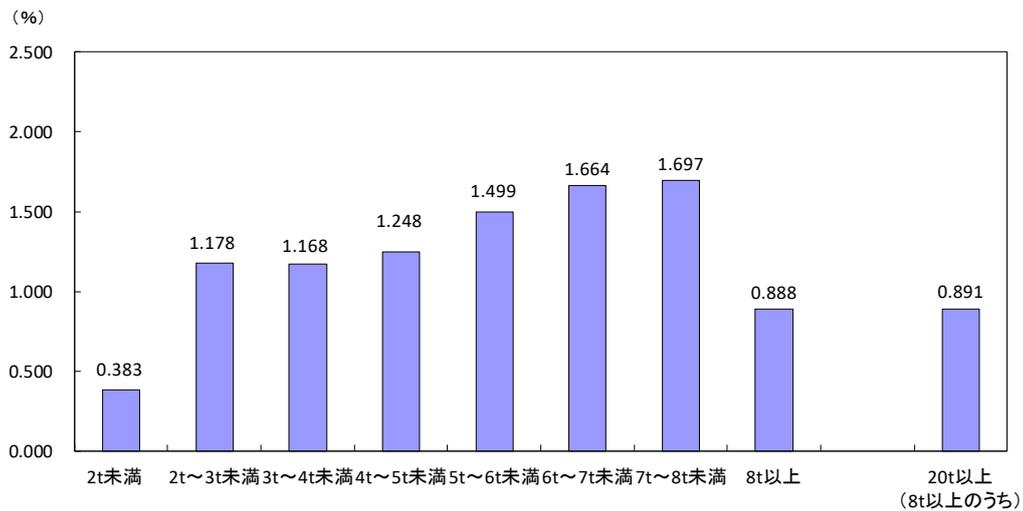
出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」

(14) トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率

① 交通事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの交通事故発生率は、前年同様7トン～8トン未満が最も高い。

〔図 98〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故発生率（平成30年）



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 63〕 トラックの車両総重量別車両数あたり交通事故件数、車両数、発生率（平成30年）

	事故件数(件)	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	33	8,615	0.383%
2t～3t未満	122	10,357	1.178%
3t～4t未満	414	35,438	1.168%
4t～5t未満	1,217	97,486	1.248%
5t～6t未満	1,117	74,505	1.499%
6t～7t未満	781	46,935	1.664%
7t～8t未満	4,118	242,658	1.697%
8t以上	5,449	613,296	0.888%
うち20t以上	4,220	473,410	0.891%

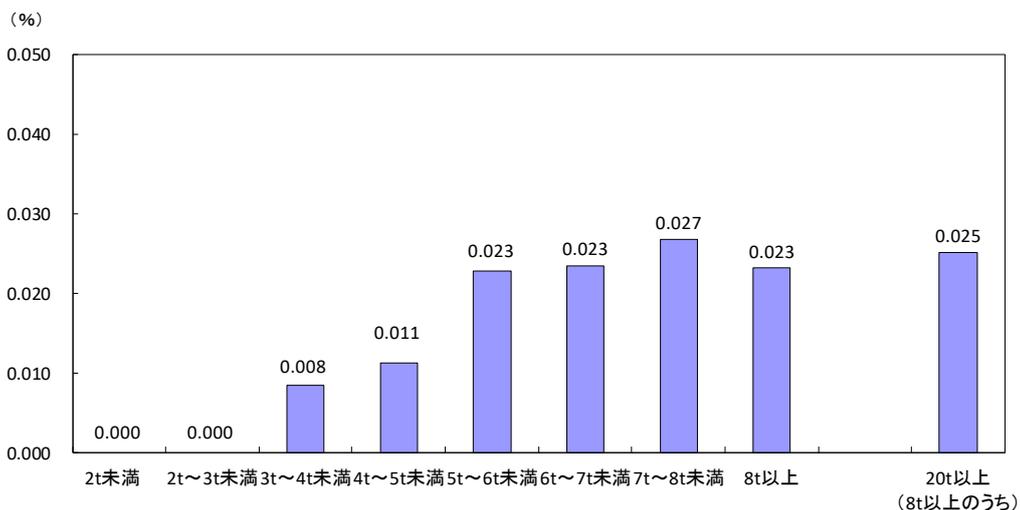
注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

② 死亡事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの死亡事故発生率は、7トン～8トン未満が最も高い。5トン～6トン未満の件数が前年の10件から17件へ増加し、発生率も0.013%から0.023%と高くなっている。

〔図 99〕 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故発生率（平成30年）



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表 64〕 トラックの車両総重量別車両数あたり死亡事故件数、車両数、発生率（平成30年）

	死亡事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	0	8,615	0.000%
2t～3t未満	0	10,357	0.000%
3t～4t未満	3	35,438	0.008%
4t～5t未満	11	97,486	0.011%
5t～6t未満	17	74,505	0.023%
6t～7t未満	11	46,935	0.023%
7t～8t未満	65	242,658	0.027%
8t以上	142	613,296	0.023%
うち20t以上	119	473,410	0.025%

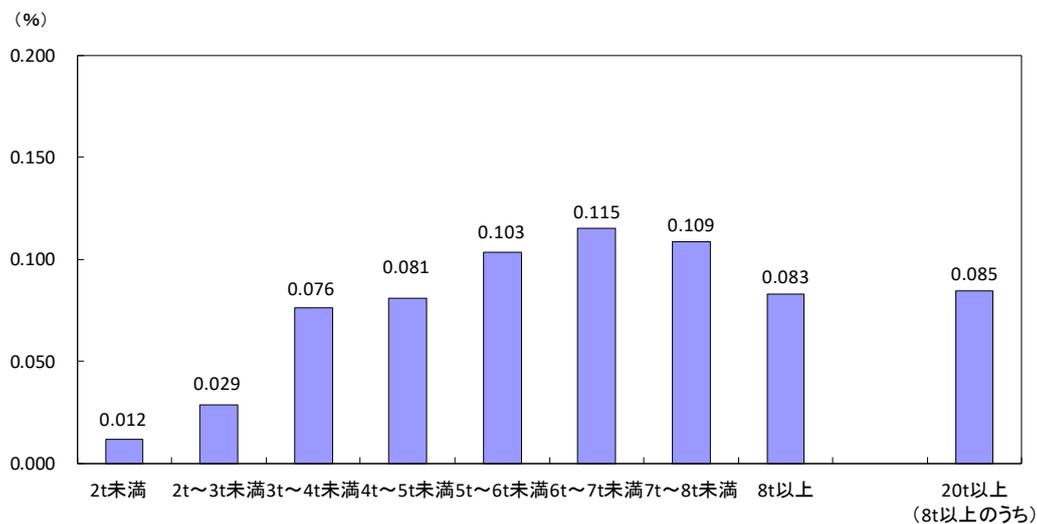
注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

③ 重傷事故発生率

トラックの車両総重量別車両数あたりの重傷事故発生率は、6トン～7トン未満が最も高い。

〔図100〕 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故発生率（平成30年）



注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

〔表65〕 トラックの車両総重量別車両数あたり重傷事故件数、車両数、発生率（平成30年）

	重傷事故件数	車両数(事業用)(両)	発生率
2t未満	1	8,615	0.012%
2t～3t未満	3	10,357	0.029%
3t～4t未満	27	35,438	0.076%
4t～5t未満	79	97,486	0.081%
5t～6t未満	77	74,505	0.103%
6t～7t未満	54	46,935	0.115%
7t～8t未満	264	242,658	0.109%
8t以上	509	613,296	0.083%
うち20t以上	401	473,410	0.085%

注：軽トラックを除く

出典：（公財）交通事故総合分析センター「事業用自動車の交通事故統計」
（一財）自動車検査登録情報協会「自動車保有車両数統計書」

5. まとめ

平成 30 年中に全国で発生した事業用自動車の交通事故件数は 30,818 件で、事業用自動車での交通事故死者数は 337 人であった。

また、平成 30 年中の各業態における交通事故の特徴は以下のとおりであった。

○乗合バス

平成 30 年中に発生した乗合バスによる人身事故 1,141 件のうち、

- ・車内事故が最も多く全体の 30.9% (352 件)。このうち、39.2% (138 件) が発進時の事故となっている。また、車内事故の負傷者 382 人のうち、半数弱 (178 人) が高齢者 (65 歳以上) であり、全体では女性が男性の 3 倍程度となっている (男性 88 人、女性 294 人)。

また、平成 30 年中に発生した乗合バスによる死亡事故 13 件のうち、

- ・人対車両が最も多く全体の 53.8% (7 件) であった。

○貸切バス

平成 30 年中に発生した貸切バスによる人身事故 308 件のうち、

- ・追突事故が最も多く全体の 33.8% (104 件)。このうち、発生地点としては、第一通行帯が最も多く追突事故の 44.2% (46 件) となり、次に第二通行帯以上が 29.8% (31 件) となっている。

また、平成 30 年中に発生した貸切バスによる死亡事故は 3 件であり、

- ・人対車両 1 件、出合い頭 1 件、追抜追越時 1 件となっている。

○タクシー

平成 30 年中に発生したタクシーによる人身事故 11,954 件のうち、

- ・追突事故が最も多く全体の 21.7% (2,596 件)。このうち、第一通行帯での事故が多く、追突事故の 47.0% (1,220 件) を占める。
- ・次いで、出合い頭の事故が多く全体の 20.5% (2,452 件)。このうち、交差点内の事故が多く、出合い頭の事故の 84.5% (2,073 件) を占める。
- ・空車時における事故が、76.1% (9,096 件) を占める。

また、平成 30 年中に発生したタクシーによる死亡事故 46 件のうち、

- ・人対車両が最も多く全体の 78.3% (36 件)。このうち、直進等速の人対車両が多く 83.3% (30 件) となっており、発生地点では、第一通行帯 52.8% (19 件)、交差点内 19.4% (7 件) での事故が多い。

○トラック

平成 30 年中に発生したトラックによる人身事故 17,396 件のうち、

- ・追突事故が最も多く全体の 46.8% (8,146 件)。このうち、6 時～18 時の昼間の時間での追突事故が多く、全体の約 8 割 (6,511 件) を占め、ピークは 10 時～12 時で全体の 16.9% (1,379 件)。また、10km/h 以下の低速での追突事故が最も多く追突事故全体の 23.3% (1,901 件)、次いで 30km/h～40km/h の中速での事故が 18.2% (1,484 件)。発生地点では、第一通行帯での追突事故が多く、追突事故全体の 54.0% (4,401 件)。
- ・次いで出合い頭の事故も多く、全体の 13.1% (2,278 件)。このうち、交差点内での事故が多く、出合い頭の事故の 80.1% (1,825 件) を占める。

また、平成 30 年中に発生したトラックによる死亡事故 266 件のうち、

- ・車両相互が最も多く全体の 59.0% (157 件)。このうち、追突事故が 31.2% (49 件)、次に左折時が 20.4% (32 件)、出合い頭が 14.6% (23 件) となっている。
- ・人対車両は全体の 33.5% (89 件)。このうち、発生地点としては、第一通行帯が最も多く人対車両事故の 50.6% (45 件) となり、次に交差点内が 29.2% (26 件) となっている。

